

## 日本国憲法

大嶽 浩

### 【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の事情や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

### 【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 民主主義と人権

初谷良彦

### 【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業計画】

- 第1回 民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
- 第2回 近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
- 第3回 現代民主主義の問題点
- 第4回 国家の正統性について
- 第5回 国家と社会契約の思想
- 第6回 議会制民主主義の歴史
- 第7回 議院内閣制と大統領制
- 第8回 多数決原理と民主主義
- 第9回 代議制民主主義と選挙制度
- 第10回 現代の民主主義体制
- 第11回 人権総論
- 第12回 人間の尊厳と人権
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 少数者の人権
- 第15回 平等権

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

概説 デモクラシーと国家（初谷良彦他 成文堂）

### 【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

## 日本国憲法

初谷良彦

### 【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1回 近代国家と憲法
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 人権の歴史
- 第5回 人権の内容・享有主体
- 第6回 人権規定の効力
- 第7回 生命・自由・幸福追求権
- 第8回 法の下での平等
- 第9回 信教の自由と政教分離
- 第10回 表現の自由
- 第11回 人身の自由と刑事手続
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 司法制度
- 第14回 地方自治
- 第15回 期末試験

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 民主主義と人権

本 秀紀

### 【授業の概要】

日本国憲法は人権と民主主義を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権をまもる法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業計画】

新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目から適宜選択する予定だが、そのときどきのトピックによって変更もありうる。

- 1 はじめに：「民主主義と人権」って？
- 2 企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
- 3 女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
- 4 マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
- 5 子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・児童虐待
- 6 医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
- 7 外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
- 8 平和と人権・民主主義：有事法制、イラクへの自衛隊派遣、憲法改正
- 9 ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
- 10 政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、政党法制

### 【評価方法】

学期末の筆記試験（受講者数によってはレポート）を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

### 【参考文献・資料】

テキストブック現代の人権〔第3版〕（川人博編著 日本評論社 2004年）  
人権ウォッチング（前田朗 凱風社 2000年）  
ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第4版〕（上田正昭編 明石書店 2004年）  
それぞれの人権〔第2版〕（憲法教育研究会編 法律文化社 2002年）  
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

## 哲学的人間論

高畑祐人

### 【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

### 【授業計画】

今日の環境問題は、人間と自然の関わり方の問題である。つまり、近代以降、技術の力で自然を自分たちのために改造し続けて来たことの問題である。そして、自然への関わり方は、「自然観」によって規定されている。だから、自然との関わり方・自然観は、人間の生き方を反映している。自然との関わり方を考え直すことが、人間の善い生き方を考えることにもなるのである。ところで近代的な自然科学的な自然観の以前に自然観の長い歴史が知的遺産として横たわっている。そこから学ばない手はない。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧し、「自然とのよりよい関わり方=人間のより善い生き方」の本質的要素を考えてみたい。

1. なぜ自然の哲学か
2. 神話的自然観—ギリシャ神話におけるプロメテウス観の移り変わり—
3. ソクラテス以前の自然哲学—タレスからアナクサゴラスまで—
4. ソフィストとソクラテス・プラトン
5. アリストテレス
6. デカルト
7. カント
8. シェリングとロマン主義的自然観
9. 進化論的自然観

### 【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

西洋哲学史 上・下 (シュヴェーグラー 岩波文庫)  
西洋哲学史 (岩崎武雄 有斐閣)  
哲学の原風景 (荻野弘之 NHKライブラリー)  
野生の歌が聞こえる (レオポルド 講談社学術文庫)  
エマソン論文集 上 (エマソン 岩波文庫)

## 生命倫理学

加藤太喜子

### 【授業の概要】

生命科学の進歩と発達に伴い、倫理的・法的・社会的視点の重要性が指摘されるようになった。新旧さまざまな問題を挙げながら、依拠する規範のあり方をともに考えたい。

### 【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

### 【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する

### 【参考文献・資料】

優生学と人間社会 (米本昌平他著 講談社現代新書)  
クローン人間 (粥川準二著 光文社新書)

## 現代社会と倫理

大野波矢登

### 【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

### 【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をすべきかを考える。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理學理論の応用 (道徳的意思決定の方法)
4. 社会の安全性と科学技術者の責任  
クローン技術はどのように応用されるべきか?
5. 環境倫理の主張  
自然保護は何をめざしているのか?
6. インターネット時代の倫理  
知的財産は誰のものか?
7. 内部告発と社会の浄化  
内部告発は行なうべきか?

### 【評価方法】

小レポート (3・4回授業時に書いてもらう予定) と期末レポートの成績によって評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座 (新田孝彦著 世界思想社)  
先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境 (加藤尚武著 NHKライブラリー)  
環境と倫理 自然と人間の共生を求めて (加藤尚武編 有斐閣アルマ)

## ジェンダーと社会 I

國信潤子 星山幸子 佐藤光 林かぐみ 生江明

### 【授業の概要】

この講義は、まずジェンダーとは何かについて解説し、それらが日本社会において、また開発途上国においてどのように現象化しているかを紹介するオムニバス講座である。5名の開発協力の現場で活躍する講師によって日本、フィリピン、トルコ、バングラデシュ、ネパールなどでの現場の開発協力活動を基礎にジェンダー関係の多様性と開発協力におけるジェンダーに敏感な視点とは何かを紹介する。持続可能な開発、基本的生活ニーズの確保、参加型開発、地域住民の意識化など、近年の開発論の理論的展開をもとにジェンダー関係の変容を考察する。

### 【授業計画】

まず、本講座のコーディネーターである國信 (本学教授) がジェンダーとは何か、日本社会におけるジェンダー関係の実態、国際開発におけるジェンダー視点の展開について講じる。次に生江明 (日本福祉大学教授) による国際統計にみるジェンダー格差の意味を参加型小グループ討議で読み取り、発表、討議する。第三番目の講師は星山幸子 (金城学院大学講師) によってトルコ南東部アナトリア地方の綿摘み女性労働者の生活実態とイスラム農村社会にみるジェンダー規範を紹介する。第四番目の講師はアジア保健研修所 (AHI) の佐藤光医師および、林かぐみ研究員によって愛知県日進市にある国際的な NGO である AHI の活動、つまりアジア諸国で実施されている保健リーダーの参加型学習による医療・保健、ジェンダー平等化の促進活動を紹介する。

各講師が3・4回ずつ講義を行うリレー講義である。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

### 【評価方法】

期末のレポート、出席状況、履修態度、感想カード内容などの総合評価による。

### 【テキスト】

資料配布

### 【参考文献・資料】

開発とジェンダー (田中他 国際開発事業団出版 2001年)

## ジェンダーと社会II

中島美幸 山下智恵子

### 【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、〈女/男〉の規範がどのようにテキストにおりこまれているかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

(中島美幸兼任講師) 「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。  
(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 〈ことば〉とジェンダー
  - 第3回 〈書く女〉の登場(1)
  - 第4回 〈書く女〉の登場(2)
  - 第5回 女性を描く男性作家のまなざし(1)
  - 第6回 女性を描く男性作家のまなざし(2)
  - 第7回 母と娘の物語(1)
  - 第8回 母と娘の物語(2)
  - 第9回 家族の物語
  - 第10回 文学の政治性
  - 第11回 文学と映像文化
  - 第12回 まとめ
- \*内2回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

### 【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

### 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

## 女性学・男性学

竹信三恵子

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識やその内面化が日本の戦後の政策や働き方に及ぼした影響を、新聞記者としての取材の成果やマスメディアの検証から明らかにし、これらが生んだ社会病理をどう克服するかを考える。

### 【授業計画】

1. 戦後経済政策を男女分業はどう支えたか〜高度経済成長からバブル崩壊まで
2. 日本の男女分業型経済と海外の動き〜男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワークライフバランス」
3. 男女分業型経済の浸透とマスメディアの役割〜戦後経済政策の背骨となった男女分業主義に新聞報道はどう関わったかを検証
4. 男女分業型経済の乗り越え〜マスメディア報道からは見えにくい現実の男女関係の変化とこれに見合った新しい働き方の展望

### 【評価方法】

出席状況、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

### 【テキスト】

『家事の値段』とは何か  
(久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年)

### 【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて〜新聞女性学入門(田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年)、ワークシェアリングの実像〜雇用の分配か、分断か(竹信三恵子著 岩波書店 2002年)

## 女性学・男性学

中島美幸

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 女性学・男性学の誕生
- 第3回 男女をめぐる国際比較
- 第4回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第5回 恋愛と結婚
- 第6回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第7回 女性と労働
- 第8回 男性と労働
- 第9回 家族をめぐる諸問題(1)
- 第10回 家族をめぐる諸問題(2)
- 第11回 将来展望・男女のライフスタイル
- 第12回 まとめ

### 【評価方法】

毎回の授業の感想と中間レポート(2〜3回)の内容、さらに学期末テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

## 大衆文化論

鈴木 互

### 【授業の概要】

大衆に愛され、大衆に浸透した文化について構造的に把握するように試みたい。そのためには、戦後若者世代かどのような動向をしたかを確認する。次いで各世代に共通して見られる「消費」というキーワードを軸に、大衆文化を支える消費社会のあり方を探る。最終的には、21世紀というポスト・モダンの社会でどう生きるかに迫りたい。

### 【授業計画】

- 1 戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
  - 1:1 団塊の世代(1965〜1975)
  - 1:2 新人類(1980年代)
  - 1:3 団塊ジュニア(1990年代)
  - 1:4 新人類ジュニア(2005〜2015)
- 2 大衆文化を支える消費社会を分析する
  - 2:1 現状認識
  - 2:2 『消費社会の神話と構造』(ボードリヤール)
  - 2:3 人間の本源的な欲求としての消費(G・バタイユ)
- 3 モダンの脱構築=21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

### 【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

## 暮らしの法律

辻田芳幸

### 【授業の概要】

私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大幅に儲けた場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品（いわゆるコピー商品）はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

### 【授業計画】

- 第1回 導入（情報社会と知的財産・契約）
- 第2回 特許というシステム
- 第3回 著作権というシステム
- 第4回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第5回 インターネット上の名誉毀損
- 第6回 オンラインショッピングと契約法
- 第7回 オンラインショッピングと契約法
- 第8回 インターネット犯罪
- 第9回 著作権ビジネス
- 第10～12回 その他の問題点

### 【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

## 文化人類学

三木 誠

### 【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

### 【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 独特の民族文化
5. 宗教と信仰
6. 民族と国家

### 【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

### 【テキスト】

指定せず。

### 【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

## 文化人類学

藤井麻湖

### 【授業の概要】

文化人類学は「人間社会をトータルに捉えて認識しようとする学」である。そこには、人間社会におけるあらゆる領域が含まれる。民族、親族組織、政治、経済、宗教、医療、音楽等々あらゆるものが含まれる。本講義では、伝統的な文化人類学で蓄積された興味深い成果を中心に解説する。

### 【授業計画】

1. 文化人類学の基本
  - (1) 文化人類学の起源
  - (2) 文化人類学の方法論
2. 集団が構成される原理
  - (1) 親族組織と親族名称
  - (2) 縁組み理論
  - (3) クラとポトラッチ
  - (4) リネージ・システム
3. 集団が維持される原理
  - (1) 衣
  - (2) 食
  - (3) 住
  - (4) 儀礼
  - (5) 他界観

### 【評価方法】

定期試験により評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

文化人類学キーワード（山下晋司・船曳健夫編 有斐閣双書）

## 文化人類学

水口千里

### 【授業の概要】

人間の生活や行動様式は、帰属する社会の固有の文化から多くの影響を受けている。本講義では、さまざまな分野にわたる国内外の事例を取り上げ、その文化的背景を学ぶ。

### 【授業計画】

講義形式による。デジタル画像、VTRなど視聴覚教材を併用する。

1. 概論 文化人類学の調査、研究方法
2. 精神文化をひも解く  
(異界からのメッセージ/願い・占い・おまじない/幽霊と妖怪)
3. 食文化を読む  
(飲酒と宴会/家庭食と外食)
4. 贈答文化を探る  
(ギフトとプレゼント/贈与交換)
5. フィールドワークを知る  
(ニッポンと日本/ヨーロッパの日本コレクション)
6. 総論 異文化理解と自文化理解

### 【評価方法】

単位認定試験（論述形式）で評価する。講義時間中に小レポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映する。

### 【テキスト】

なし。プリント配布。

### 【参考文献・資料】

参考文献リストを講義時間中に配布。

## 比較文化論

文 嬉眞

### 【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

### 【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

### 【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

### 【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国際政治論

草間秀三郎

### 【授業の概要】

現代がバックス・アメリカーナ（アメリカ中心の世界平和）であることを重視して、建国以来のアメリカ外交の理念と展開を概観し、第一次大戦、第二次大戦、米ソ冷戦の各諸問題を学習する。国連とPKOの諸問題、EUやAPECなどの地域国際協力組織をも学習する。

### 【授業計画】

- 1) 歴代アメリカ大統領の外交理念と特徴
- 2) 第一次世界大戦（1）勃発の原因とアメリカの中立
- 3) 第一次世界大戦（2）アメリカの参戦とロシア革命
- 4) ウィルソン大統領の14か条の提案とパリ講和会議
- 5) 両大戦間の国際政治・ワシントン会議・条約
- 6) 第二次世界大戦（1）日独の動きと大西洋憲章
- 7) 第二次世界大戦（2）日米戦争と捕虜の問題
- 8) 第二次世界大戦（3）連合国の対日占領政策
- 9) 米ソ冷戦 トルーマン・ドクトリンと日米安保条約
- 10) 日米関係 国連と日米安保体制
- 11) 国連とPKOの諸問題（中東を重視して）
- 12) 地域的国際協力組織（EU,APEC, ASEAN）

### 【評価方法】

期末試験（筆記）による。毎回の出席を重視して欠席回数が多い場合には受験資格を失う。

### 【テキスト】

なし。毎回プリントを配布する。

## 比較文化論

星山幸子

### 【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

とくに、イスラームの文化を事例として取り上げ、異文化に対する視座について検証する。この授業をととして、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

### 【授業計画】

1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. 南北問題と発展途上国の文化
5. 人の移動と異文化接触
6. グローバル化とローカル化
7. イスラームの文化
8. イスラームとジェンダー
9. 文化摩擦と国際問題
10. 中央アジアの人びと
11. トルコの人びとの暮らしと文化
12. 日本社会における異文化交流

### 【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 30%  
期末試験 30%  
期末レポート 40%

### 【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業のなかで参考文献リストを配布する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

## 国際政治論

瀬戸裕之

### 【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対立の時代から、相互依存の時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域に関する紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

### 【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 国連と安全保障体制
6. 南北問題と開発
7. 地球環境問題
8. 地域紛争とテロリズム
9. アジアにおける日本の戦争
10. 戦後日本と安全保障
11. アジアと日本の国際協力

### 【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

## 国際交流論

松本一子

### 【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNGOやNPOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

### 【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
  - ・自治体と国際交流
  - ・地域の国際化と多文化共生
  - ・地球市民教育
  - ・ネットワークの形成と活用
4. 実践国際交流
  - ・先進的組織運営のさまざまな事例

### 【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

### 【テキスト】

国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著 明石書店 2004年）

### 【参考文献・資料】

実践国際交流（国際交流基金・大阪国際交流センター編 1997年）  
草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）

## 初めての外国語1（ドイツ語）

藤井たぎる

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在（および未来）のことがらに関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習（ビンゴ・ゲームつき）
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオやCDを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。このクラスでは、受講生のみさんは毎回、ペアを組んでもらいます。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないといけません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

### 【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価する。

### 【テキスト】

行ってらっしゃい！（西村祐子/Rudolf Petrik 著 朝日出版社）

## 初めての外国語2（フランス語）

清水ベアトリックス

### 【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？イラストや写真が多い教科書の「はじめてのパリ」が首都のパリでの様々な発見への旅先案内人になりながら実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいます。会話とコミュニケーションを中心にフランスの慣習を述べながらすぐ使えるフランス語を楽しく学びます。

### 【授業計画】

毎回、担当教員（フランス人）が文法と語彙のメインポイントをしっかりと説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。

様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

### 【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

### 【テキスト】

*Partir pour Paris*（はじめてのパリ）（大津俊克・瀧川広子・藤井宏尚 著 朝日出版社）

## 初めての外国語3（ロシア語）

杉本一直

### 【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしてくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おながすいたら…
- g. 自分について話してみよう

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

## 初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

### 【授業の概要】

スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞(性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

### 【テキスト】

授業中に指示。

## 日本と外国の歴史2 (郷土)

秦達之

### 【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げ、受験時の暗記の歴史から脱皮し、考え、楽しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

### 【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」」「戦争と女性」「モルフィと娼婦運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三太郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

### 【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。

### 【参考文献・資料】

- 愛知県の百年(塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)  
愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)  
東海・近代へのまなざし(都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)

## 日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

### 【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

### 【授業計画】

- (1) 戸と戸籍と姓
- (2) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」
- (3) 婚姻の諸形態1<妻問婚の特徴>
- (4) 婚姻の諸形態2<婿取婚と嫁取婚の成立>
- (5) 前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
- (6) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (7) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (8) イエの成立と展開3 主従制と家父長制の展開
- (9) 東アジア諸国の家族・親族制度と日本

### 【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

### 【テキスト】

使用しません

### 【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

## 日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

### 【授業の概要】

東洋、特に中国を中心にした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

### 【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か? : 歴史リテラシーを身につけよう
3. 現代中国の雰囲気を知ろう
4. アジアを考えるとということ: 日本においてアジアの歴史を学ぶとは?
5. 中国近現代史への眼差し: 歴史観の諸相
6. 中国の近代: 「近代」という時代をどう考えるか?
7. 中国の近代と日本: 東アジアの近代を日本との関係から考える
8. 近代日本の中国観
9. 日中戦争を考える: 南京事件をめぐる歴史認識の溝
10. 「文革」、「改革開放」、「六四」: 東西冷戦構造の狭間で
11. 「台湾」という問題
12. 現代中国と日本: 特に歴史認識問題をめぐって
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

### 【評価方法】

中間レポートと期末レポート(人数によってはテスト)、および随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

### 【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に提示する。

## 日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

### 【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

### 【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
  - (1) 「個人」の覚醒：ルネサンス
  - (2) 「他者」の認識：大航海時代
  - (3) 普遍性の否定：宗教改革
3. イギリスの国民国家
  - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
  - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
  - (3) バクス・ブリタニカ—ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
  - (1) 対イギリス独立革命
  - (2) フロンティア開拓時代の「他者」認識
  - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
  - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
  - (2) フランス革命とナポレオン
  - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
  - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
  - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
  - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

### 【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

### 【テキスト】

とくに定めない。

### 【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム (谷川稔 山川出版社)
- 国民国家を問う (歴史学研究会編 青木書店)
- その他講義中に指示する。

## 東アジアの生活と文化

楊 衛平

### 【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

### 【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統美術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

### 【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

- 中国人・文字・暮らし (李順然 東方書店)
- 中国仏・道・儒教史話 (劉克蘇 河北大学出版社)
- 中国伝統文化導論 (劉榮興 河北大学出版社)

## 地域コミュニティ論

安藤純子

### 【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

### 【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 地域社会の歴史と構造 1
- 3 地域社会の歴史と構造 2
- 4 コミュニティの概念
- 5 コミュニティの組織論
- 6 地方分権とコミュニティ
- 7 コミュニティとネットワーク 1
- 8 コミュニティとネットワーク 2
- 9 コミュニティ活動と実践例 1
- 10 コミュニティ活動と実践例 2
- 12 まとめ

### 【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## ビジネスの世界

伊藤義明

### 【授業の概要】

会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。“Free, Fair, Global”の3つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的実例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。

第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適応する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について、「日本経営品質賞基準」を参考に学習します。(Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。)

### 【授業計画】

- 第1講 Introduction：ビジネスモデルと日本の国際競争力
- 第2講 企業活動の環境変化  
Free, Fair, Global—規制緩和と自己責任
- 第3講 制度変革と企業活動
- 第4講 企業を取り巻く社会システムの変化  
環境、労働市場、金融市場の進化とFinancial Literacyなど
- 第5講 市場（マーケット）について
- 第6講 企業の組織（その1）  
ビジネスとは何か？会社とは何か？（その法的要件）
- 第7講 企業の組織（その2）  
組織の分解と再編、財務の重要性
- 第8講 企業のマネジメント
- 第9講 主要産業の動向
- 第10講 求められる企業経営：「日本経営品質賞基準」と「Malcolm Baldrige National Quality Program」
- 第11講 マネジメント：リーダーシップと企業の社会的責任
- 第12講 市場と顧客本位の経営—企業戦略：人材、プロセス、情報
- 第13講 総括（テストと評価）

### 【評価方法】

学期末テストの成績で評価（出席率は成績に反省させない）

### 【テキスト】

ビジネスの世界 (伊藤義明著 (印刷予定))

### 【参考文献・資料】

特になし、新聞を読むことが望ましい。



## 健康と医学

渡邊一功

### 【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入っているが、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助が必要である。健康を保ち、命を守るためにどうすればよいか、医学の立場から講義する。

### 【授業計画】

- 1) 性感染症  
感染症とは 性感染症の現状と予防 後天性免疫不全症候群
- 2) 免疫とアレルギー  
免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類  
アレルギー疾患
- 3) 嗜好品と健康  
アルコール タバコ 薬物依存
- 4) 生活習慣病の予防  
糖尿病 がん 高脂血症 高血圧
- 5) 生殖の医学  
性機能 避妊 妊娠 分娩
- 6) 胎児からの子育て  
母子相互作用 母と子の絆 小児虐待
- 7) 子どもの成長と発達  
身体的発育 生理機能の発達 精神的発達  
しつけ
- 8) 乳幼児期の主な病気  
一般的症状 主な病気 障害児  
染色体と遺伝子異常

### 【評価方法】

主に筆記試験による。

### 【テキスト】

健康と保健の科学 (坂口他著 日本小児医事出版社)

## メンタルヘルス

長谷川純子

### 【授業の概要】

複雑な現代社会において、こころの病はもはや人ごとではない。なぜ多くの人のこころが病んでいくのだろうか。そもそも”こころ”とは一体何なのだろうか。この授業では、こころに影響を及ぼす様々な要因について、主に心理学モデルや幾つかの事例などをもとに論じながら、こころの健康(メンタルヘルス)について考える。

### 【授業計画】

1. こころの構造～心理モデル
2. こころの病～歴史・分類・症状
3. こころの発達
4. パーソナリティからこころを考える
5. ストレスのメカニズムとコーピング
6. ライフスタイルと健康
7. 病と性格・行動パターン
8. 脳とこころ～認知障害から見たこころの風景
9. 社会の変化がもたらすこころの問題
10. こころの病を解決するために～心理療法
11. こころの健康を考える～セルフケアを中心に

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし。プリント配布。

## 健康とくすり

永井慎一

### 【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 受講生に、すべての授業で学ぶ内容をまとめた「病気とくすりについて」の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、投与方法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 近年発売されたビルなどの生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品(OTC)500種と医師が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
- 第10～13回 成人病検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端の医療用医薬品が効くくみを解説

### 【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

### 【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

### 【参考文献・資料】

初回授業で紹介する。

## ライフサイクルと健康

松田秀子

### 【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も善しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

### 【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション(理想と現実)
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

必要に応じて参考資料を配付する。

## スポーツ科学

杉山 和 山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 丸山治美

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・原則として、半期間に2科目を行う。(天候によって科目を変更する場合があります。)
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費(300円)を必要とする。

月曜日	2限	杉山	テニス・卓球
	3限	杉山	ゴルフ・バドミントン
	4限	杉山	ゴルフ・バドミントン
火曜日	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	1限	門間	テニス・バドミントン
	2限	門間	テニス・バドミントン
	3限	山本	バレーボール・卓球
	3限	門間	テニス・バスケットボール
	4限	山本	バレーボール・卓球
	4限	門間	テニス・バスケットボール
木曜日	1限	寺田	スキルトレーニング
	2限	寺田	スキルトレーニング
	3限	杉山	バドミントン・卓球
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	2限	松田	テニス・ニュースポーツ
	3限	松田	テニス・ニュースポーツ
	3限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	4限	松田	テニス・ニュースポーツ
	4限	丸山	エアロビクス&フィットネス

### 【評価方法】

70点- (欠席回数/授業実施回数×70点) =出席点  
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

杉山 和

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって科目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費(300円)を必要とする。

#### 〔ゴルフ〕

1. クラブに慣れる
2. フォーム作り(回転運動のイメージ作り)
- 3~6. スイングの基本を身につける
7. 学外の練習場にてスキルテスト

#### 〔卓球〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットのグリップと打法
3. フォアハンド・バックハンド  
(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
4. サービスとレシーブ
5. シングルスゲーム(審判)
- 6~7. ダブルスゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)

#### 〔バドミントン〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5~8. ミニゲーム

### 【評価方法】

70点- (欠席回数/授業実施回数×70点) =出席点  
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

山本啓子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

#### 〔卓球〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットのグリップと打法
3. フォアハンド・バックハンド  
(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
4. サービスとレシーブ
5. シングルスゲーム(審判)
- 6~7. ダブルスゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)

#### 〔バレーボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
3. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
4. トス・アタック・ブロック  
(アタックカバー・ブロックフォロー)
- 5~7. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)

### 【評価方法】

70点- (欠席回数/授業実施回数×70点) =出席点  
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

松田秀子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって科目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

#### 〔テニス〕

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6~8. ミニゲーム・スキルテスト

#### 〔ニュースポーツ〕

1. ガイダンス
- 2~8. ユニホケー  
パタンク  
ソフトバレーボール  
ミニテニス

上記のニュースポーツを実践する。

### 【評価方法】

70点- (欠席回数/授業実施回数×70点) =出席点  
30点=実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

門間 博

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

#### 〔テニス〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

#### 〔バドミントン〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. ミニゲーム

#### 〔バスケットボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ボールに慣れる
3. 基本的な個人技能の確認
4. チームでの基本的な練習
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ゲーム・スキルテスト

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

丸山治美

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・この授業では、1. エアロビクスの特性・効果を理解する 2. エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう 3. 自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知る の3点を目標に行う。

#### 〔エアロビクス&フィットネス〕

1. ガイダンス
2. エアロビクスとは何か その理論と特性
3. 目標心拍数の設定と主観的運動強度
4. 筋力トレーニング 筋肉と骨格
- 5～6. ボールを使って
7. 体脂肪
8. ウェイトコントロール
9. 骨を強くする
- 10～15. エアロビクス ダンス パフォーマンス  
動きづくり練習 発表・相互評価

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

寺田邦昭

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

#### 〔スキルトレーニング〕

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら練習し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

#### 打つ技術の獲得

- バッティング (ソフトボールでの打つスキル)
- ショット (ゴルフ・バスケットボールでの打つスキル)
- ストローク (卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル)
- スマッシュ (卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル)
- アタック (バレーボールでの打つスキル)
- キック (サッカー・ラグビーでの蹴るスキル)

#### 投げる・送る技術の獲得

- スローイング及びパス (ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フライングディスク・サッカー・ラグビーでの投げる・送るスキル)

#### 捕る技術の獲得

- キャッチング (ソフトボール・バスケットボール・ラグビー・フライングディスクでの捕るスキル)

1. ガイダンス
- 2～7. 主にアウトドア種目を中心に実施する。
- 8～13. 主にインドア種目を中心に実施する。
- 14～15. テスト (各種スポーツにおけるスキルテスト)

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和 山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 蛭田秀一

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	杉山	バドミントン
	4限	杉山	バドミントン
火曜日	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
水曜日	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	ソフトボール
	3限	山本	バドミントン
	3限	門間	サッカー
	4限	山本	バドミントン
	4限	門間	サッカー
木曜日	1限	寺田	バドミントン
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	杉山	テニス
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
金曜日	1限	蛭田	卓球
	2限	松田	バドミントン
	2限	蛭田	卓球
	3限	松田	バドミントン
	4限	松田	バドミントン

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バレーボール]

1. ガイダンス、競技の概略
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

[バドミントン]

1. ガイダンス、競技の概略
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

[テニス]

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる（グリップ、スタンス）
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サーブ、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム、スキルテスト

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

山本啓子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

松田秀子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 記録への挑戦（打ち続けよう）
3. 歴史的ゲームの追体験
4. 用具の特徴（貴重な水鳥の羽根）
5. フォーム作り（格好良いフォームで打とう）
6. 攻撃的なショット（初速はどれくらい？）
7. 守備的なショット
8. 基本の戦術
9. ダブルスのフォーメーション
10. 世界のバドミントンプレイヤーを観よう（VTR）
11. ゲームの特徴（心拍数、運動強度はどれくらい？）
12. ゲームのルールとマナーを身につけよう
13. ハーフコート・ミニゲーム
14. ダブルスゲーム
15. スキルテスト

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

門間 博

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

[ソフトボール]

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）

[サッカー]

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

寺田邦昭

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・2～8週までのうち、雨天の場合には、9～12週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

(ニュースポーツ)

1. ガイダンス
- 2～6. フライングディスク
- 7～8. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
- 9～10. インディアカ、ミニテニス
- 11～12. ダーツ、ソフトバレー
- 13～15. グループによる遊びの創作と発表会

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 現代社会と福祉

見平 隆

### 【授業の概要】

現代社会において、なぜ「福祉」が必要なのか。当然のように「福祉」ということが一般化しているが、そもそも「福祉とは何なのか」を考えると現代社会のしくみが見えてくる。人々が生活を営むには「福祉」は避けられない問題であるが、「福祉はいかにあるべきか」という課題と解決策は難しい問題でもある。現代社会の福祉について具体的事例にふれながら講義する。

### 【授業計画】

1. 現在の生活から社会の現状を知る
2. ライフサイクルと福祉の関わりを考える
3. 日本と世界の福祉の歴史をふり返る
4. 日本と世界の福祉の現状を知る
5. 現代社会の福祉をめぐる問題を考える
6. これからの福祉の課題を考える

一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問、感想などを適宜出してもらい、授業に反映したい。配布プリントを講義ノートとして使ってもらおう。

### 【評価方法】

定期試験の結果および授業で指示した課題提出により評価する。出席率は受験資格にはしない。

### 【テキスト】

講義プリントを授業計画にそって配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 健康と運動

蛭田秀一

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

(卓球)

1. ガイダンス
2. 用具の使用法と安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム
- 3～6. 卓球における各種基本打法の説明と学習(ルール、姿勢、位置どり、グリップ、スウィング、フットワークなど)、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム
- 7～11. シングルス・ゲームの進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導
- 12～13. 一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス・ゲームの進め方の説明と実施
14. 実技テスト、まとめ

上記は標準的な実施計画であり、受講者の技能レベルに応じて順序や時間配分を変更する場合がある。

### 【評価方法】

70点＝(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## ボランティア論

矢島洋子

### 【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

### 【授業計画】

1. ボランティアの思想
2. イギリスのボランティア
3. アメリカのボランティア(1)
4. アメリカのボランティア(2)
5. アメリカのボランティア(3)
6. 日本のボランティアの変遷
7. 特定非営利活動促進法(NPO法)
8. 日本のボランティア活動(1)災害とボランティア
9. 日本のボランティア活動(2)高齢者とボランティア
10. 日本のボランティア活動(3)障害者とボランティア
11. 日本のボランティア活動(4)難民とボランティア
12. 日本のボランティア活動(5)開発とボランティア
13. ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

### 【評価方法】

出席、授業中の提出物 30%。  
期末レポート 70%。

### 【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

### 【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために(内海成治他編 世界思想社)
- フィランソロピーの思想:NPOとボランティア(林雄二郎他 日本経済評論社)他

## 手話・点字

堀 正和

### 【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践の技術・方法論を講義する。

### 【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

### 【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

### 【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び  
手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

## スポーツ文化論

勝部篤美

### 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発し、技能を追求する。
2. スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレイの精神によって成り立つ。
3. スポーツには富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い。
4. スポーツには教育、政治、科学が関係する。
5. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい。
6. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある。
7. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある。
8. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

## スポーツ文化論

松田秀子

### 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。  
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

## 生き物の世界

石崎宏矩

### 【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどうしてクワしか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○ミツバチの本能について。特に、蜜源を発見したハチは、どのようにしてその場所を仲間のハチに伝えるか。○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命-40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。エイズについてのビデオも放映し、エイズについての基礎知識を講義する。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命-人間を含めて-の危機について、正しく理解してもらえるようにつとめる。

### 【評価方法】

出欠、レポート、試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを見せてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

### 【テキスト】

進化とはなんだろうか（長谷川真理子著 岩波ジュニア新書）。これを読んで要約をレポートとして提出してもらうことを単位修得のための必須作業として課する。

### 【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

## 生き物の世界

服部一三

### 【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生きているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業計画】

- |         |                    |
|---------|--------------------|
| 第1回     | 1. 生物界の分類          |
|         | 2. 生物の進化           |
| 第2-6回   | 3. 植物と人の関わり        |
|         | 1) 農耕の始まり          |
|         | 2) 世界の農耕文化         |
|         | 3) 日本農耕文化の起源と発展    |
|         | 4. 人が手を加えた植物-作物    |
|         | 1) 作物とは?           |
|         | 2) 世界の作物の起源        |
| 第7-8回   | 5. 作物改良の原理と方法      |
|         | 1) 作物改良の原理         |
|         | (1) メンデルの法則-遺伝学    |
|         | (2) 遺伝の物質的基礎       |
| 第9回     | 2) 作物の改良方法         |
| 第10回    | 6. バイオテクノロジー       |
| 第11-12回 | 1) バイオテクノロジーとは?    |
|         | 2) 作物の改良とバイオテクノロジー |
|         | (1) 細胞・組織培養        |
|         | (2) 遺伝子操作          |
|         | (3) バイオテクノロジーで得られた |
|         | 作物をいかに考えるか?        |
|         | (1) 倫理             |
|         | (2) 安全性            |

### 【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

## 人類と宇宙

安野志津子

### 【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

### 【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために-

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

### 【評価方法】

基本的には、期末テスト(配布プリント、ノート持ち込み可)によるが、出席状況も考慮して判定する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて (池内了 新書館)
- (2) 星と宇宙の物理学読本 (並木雅俊 丸善)
- (3) 見えてきた宇宙の神秘 (野本陽代 草思社)
- (4) 太陽 - その素顔と地球環境との関わり- (ケネス.R. ラング著 渡辺 堯・桜井邦朋訳 シュプリンガー・フェアラーク東京)

## 生命の科学

林 博司

### 【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

### 【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞。
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子を操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

### 【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

### 【テキスト】

指定しない

### 【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

## 環境保護論

田部一史

### 【授業の概要】

現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

### 【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：世界は水を失いつつある
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人為による地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1：細胞レベル
- 第8講 いのちのしくみ2：個体レベル
- 第9講 環境汚染とがん：人工化学物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：人の手で壊される自然
- 第12講 生命の多様性：大量絶滅
- 第13講 環境保護：いのちと自然を守る

### 【評価方法】

出席状況、レポートおよび単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 食品の科学

千葉善根

### 【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

### 【授業計画】

1. 現代食生活の問題点  
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品  
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品  
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品  
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品  
骨粗鬆症等。
6. ビタミン  
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品  
食品と酵素・微生物との関係。

### 【評価方法】

定期試験にて評価。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 暮らしの化学

永井慎一

### 【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

### 【授業計画】

生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学、未来をひらく化学などの分野から数例をあげ、図やイラストを多用しながらこれはなぜ？どうして？という【素朴な疑問】に答える。また、かつてマスコミやテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶ。さらに、病院・診療所でうける検査値の見かたと最先端医療についても紹介する。

### 【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

### 【テキスト】

毎回プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

初回授業で紹介。

## 文学1（日本）

堀尾幸平

### 【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

### 【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 文学2（中国）

寺尾剛

### 【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

### 【授業計画】

毎回、一つのテーマを取り上げ、それにまつわる文学作品を鑑賞していく。

1. 男装の麗人・木蘭の物語
2. 和蕃公主・王昭君の物語
3. 亡国の美女・西施の物語
4. 万里の長城秘話・孟姜女の物語
5. 詩仙李白と酒の歌
6. 詩聖杜甫とそのヒューマニズム
7. 南宋の詩人・陸游～その愛の悲劇
8. 中国の詩人とその妻～悼亡詩の系譜
9. 『封神演義』～中国小説の世界
10. 中国の笑い話～下ネタは下品か？
11. 『論語』の世界～孔子、人生を語るなどを予定している。

### 【評価方法】

出席、平常点と試験。

### 【テキスト】

プリント

### 【参考文献・資料】

教場で指示する。



## 文学3 (欧米)

小野迪雄

### 【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

### 【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

### 【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 現代の芸術1 (書道)

森美恵子

### 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

### 【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

### 【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

### 【テキスト】

書の鑑賞と学び方 (上田桑鳩 教育図書研究会)

## 現代の芸術1 (書道)

小川晃治

### 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

### 【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

### 【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

### 【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

## 現代の芸術2 (音楽)

志水博子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ビクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

### 【評価方法】

授業内での実技演奏 (各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可) と出席状況

### 【テキスト】

楽譜プリントは配布

## 現代の芸術 2 (音楽)

浅田まり子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業計画】

- 第1講 音楽について
  - 第2講 発声のしくみ
  - 第3講 ヴォイストレーニング1 (自然体)
  - 第4講 音楽療法 1 (歴史と原理)
  - 第5講 ヴォイストレーニング2 (呼吸法)
  - 第6講 サウンドスケープ (音の風景)
  - 第7講 音楽療法 2 (音楽の作用)
  - 第8講 音のしくみ1 (メロディーとリズム)
  - 第9講 ヴォイストレーニング (楽器の確保)
  - 第10講 音のしくみ2 (コードなど)
  - 第11講 音楽と旅
  - 第12講～発表
- \*さまざまな方向から音楽を考え、音楽の機能を健康的に活かし、人とコミュニケーションができる音楽を目指します。
- \*発表は、個人・またはグループでジャンルを問わない演奏の発表。(歌・ギター・ピアノ・コンピューターミュージックなど)

### 【評価方法】

実技・感想・出席状況・授業態度

### 【テキスト】

プリント・MUSIK (貸与)

## 現代の芸術 4 (映画)

吉村英夫

### 【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

ミュージカル映画の楽しさを味わおう。たとえばミュージカル映画の代表的傑作『雨に唄えば』は、映画の歴史の教科書のような側面をもっている。映画の歴史がはじまって現在は約110年だが、大きなヤマは二つあった。一つは映画が「音」を持ったことで、サイレントからトーキーの出現である。二つは「色」を持ったことであり、白黒からカラーになったことである。『雨に唄えば』はミュージカルの歌と踊りに酔いながら、同時に1927年のトーキー出現という映画技術の決定的革新についても教えてくれる映画である。

参考上映する作品として検討中のもの

- \* 『ウエスト・サイド物語』
  - \* 『ロミオとジュリエット』
  - \* 『キス・ミー・ケイト』
  - \* 『雨に唄えば』
  - \* 『パリの恋人』
  - \* 『掠奪された七人の花嫁』
  - \* 『トップ・ハット』
  - \* 『ブラス』
  - \* 『ザッツ・エンタテインメント』
  - \* 『コーラライン』その他
- 木曜日昼食時に「映画雑談会」を有志で実施する。

### 【評価方法】

\*学期末のテスト \*随時提出のレポート \*出席 \*テキストは使用しない

### 【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。4年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

## 現代の芸術 3 (美術)

藤井健仁

### 【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行き、美術や絵画への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

- 前半  
キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。
- 後半  
小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。教材として(樹脂パテ)等を各自が購入する。

### 【評価方法】

授業内で提出する制作物、レポートを重視する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

なし

## 現代の芸術 4 (映画)

HIGH, Peter B.

### 【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

### 【授業計画】

授業のやり方としては、映画(全体又は部分)を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章(原稿用紙2・3枚程度)にまとめて提出する。

課題:「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1) 「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2) 「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3) 「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4) 「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術 4 (映画)の学期末評価は3つの宿題に基づく(学期末試験はなし):

- 宿題1: 「マルタの鷹」の対極的分析の図(文章化する必要はない)
- 宿題2: 「市民ケーン」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章)
- 宿題3: 「第三の男」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章): この三つの宿題は学期末試験として扱われる

\*今学期学ぶこと:

- 1) 映画分析のための技術:
  - a. セグメンテーション (SEGMENTATION=映画を見ながら、ノーツの取り方)
  - b. 対極的分析法(映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画(1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等)にいたるまでのスタイルとストーリーの語り方:
  - a. 「因果的關係」とドラマの盛り上げ方
  - b. FABULA (ファビュラ) =観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET (シューゼット、つまり「プロット」) =画面から与えられた「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」やヒント
  - c. ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
  - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE (ジャンル) の役割

### 【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

### 【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

## 現代の芸術5 (演劇)

海上宏美

### 【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

1. 現代芸術としての演劇は多様であるため、演劇を軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。
2. 身体を用いる表現であるため現代の思想やジェンダーとも切り離して考えることはできないので、その関わりを探っていく。
3. 戯曲=テキストの存在が演劇にとって大きな要素なので、演劇における戯曲=テキストの位置の変遷を概説する。
4. 演劇が行われる「劇場」というものがどのような時代思潮を具現しているものなのかを、ヨーロッパと日本の劇場を比較しつつ検討する。
5. 演技というものを身体と言語の関係から見直し、演技というものの在り方を歴史的視点から批評的に見ていく。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

### 【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術(演劇に限定しない)を見ることを求める。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

## 伝統芸能

林 和利

### 【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中の芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

### 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
2. 日本芸能演劇史概説
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 田楽について
7. 猿楽について
8. 能について
9. 狂言について
10. 歌舞伎について
11. 文楽について

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

日本文化論序説(林和利著 青山社)

## 現代マナー論

近藤乃美子

### 【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. " " 洋風
7. 茶葉のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

### 【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

## 文章表現

青木 健

### 【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

### 【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
- 第3回~12回

例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。

この間に

課題を3回提出し、短文(2~3枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

### 【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

### 【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊指示します。

## 言語表現

三久保角男

### 【授業の概要】

音声表現。

マルチメディアの発達で人と人が直接的な会話をするのが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。人前で話すことや自分の意志を言葉で伝えるための基礎的な技術を身につける講義をする。

### 【授業計画】

- 話し言葉概論  
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
- 日本語の音声 1 (発声)  
呼吸法 音声器官 発声法
- 日本語の音声 2 (発音)  
拍 音素 母音 子音 アクセント
- 話し言葉の表現技法  
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
- 文を読む  
朗読
- 話しをする  
パブリックスピーキング リポート スピーチ インタビュー
- 現在言葉事情  
敬語 言葉の変化

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

### 【評価方法】

筆記試験。随時のレポートも評価に加味する。

### 【テキスト】

毎回、レジュメ・資料を配布する。

## 職業と人生

伊藤義明 河合崇欣 中村 薫 都築久義 山脇正雄 伊藤義尚 井上陽介  
渡邊一正 古田 弘 神谷利徳 平田節子 伊藤武彦 伊藤健治

### 【授業の概要】

将来の職業選択に当たって参考事項や現代の企業社会の実態、就職するための予備知識、などを話します。

### 【授業計画】

5年～10年先の社会発展を展望したとき、学生に求められる資質、即ち「職業人としての心構え」「学識」「専門的スキル」などを社会の第一線で活躍中の学識経験者とプロフェッショナルによるオムニバス形式の連続講演により、具体的に語ってもらいます。

第1講：バイカル湖から見る古環境 (仮題) 講師：河合崇欣	4月13日
第2講：仕事をすること (勤労の意味を考える) 講師：中村 薫 文学博士 同朋大学大学院教授	20日
第3講：趣味と仕事 講師：都築久義 愛知淑徳大学教授	27日
第4講：この道一筋 (職人の生き方へのつゆのたのめの人づゆ) 講師：山脇正雄 岐阜大学客員教授 前デンソー工業技術研修センター所長 (技能オリンピック金メダル選手の指導者)	5月11日
第5講：自己発見の試み (自分の思考傾向を知り、他者とのコミュニケーション技法を学ぶ) 講師：伊藤義尚 ブランディングコンサルタント G-Tech.Resource 代表	18日
第6講：生涯教育 「新しい時代のキャリア形成」 (自分のキャリアは自分でつくる) 講師：井上陽介 株式会社グローブス名古屋マネジャー	25日
第7講：多様な働き方 (リクルートの専門家が語る) 講師：渡邊一正 リクルート メディアプロデューサー 編集長	6月1日
第8講：専門性を身に着ける (人材派遣と専門性) 講師：古田弘 株式会社ビーハーフ社長	8日
第9講：専門性を身に着ける (その2) プロフェッショナルの世界 講師：神谷利徳 住空間デザイナー 有限会社神谷デザイン事務所所長 (全国的に著名なフードサービスデザイナーに聞く)	15日
第10講：男女共生参画社会 講師：平田節子 株式会社ジオコス取締役	22日
第11講：国際化と職業選択 (外資系企業の人材教育) 講師：伊藤武彦 株式会社マーサー・ヒューマンリソースコンサルタントマネジャー	29日
第12講：インターンシップ 講師：伊藤健治 日本碍子株式会社人事採用研修マネジャー	7月6日
第13講 総括：レポート (教室で作成)	13日
第14講： 講評	20日

### 【評価方法】

最後にアンケート形式のレポートを提出 (成績評価します)

### 【テキスト】

原則使用しない。人によりレジュメまたはパワーポイント使用

## メディア表現

鎌田基子

### 【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

### 【授業計画】

- どこからどこまでがメディアなのか
  - 「編集」がもつ創造力
  - 「伝える」と変化する
  - 人を動かす力
  - 自分との対話
  - 「コンセプト」の功罪
  - 共感する/させる
  - 心を開かなければならないとき
- ほぼ毎回 WORK SHOP を行う。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。  
状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

### 【評価方法】

レポートによる。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

## 生涯学習論

五島敦子

### 【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

### 【授業計画】

- 生涯学習の理念
- 発達段階と発達課題
- 高齢期の課題と学習支援
- 職業人の学習機会
- ボランティアとNPO
- 大学開放の進展
- 男女共同参画社会に向けた学習支援
- 生涯学習政策の動向と課題

### 【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない

### 【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習 (関口礼子他編著 有斐閣アルマ)  
生涯学習の展開 (香川正弘他編著 ミネルヴァ書房)

## 一般心理学

青柳眞紀子

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界,1
3. 無意識の世界,2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習,1
7. 学習,2
8. パーソナリティ,1
9. パーソナリティ,2
10. 対人関係,1
11. 対人関係,2
12. 集団の心理

### 【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。

## 一般心理学

加藤智宏

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. ノンバーバルコミュニケーション
- c. 愛着
- d. アイデンティティ
- e. 学習と記憶
- f. 忘却と変容
- g. 防衛機制と無意識
- h. 心理療法
- i. 心理テスト
- j. 個人・社会・環境

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学や犯罪心理学についても紹介していく予定です。

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

### 【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

## 一般社会学

長濱一夫

### 【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事象について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

### 【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」  
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

### 【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

### 【テキスト】

使用しません。

## 法律学

大嶽 浩

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

### 【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 政治学

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a 国際社会とは?
  - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
  - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
  - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
  - a 市民社会と大衆社会
  - b 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
  - a 政治と利益団体、NPO
  - b 選挙、官僚、議会
  - c マスメディアとマスコミュニケーション
  - d 議会制デモクラシー
4. 戦後国際社会と日本の政治
  - a 冷戦構造と55年体制
  - b 利権の構造

### 【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

### 【テキスト】

暮らしから考える政治（姜尚中著 岩波ブックレットNo.564）

### 【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

## 数学

岡田克彦

### 【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

### 【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

### 【評価方法】

課題及び試験で評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

## 経済学

細野義晴

### 【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

### 【授業計画】

1. 経済のしくみの全体像  
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2. 日本の経済と景気  
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3. 個人のくらしと経済  
個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4. 企業の経済活動  
企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5. 政府の経済活動  
財政のしくみと役割、わが国の財政事情と財政政策、など。
6. 金融のしくみと経済  
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
7. 日本と世界の経済  
経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

使用しない（資料配布）。

### 【参考文献・資料】

- (1) 入門の入門 経済のしくみ（大和総研著 日本実業出版社）
- (2) 入門 経済学（伊藤元重著 日本評論社）

## 物理学

坂井貞彦

### 【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

### 【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力、力学的エネルギー
- 3 振動と波動、光と電磁波
- 4 もののかたち、圧力、強さ
- 5 流れ、層流と乱流、カオス
- 6 熱とエネルギー、熱機関
- 7 電気と磁気
- 8 相対性理論
- 9 量子力学、粒子性と波動性
- 10 素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クオーク

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

入門ビジュアルサイエンス・物理のしくみ（小暮陽三 日本実業出版社）

## 【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

1. 変数の性質
2. 度数分布
3. 基礎統計量—代表値・散布度・尖度・歪度
4. 正規分布
5. 2変量の関係—相関・回帰・連関
6. 母集団と標本
7. 統計的推定—点推定・区間推定
8. 統計的検定—母平均検定・母分散検定
9. 平均値の差の検定—t検定・分散分析
10. ノンパラメトリック検定

## 【授業計画】

講義の内容については、基本的に上記の順に進めるが、受講者の理解・興味に応じて構成していく予定である。また、講義で学んだことについて理解を深めるための課題を随時設ける。

## 【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

## 【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本  
(吉田寿夫著 北大路書房)

## 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## ASU TOEIC I G

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II G

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC I H

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II H

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。



## 上級英語セミナー 2005 A

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)  
Personal information  
Travel & vacations  
Strange phenomena  
Entertainment  
Crime & capital punishment  
Controversy

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION / EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORTS  
TOEIC SCORES

「上級英語セミナー2005A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

To be announced.

## 上級英語セミナー 2005 B

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)  
The past  
Current events in the news  
Relationships  
Food & Health  
Fashion  
The world of work

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION / EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORTS  
TOEIC SCORES

「上級英語セミナー2005B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

To be announced.

## 上級英語セミナー 2005 A

CURRAN, Beverley

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

### 【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

「上級英語セミナー2005A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

No text required.

## 上級英語セミナー 2005 B

CURRAN, Beverley

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

「上級英語セミナー2005B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

No text required.

## 上級英語セミナー 2005 C

横山綾子

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005C」は受講できない。）

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

「上級英語セミナー2005C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日5限（担当教員：CHAMBERS, Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

The Student Times その他

## 上級英語セミナー 2005 D

横山綾子

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

「上級英語セミナー2005D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日5限（担当教員：CHAMBERS, Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

The Student Times その他

## 上級英語セミナー 2005 C

CHAMBERS, Tim

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005C」は受講できない。）

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

「上級英語セミナー2005C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日5限（担当教員：CHAMBERS, Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

Rethinking America 1 (the student book), Thomson

The CNN videotape

## 上級英語セミナー 2005 D

CHAMBERS, Tim

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

「上級英語セミナー2005D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日5限（担当教員：CHAMBERS, Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【Textbooks】

Rethinking America 1 (the student book), Thomson

The CNN videotape

## 上級英語セミナー 2005 E

横山綾子

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005E」は受講できない。）

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

「上級英語セミナー2005E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、金曜日4限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

The Student Times その他

## 上級英語セミナー 2005 F

横山綾子

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

「上級英語セミナー2005F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、金曜日4限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

The Student Times その他

## 上級英語セミナー 2005 E

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005E」は受講できない。）

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article) .

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

Assessment will include the following components:

1) Vocabulary tests

2) Preparation for (and participation in) class discussions

3) Listening comprehension activities

4) Attendance

「上級英語セミナー2005E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、金曜日4限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2005 F

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article) .

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

Assessment will include the following components:

1) Vocabulary tests

2) Preparation for (and participation in) class discussions

3) Listening comprehension activities

4) Attendance

「上級英語セミナー2005F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、金曜日4限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平

### 【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。時の表現、方向補語
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

### 【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- |      |              |
|------|--------------|
| 第一課  | 発音 (1)       |
| 第二課  | 発音 (2)       |
| 第三課  | 発音 (3)       |
| 第四課  | 発音 (4)       |
| 第五課  | 人称代名詞・“是”    |
| 第六課  | 指示代名詞・数詞・量詞  |
| 第七課  | 形容詞と形容詞述語文   |
| 第八課  | 動詞述語文        |
| 第九課  | “有”・年月日      |
| 第十課  | 場所・時間・数量     |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞         |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平

### 【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

### 【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- |      |          |
|------|----------|
| 第一課  | 発音 (1)   |
| 第二課  | 発音 (2)   |
| 第三課  | 発音 (3)   |
| 第四課  | 発音 (4)   |
| 第五課  | あいさつ表現   |
| 第六課  | 時間の表し方   |
| 第七課  | 年齢を言う    |
| 第八課  | 家庭を語る    |
| 第九課  | 自分の家を語る  |
| 第十課  | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く    |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話 1 A・2 (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈中国語会話 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 現在幾点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天氣。天氣表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 中間テスト
10. 我的大学。伝聞の表現
11. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」  
結果や程度表現「V+“得”」
13. 帮我。能願動詞“会”
14. 假期做什么? 結果補語“好”
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平 陳惠貞

### 【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900~1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

### 【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“过”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个梦。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春暇的計画。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解1A2（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 基礎コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 王麗英 杜英起

### 【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の2級か3級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される400~1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について  
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK基礎A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平

### 【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900~1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

### 【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- |      |            |
|------|------------|
| 第一課  | 部屋を借りる     |
| 第二課  | 換金する       |
| 第三課  | 道を尋ねる      |
| 第四課  | 交通機関を利用する  |
| 第五課  | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課  | デパート       |
| 第七課  | ホテル        |
| 第八課  | 郵便局        |
| 第九課  | 電話         |
| 第十課  | 中国人宅に訪問する  |
| 第十一課 | レストラン      |
| 第十二課 | スピーチの仕方    |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話1A・2（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 基礎コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK基礎コースA〉とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助词“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边~一边~”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是~还是~”など  
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK基礎B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 3

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 应该感谢谁。
3. 一件小事。
4. 生日宴会。
5. 中国人的问候语。
6. 在中国过春节。
7. 修自行车的张师傅。
8. 自行车上的宝座儿。
9. 雨披。
10. 服装与色彩。
11. 逛商场。
12. 一个特别的“村”
13. 学汉语趣事。
14. まとめ
15. 復習・テスト

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学のための中国語読解3（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

## HSK 初等コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

### 【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の4級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK初等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 3

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

### 【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語るができる。

### 【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話3（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 初等コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK初等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 4

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

### 【授業計画】

1. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2. 連動文の構成。主語+動詞フレーズ1+動詞フレーズ2。
3. 動詞の繰り返し構造。AA式：说说；A-A式：说一说等等。
4. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6. 名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7. 「宝贝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8. 疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10. 方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11. 語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12. 形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13. 比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14. 特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”
15. まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解4（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

## HSK 中等上級コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK中等上級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 4

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

### 【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語るができる。

### 【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中等上級コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK中等上級B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

下記の科目は、本年度開講しません。

## 中国語作文1

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

## HSK 中等高級コース1B ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース1A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース1A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## 中国語作文2

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

## HSK 中等高級コース2B ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## HSK 中等高級コース1A ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 同時通訳入門1

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

## HSK 中等高級コース2A ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 同時通訳入門2

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か、<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。



## 韓国・朝鮮語入門

パク ヨンソン キム ソヨン 尹 大辰

### 【授業の概要】

ハングル(韓国・朝鮮の文字)の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習し、韓国・朝鮮語の文字・音声・表現における全体像がつかめる能力を養成する。入門段階における集中学習の効果(韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができる)をねらい、週2回の履修になっている。

### 【授業計画】

基礎的な名詞および動詞や形容詞を中心とする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短いハングルの読み書きおよび聞き取り、そして簡単な意思表示と会話上の運用などを可能にする。

- |           |   |
|-----------|---|
| 第1回       | 授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説   |
| 第2回～第5回   | ハングルの読み書き1～4、まとめ<br>1) 基本母音字(10個)、挨拶1<br>2) 基本子音字1(平音9個)、挨拶2<br>3) 基本子音字2(激音5個)、名詞1<br>4) 合成子音字(濃音5個)、名詞2 |
| 第6回～第8回   | ハングルの読み書き5～7<br>1) 合成母音字1(4個)、形容詞1<br>2) 合成母音字2(7個)、形容詞2<br>3) 終声子音字(7種)、叙述格助詞「이다」                        |
| 第9回～第10回  | 発音のルールとトレーニング1・2、動詞1・2、表現練習、まとめ   |
| 第11回～第12回 | 尊敬形(합쇼체) 平叙文・疑問文1・2、助詞1・2   |
| 第13回～第14回 | 尊敬形(합쇼체) 否定文、助詞3・4、まとめ  |
| 第15回      | 中間試験  |
| 第16回～第17回 | 上称形(하오체) 平叙文・疑問文および否定文、連結語尾1・2  |
| 第18回～第20回 | 1) 勧誘および命令文、転成語尾1<br>2) 禁止および不可能文、変則活用1、転成語尾2<br>3) 漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ                                     |
| 第21回～第23回 | 1) 略对上称形(하계체)、転成語尾3<br>2) 平常形(해라체)、先語末語尾1<br>3) 曖昧形(반말체)、先語末語尾2   |
| 第24回～第24回 | 1) 変則活用2、先語末語尾3<br>2) 固有数詞、表現練習、まとめ   |
| 第26回      | 単位認定試験  |

### 【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

韓国語入門(曹述燮)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語会話1

パク ヨンソン キム ソヨン

### 【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の文章を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞き取り、理解し、応対する能力を養成する。

### 【授業計画】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、初歩的な語句を用いてのハングルの会話を楽しむと同時に、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

- |      |                               |
|------|-------------------------------|
| 第1回  | 授業の概要説明、こんにちは(안녕하세요?)         |
| 第2回  | 韓国は初めてですか(한국은 처음입니까?)         |
| 第3回  | ここが寮です(여기가 숙사에요.)             |
| 第4回  | 3月2日からです(3월 2일부터예요.)          |
| 第5回  | どこで売っていますか(어디에서 팔아요?)         |
| 第6回  | MTって何ですか(MT가 뭐예요?)            |
| 第7回  | 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト           |
| 第8回  | スタンドランプを見せてください(스탠드 좀 보여주세요.) |
| 第9回  | 一杯飲みましょう(술 한잔 해요.)            |
| 第10回 | 大学生活はどうですか(학교생활은 어때요.)        |
| 第11回 | よく聞けば勉強になります(자주 들으면 공부가 되지요.) |
| 第12回 | 誕生パーティをしましょう(생일 파티를 합시다!)     |
| 第13回 | 単位認定試験                        |

### 【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

初歩の韓国語会話1(曹述燮・李正子・金賢珍)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語読解1

パク ヨンソン 尹 大辰

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

### 【授業計画】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、基礎的な単語で短い文章が書けること、ある程度辞書が使えること、そして韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | 授業の概要説明、前期の復習                                    |
| 第2回  | サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現      |
| 第3回  | 明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現               |
| 第4回  | 喫茶店で。「으」変則、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現            |
| 第5回  | 韓国料理屋で。「ㅂ」変則、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞                 |
| 第6回  | 道をたずねる。「ㄷ」変則、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現            |
| 第7回  | 中間試験   |
| 第8回  | 地下鉄の駅で。「ㄹ」変則、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現 |
| 第9回  | タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現        |
| 第10回 | 郵便局に行く。用言の連体形                                    |
| 第11回 | 約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現               |
| 第12回 | 天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現               |
| 第13回 | 単位認定試験   |

### 【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

韓国語中級(李昌圭 白帝社)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国語能力試験対策1

パク ヨンソン キム ソヨン 尹 大辰

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

### 【授業計画】

ねらいの試験で要求される1,000語程度の基本語彙とその語彙量に相当する120項目ほどの文法力を着実に身につけるために、発音と表記、文法、助詞、読解と表現などを模擬試験をととして習得していく。聞き取り、書き取りの練習も平行する。

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | 授業の概要説明、前期の復習<br>完全制覇5級・挨拶言葉1             |
| 第2回  | 挨拶言葉2、ハングルのカタカナ表記                         |
| 第3回  | 日本語のハングル表記、基本語彙と文法1                       |
| 第4回  | 基本語彙と文法2、尊敬形と上称形の活用、各種助詞                  |
| 第5回  | 漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞                          |
| 第6回  | 韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト            |
| 第7回  | 完全制覇4級・基本語彙と文法1                           |
| 第8回  | 基本語彙と文法2・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形   |
| 第9回  | 基本語彙と文法3・各種活用と変則、接続文、連体形                  |
| 第10回 | 基本語彙と文法4・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現 |
| 第11回 | 韓国語の発音、応用問題1                              |
| 第12回 | 応用問題2                                     |
| 第13回 | 単位認定試験                                    |

### 【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験5級・4級(小坂伸顕 白帝社)

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

下記の科目は、本年度開講しません。

## 韓国・朝鮮語読解 2

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

## 韓国・朝鮮語会話 2

### 【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

## 韓国語能力試験対策 2

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

## 韓国・朝鮮語読解 3

### 【授業の概要】

わかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

## 韓国・朝鮮語会話 3

### 【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

## 韓国語能力試験対策 3

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

## プログラミング入門

三和義秀 他

### 【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASICまたはC言語を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。なお、プログラミングに関する理解は、実際のプログラミング作業を経験していくことが不可欠であることから、コンピュータ実習を並行して行う。

### 【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. データ構造とデータ型
6. 順次構造
7. 選択構造
8. 繰り返し構造 (1)
9. 繰り返し構造 (2)
10. 配列の操作
11. 関数の利用
12. 事務計算
13. 技術計算

講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。またコンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスクまたはMOが必要になる。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業にて指定する

## CG 入門

川澄未来子 他

### 【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

### 【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うトピックスは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス1：基礎編
6. コンピュータグラフィックス2：アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

『ビジュアル情報表現』ーデジタル映像表現・Webデザイン入門ー  
(CG-ARTS協会)

## 情報数学入門

親松和浩 他

### 【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数学の基礎を学ぶ。

### 【授業計画】

1. 命題と制御処理
2. 集合と写像
3. データの表現法と2進法
4. 情報量/計算量の評価
5. 三角関数
6. 2次元ベクトル
7. 2次元図形の表現法
8. 行列
9. 2次元図形の変換
10. 3次元ベクトル
11. 3次元図形の表現法
12. 3次元図形の変換

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題レポートの提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

## 人工知能入門

高橋信明 他

### 【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

### 【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

## 情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

### 【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

### 【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する一般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

### 【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の2級合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、3級レベルのCGに関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VCによるCGプログラミングのサンプルを解説することでそれを理解する。

### 【授業計画】

- 配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。
- 1. CG概論、CG検定試験2級対策
- 2. 各種CGツールの紹介、そのデモンストレーションと作例紹介
- 3. VisualC++によるGUIプログラミング
- 4. VisualC++によるインターフェースの設計
- 5. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 6. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 7. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 8. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 9. 平成14年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 10. 平成14年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 11. 演習
- 12. まとめ

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）  
平成16年度版 CG検定2級問題集（画像情報教育振興協会）

### 【参考文献・資料】

- 入門コンピュータグラフィックス（画像情報教育振興協会）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）

## 情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

### 【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の1級合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、CGプログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

### 【授業計画】

- 前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。
- 1. CG検定試験1級の概要と対策
- 2. VisualC++によるGUIプログラミング
- 3. 平成15年度CG検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
- 4. 平成15年度CG検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
- 5. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
- 6. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
- 7. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
- 8. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
- 9. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
- 10. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
- 11. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
- 12. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）  
平成16年度版 CG検定1級問題集（画像情報教育振興協会）

### 【参考文献・資料】

- コンピュータグラフィックス理論と実践  
（J.D.Foley, A.v.Dam, S.K.Feiner F.Hughes オーム社）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）

## 英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 横関美津紀 寺本史子 山田豊 安田千穂 野口朋香 今井知子 相川由美 松本一喜 小沢茂 DYCUS, David C. 今井加寿  
PUJWILL, Larry A. 間瀬欣英 村上洋子 磯村香里 SUTHONS, Philip HARRIS, Richard S. REINTSMA, Sharell 森本葉子

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 DYCUS, David C. 横関美津紀 森本葉子 SUTHONS, Philip DAVIES, Alan HARRIS, Richard S. HEWER, Robert REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September LACEY, Charles F. PUJWILL, Larry A. BROWNING, Jeremy S. 相川由美 鈴木哲至 磯村香里 寺本史子 今井知子 松本一喜 大田暎子 CHAMBERS, Tim

### 【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション2 (Listening I)

石橋千鶴子 山田久美子 横関美津紀 大田暎子 鈴木哲至 HARRIS, Richard S. HEWER, Robert REINTSMA, Sharell BROWNING, Jeremy S. 今井加寿 磯村香里 松本一喜 若山真幸 相川由美 WILLIAMS, Allen D. SMITH, September LACEY, Charles F. SUTHONS, Philip DAVES, Alan

### 【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション4 (Reading I)

DYCUS, David C. 山田久美子 横関美津紀 松本一喜 間瀬欣英 村上洋子 野口朋香 STEPHENSON, Brett REINTSMA, Sharell

### 【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

DYCUS, David C. 横関美津紀 SMITH, September HARRIS, Richard S. CAMERON, Leona R. DUNKLEY, Daniel STEPHENSON, Brett HEWER, Robert 二村慎一 寺本史子 石橋千鶴子 若山真幸 太田直子 LACEY, Charles F. 鈴木哲至

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テスト TOEIC に向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1 回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. LACEY, Charles F. SUTHONS, Philip WILLIAMS, Allen D. CAMERON, Leona R. SMITH, September HEWER, Robert WACHOLTZ, Terry STEPHENSON, Brett BROWNING, Jeremy S. O'CONNELL, Michael

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

HARRIS, Richard S. WILLIAMS, Allen D. HEWER, Robert SMITH, September WACHOLTZ, Terry STEPHENSON, Brett BROWNING, Jeremy S. O'CONNELL, Michael SUTHONS, Philip

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8 (Reading II)

横関美津紀 山田 豊 安田千恵 寺本史子 今井知子 磯村香里 SUTHONS, Philip REINTSMA, Sharell 鈴木哲至

### 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1 回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語演習 I (Writing I)

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

パラグラフ・ライティングの指導を中心とした英語総合演習。英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。パラグラフの構成とフォームを理解した後、サマリー・ライティングやレター・ライティングの実践を通して、ライティング運用能力を身につける。

### 【授業計画】

パラグラフ構成について指導を行った後、英語ビデオ教材を使い、内容把握のための口頭活動を英語で行っていく。最後にサマリー・ライティングで仕上げ、パラグラフ構成の定着を目指す。また、与えられたトピックでライティングの実践を行う。

語い・表現の増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

### 【評価方法】

ライティングの課題、平常の勉学状況および期末試験により評価を行う。

### 【テキスト】

未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

## 英語演習 III (Speech and Presentation)

LEWIS, Paul

### 【Course Content】

This course will teach students how to make presentations and speeches of various kinds, including for business purposes. We will learn and practice how to make the most of our voice, gesture, and body language. We also learn how to integrate this with audio-visual aids, particularly presentation software. The course will be given mostly in English.

### 【Schedule】

1-9: Presentation techniques (including PowerPoint)  
10-12: Project work; preparing & developing own presentation

### 【Assessment】

Assessment will be according to: attendance, class participation, project work, practice presentations, and final presentation.

### 【Textbooks】

TBA

## 英語演習 II (Writing II)

BROWNING, Jeremy S.

### 【Course Content】

The objective of this class is to help students develop greater writing proficiency beyond the paragraph level. Students will explore various text types from personal topics to complex writing tasks that require knowledge of rhetorical writing types that they will gain in the class.

### 【Schedule】

In the early part of the semester, students will review basic paragraph composition and then make a transition into larger essays that evoke background knowledge. From personal essays of various themes and text types, the students will then engage in more complex writing that is based around rhetorical structures like descriptive, narrative, persuasive and comparative writing.

### 【Assessment】

Assessment will be based on (1) attendance and participation in classroom activities, (2) homework assignments done in preparation for longer writing assignments, and (3) a mid-term and end-of-term essay on a topic agreed upon by the instructor.

### 【Textbooks】

"Composition Practice", Book 2 by Linda Lonon Blanton.

Published by Thomson Learning (Heinle & Heinle)

Also, there will be supplementary handouts given to students as well.

## 英語演習 IV (Business English)

大鐘洋司郎

### 【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した内容をやさしく解説。

海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

TOEICにも役立つ体験的英語上達法。

### 【授業計画】

- 第1回 何を学習するか。レター・フォーマットの解説。その他。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴（内容は下記参照）
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格 FOB及び CIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 国際的ブランド等のビジネス常識について（時間次第で実施）

### 【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。

授業に取り組む積極性も評価する。

### 【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション再増補版（大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,625円）  
ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」  
授業担当者作成資料（プリント教材その他）

## 情報技術基礎 I

小林久恵 加藤浩樹 岡川卓詩 水谷聡志

### 【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。

### 【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現 (2進数、16進数)
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理 1 (ネットワーク犯罪)
5. 情報社会と情報倫理 2 (情報セキュリティ、知的所有権)
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作 1 (電子メール) 実習
9. インターネット基本操作 2 (WWW) 実習
10. EXCEL基本操作 1 実習
11. EXCEL基本操作 2 実習
12. EXCEL基本操作 3 実習
13. EXCEL基本操作 4 実習

当該科目については、科目履修前に情報技術に関するテストを実施し、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎 III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク (または MO) が必要になる。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

情報技術基礎 I (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

## 情報技術基礎 III

宇佐美貴史 上原 衛 大野誠寛

### 【授業の概要】

情報技術基礎 I、情報技術基礎 II を踏まえ、Windows の高度操作、WORD、EXCEL の高度操作、ACCESS の基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。

### 【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作 (WORD)
5. ビジネス情報処理 (EXCEL)
6. マクロ操作 (1)
7. マクロ操作 (2)
8. ACCESS の概要
9. ACCESS の基本操作 (1)
10. ACCESS の基本操作 (2)
11. ACCESS 総合演習 (1)
12. ACCESS 総合演習 (2)
13. まとめ

### 【評価方法】

コンピュータ実習を中心に授業を進行する。授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。なお、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎 I」と「情報技術基礎 II」で習得した知識、技術が必要となる。

### 【テキスト】

情報リテラシーの応用 (伊東俊彦他著、近代科学社)

## 情報技術基礎 II

西荒井学 佐藤篤司 岡川卓詩 水谷聡志

### 【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけでなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎 I と同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

### 【授業計画】

1. Windows 基本操作 1 (キー・タイピングを含む) 実習
2. Windows 基本操作 2 実習
3. WORD 基本操作 1 実習
4. WORD 基本操作 2 実習
5. WORD 基本操作 3 実習
6. WORD 基本操作 4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT 基本操作 1 実習
9. POWERPOINT 基本操作 2 実習
10. POWERPOINT 基本操作 3 実習
11. 総合課題 (プレゼンテーション資料作成 1) 実習
12. 総合課題 (プレゼンテーション資料作成 2) 実習
13. 情報発信の管理と運用

当該科目については、情報技術基礎 I と同じく、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎 III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク (または MO) が必要になる。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

情報技術基礎 II (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

## ネットワーク技術入門

原 伸之 小林久恵

### 【授業の概要】

ネットワーク (network) という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、および CGI プログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

### 【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識 (1): ネットワークの仕組みとその意義
  2. ネットワーク理論の基礎知識 (2): 情報量と通信速度、プロトコル
  3. ネットワーク技術の基礎知識 (1): LAN の仕組み
  4. ネットワーク技術の基礎知識 (2): サーバの種類と仕組み
  5. ネットワーク技術の基礎知識 (3): IP アドレスとファイアウォール
  6. HTML とホームページ (1): HTML の仕組み
  7. HTML とホームページ (2): 基本タグの設定、ハイパーリンクの設定、画像の表示
  8. HTML とホームページ (3): サウンドの再生と動画の再生、ファイルの管理方法
  9. CGI プログラミング (1): CGI の仕組みと Perl プログラミングの基礎知識
  10. CGI プログラミング (2): エディタと FTP、パーミッションの設定
  11. CGI プログラミング (3): form タグによるデータ入力フォームの作成
  12. CGI プログラミング (4): 環境変数、関数、文字列変換
  13. セキュリティと情報倫理: セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性
- この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎 I」、「情報技術基礎 II」で習得した知識、技術が必要になる。

### 【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

ネットワークリテラシー (三和義秀著 共立出版)



## 情報演習Ⅱ（プログラム応用）

長谷川達也

### 【授業の概要】

インターネットは世界中の誰もが情報を収集、発信できる画期的な道具です。この授業ではWWWで情報発信するために必要なソフトウェアの知識とプログラミング技術を身につけることを目的としています。初めてホームページを作る人を対象にして、インターネットのしくみとソフトウェア、デジタル画像情報の基礎知識と作成、HTMLを用いるホームページの作成、Javaによるアプレット作成などのアルゴリズムとプログラミングについて学び、最後に学んだプログラミングの知識を応用してホームページ作成の演習を行います。

### 【授業計画】

1. インターネットのしくみとソフトウェア
2. デジタル画像情報の基礎知識と作成
3. ホームページのプログラミング (HTML)
4. ホームページのプログラミング (Java)
5. ホームページ作成演習

### 【評価方法】

出席、レポートおよび提出されたホームページで評価します。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業時にお知らせします。

## 情報演習Ⅳ（シミュレーション）

辻 絃良

### 【授業の概要】

コンピュータシミュレーションによりいろいろな社会・経済システムの分析が可能である。最近では、情報技術の進展によりパソコンでもシミュレーションが容易にできるようになっている。

ここではシミュレーションの基礎を学習するとともに、パソコンソフトを用いて社会・経済システムのモデル化とシミュレーション分析手法を体験的に学習する。これによりシミュレーションのモデル作成から実行・分析、ならびにマルチメディア表現によるプレゼンテーション（アニメーション）までの一連のプロセスを習得する。

### 【授業計画】

毎回、講義の前半はシミュレーションの理論と基本的な言語の説明、後半は簡単なシミュレーションモデルの作成と実行・分析を行う。

1. シミュレーション概論
2. シミュレーションの体験（簡易モデルの作成と実行）
3. モデル化の考え方と言語の基本
4. モデル化 / 1 窓口と待ち行列の表現
5. モデル化 / 2 リソース（資源）の概念
6. モデル化 / 3 グループの概念
7. モデル化 / 4 ゲートの概念
8. モデル化 / 5 要素の流れの選択や統合・分解
9. モデル化 / 6 待ちファイルの操作、外部データとのI/F
10. 事象処理ロジックと制御文
11. 外部ソフトを取り入れた分散型シミュレーション
12. シミュレーション例  
生産管理システム  
救急介護システム  
臓器移植システム
13. マルチメディア表現（アニメーション）
14. 出力（統計データ）の見方と感度分析
15. 簡易な社会システムモデルの作成と実行

### 【評価方法】

授業中の課題や期末の課題提出の結果を総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

### 【参考文献・資料】

Visual SLAMによるシステムシミュレーション改訂版  
(森戸晋他著 共立出版 2001)

## 情報演習Ⅲ（統計分析応用）

神田幸治

### 【授業の概要】

本授業では、アンケート調査や観察調査、心理学実験などで得られる様々なデータを、コンピュータを使用して効率よく集計、分析し、最終的にレポートとしてまとめるための情報処理テクニックに関する実習を行なう。特に、統計処理ソフトウェアSPSSを使用した実習を通して、コンピュータを用いた実践的な統計分析に関するセンスと知識を身につけることを主な目的とする。なお、本授業は、SPSSの入門（初歩）コースとして進められる予定である。

### 【授業計画】

以下よりいくつかの項目をとりあげ、SPSS及びMicrosoft Excelによるコンピュータ実習を行なう。

1. ガイダンス
2. 統計知識確認 1：記述統計と推測統計
3. 統計知識確認 2：統計的検定
4. データ分析の準備をする：図表作成 統計処理ソフトSPSS操作基本
5. データを単純に比較する：平均値の差の検定 1
6. データを多要因で比較する：平均値の差の検定 2
7. データを度数で比較する：独立性の検定・比率の検定
8. 一つの変数からデータを予測する：相関分析・単回帰分析
9. 複数の変数からデータを予測する：重回帰分析
10. データを合成する：主成分分析
11. データの背後を探る：因子分析
12. データを分離する：判別分析
13. データを群化する：クラスター分析
14. データを自由に分析する：総合課題

### 【評価方法】

出席、受講態度並びに課題レポート、試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定であるので、学期開始時に指定されるテキストを用意すること。

### 【参考文献・資料】

毎回プリントを配布する。

## 情報演習Ⅵ（インターネット応用 2）

山田雅之 遠藤 守

### 【授業の概要】

本講義ではインターネットの仕組み、情報セキュリティなどの基礎的な学習から、最近のコミュニケーション手段としての活用方法までを演習を通して理解する。

### 【授業計画】

1. インターネットの仕組み
    - ・ ネットワークのハードウェアおよびソフトウェアの階層構造
    - ・ 通信プロトコル
  2. 情報収集とコンテンツ
    - ・ 情報の検索と収集
    - ・ 様々なマルチメディアコンテンツ
  3. 情報セキュリティ
    - ・ 通信情報の保護
    - ・ 認証技術
  4. インターネットによるコミュニケーション
    - ・ チャット
    - ・ 電子メール
    - ・ 掲示板システム
    - ・ 簡易ホームページ作成ツール
  5. ホームページの活用
    - ・ グループワーキングによる情報公開
- まとめ

### 【評価方法】

講義の出席状況、レポートおよび提出課題により評価を行う。

### 【テキスト】

ホームページ上に準備したものをを用いる。

### 【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介する。

## 情報演習Ⅶ（システム設計）

吉川和男

### 【授業の概要】

本授業では、ホームページ上で稼動するチャットシステムの設計・製作とそのシステム利用を通じて、情報システムの設計・開発や管理・運用について学ぶ。先ず情報システムが果たす要件について、システムの目的・機能の面から概要を分析する。その結果に基づいてユーザの視点から見たインターフェース等の設計、さらに、プログラム構成やハード構成などの設計、ソースプログラムの作成等を行なう。演習では、例えば旅行などのホームページ上で稼動し、ホームページの情報も使いながら、チャットで話し合えるシステムを、Java、HTMLを使って作成する。

### 【授業計画】

1. システム設計とは
2. システム設計の進め方
- 3～4. チャットとは（チャットシステムの要件を分析する）
- 5～6. ユーザの視点からみたチャットシステムのインターフェース設計
- 7～8. 話し手の機能を提供するクライアントやこれらの機能をまとめるサーバ、あるいはそれらをつなぐネットワークなど、システム構成の設計
- 9～11. サーバやクライアントのプログラム設計・実装
12. チャットシステムとしての動作検証
13. チャットシステムとホームページとの併用状況も含めたシステムの出来栄え、使い勝手、改良点などの検討
14. チャットシステム維持のための運用管理

### 【評価方法】

各工程実習で作成するレポート（開発ドキュメント他）と開発したシステムの成果（品質）により評価を行う。

### 【テキスト】

使用しない（資料配布）

### 【参考文献・資料】

Java プログラミング入門（林正幸著 共立出版）

## 情報演習Ⅷ（情報システム活用）

親松和浩

### 【授業の概要】

調査・研究でオンライン情報検索システムを活用するために必要な知識と技術を習得する。この授業では、文献・統計データベースからのデータの取得法と、取得データを効果的に利用するための情報の整理・加工法について、基本的な考え方と実践的な技法を学ぶ。

### 【授業計画】

次のトピックスについて実習を通じて学ぶ。

1. 検索エンジンの活用
2. 辞典、翻訳サービスの利用
3. 文献検索：蔵書目録（OPAC）、MAGZINE PLUS
4. 文献リストの作成と整理法
5. オンラインジャーナル
6. 新聞記事、写真のオンラインデータベース
7. 白書や総務庁統計局の統計データの利用法
8. 数値データの活用法
9. 報告書作成の方法
10. 情報呈示の方法

### 【評価方法】

提出課題の評価。

### 【テキスト】

未定

## 言語文化論

小野迪雄

### 【授業の概要】

〈多言語・多民族の複合社会〉といわれるアメリカの社会について、考えてみる。植民国家としてスタートしたアメリカには、後に労働力の必要などもあって大量の移民を受容するが、同時に他国にはみられない奴隷制度の後遺症をかかえた、複雑な社会事情がある。講義ではそのうち、主にアメリカの文化地理（人口移動と文化的多様性）、宗教、言語、文学の面から考察する。

上記の四つのテーマを手掛かりとしてアメリカの社会をみていくが、当然、他の諸分野にもふれなければならないが、それはテーマの理解を掘りさげるためのきっかけとしたい。

### 【授業計画】

講義形式で授業を進めるが、進度に合わせてレポートの提出もある。

### 【評価方法】

試験を中心とし、レポートの内容や受講の意欲を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを随時配布。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 社会学概論

谷口茂

### 【授業の概要】

社会学は、人間関係を視座を据えて、個人・集団・社会のレベルで、社会を総体的に研究する学問である。授業では、学生の関心と興味を考慮して、現代社会の中心的な課題を分析対象に取り上げる。まず、実証的・相互関連的・生活志向的観点から、その現状・実相を把握する。次に、社会に内在する課題・問題を抽出し、これに検討を加える。最後に、これらの課題を解決・解消するための方策を研究する。さらに、研究方法として、現代社会が絶えず変動を続けている点に着目し、いくつかの変動を選び、これを切り口として、現代社会の実像に迫りたい。さらに、講義を通じて学生の問題解決能力・政策提示能力の涵養をはかりたい。

### 【授業計画】

上記の社会変動の切り口と授業で取り上げる課題は以下の通りである。

1. 平成不況・・・不良債権 財政赤字
2. 少子高齢化・・・公的年金制度改革 子育て環境の改善
3. 国際化・・・在日外国人との軋轢 ODAの不効率
4. 情報化・・・マスメディアの情報操作 情報関連犯罪の増加
5. 環境悪化・・・地球温暖化 環境ホルモン 生活廃棄物

講義方式で授業を進めていくが、適宜、学生に質問を投げかけ、回答を求め、学生の思考能力を高めることに努めている。さらに、期末試験以外にレポートを提出させる。

### 【評価方法】

期末試験の成績70%、レポートの成績20%として、総合的に評価する。さらに、出席を点検してこれを評価に反映させる（10%）。

### 【テキスト】

使用しない。講義に必要なデータを収集し、プリントして毎回、配布する。

## 現代社会論

石田米和

### 【授業の概要】

急激に変化する社会環境のなかでの個人の存在や人間関係、家族や組織そして文化や政治、国家、メディアやグローバリゼーションなどについて、基本的に社会学の視点から論じていく。

### 【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。

### 【評価方法】

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業内で、適宜紹介する。

## 家族社会学

金子佳代

### 【授業の概要】

私たちにとって非常に身近な「家族」を社会的諸条件と関連づけて、客観的に見直す。また、結婚や子育てなどについての意識や欲求が、自分たちの気づかない部分で社会的に形成されることについても考える。

### 【授業計画】

1. 家族についての基本的概念
2. 配偶者選択と結婚
3. 夫婦の人間関係
4. 離婚
5. 子どもの社会化
6. 育児不安
7. 女性と職業
8. 高齢社会と老親扶養

### 【評価方法】

定期試験による。授業中に行う小テストも評価に加える。

### 【テキスト】

なし。プリントを配布する。

## フィールドワーク論Ⅰ

谷沢 明

### 【授業の概要】

フィールドワークとは、現地調査・野外研究のことである。社会の事象を把握し、実証的に解明する手法として、このフィールドワークはきわめて有効な手段となりえる。フィールドワークの三要素は、「あるく・みる・きく」という行為であろう。まずは資料を探索するために自らの足で歩く。そして物事を自分の目で深く見つめる。さらに地域で暮らす人々の話に謙虚に耳を傾ける。それがフィールドワークの基本である。このようにモノに対峙し、人間の営為と意志を読み取る作業をとおし、本物を見きわめると洞察力を養ってほしいと願っている。

### 【授業計画】

1. フィールドワークとは何か～あるく・みる・きく～
2. 景観を読む～ムラの風景から人間の営みを見る～
3. 風土と地方色を探る～日本の民家から～
4. 日本文化を探る～住まいをとおして～
5. 生活文化を探る～居住形式から～
6. 伝統美観を守る民芸のまち～倉敷～
7. 演出された古きまち～高山～
8. 水の恵みを活かした地域づくり～郡上八幡～
9. 八幡堀再生への思い～近江八幡～
10. 掘割を活かした地域づくり～柳川市～
11. 民俗芸能の見方～奥三河の田峯田楽～
12. 民俗芸能の見方～奥三河の花～
13. 宮本常一のフィールドワーク論  
～師から学んだもの～

学外教育としてフィールドワークを行う。

### 【評価方法】

フィールドワークを伴う中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

## 統計学概論

元吉忠寛

### 【授業の概要】

行動科学の研究を行うのに必要な統計解析法とその理論について講義します。統計学的な考え方や統計的手法は、実社会においてますますその必要性が大きくなっています。特に、大量の情報があふれる現代社会では、情報処理のツールとして統計学を欠くことはできません。この講義では、必要に応じて、データの分析や図表の作成も行います。

### 【授業計画】

1. 統計データとその分布
2. 分布の特徴をあらわす指標 (1)
3. 分布の特徴をあらわす指標 (2)
4. 確率分布と標本抽出
5. 推定と検定
6. 2群間の平均の比較 (1)
7. 2群間の平均の比較 (2)
8. 相関関係の分析
9. 回帰分析 (1)
10. 回帰分析 (2)
10. 分散分析 (1)
11. 分散分析 (2)
12. カテゴリー変数の関連分析
13. まとめ

### 【評価方法】

課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

## フィールドワーク論Ⅱ

谷沢 明

### 【授業の概要】

人間が自然に対峙し、共存しながら築いてきた暮らしの様式と内容を、フィールドワークの視点から考える。内容は、物質文化と精神文化の両面を対象とし、フィールドワークの成果をもとにビデオ等の映像を用いて、具体的かつ分析的にとらえる。とりわけ、歴史的遺産の継承とまちづくりの観点から、地域文化の振興について重点的に扱い、地理・歴史・生活文化の分野を重視した内容を目指す。

### 【授業計画】

1. 生活文化を見つめるフィールドワーク
2. 地域文化と地域振興を見つめるフィールドワーク
3. 街道の文化～妻籠宿の町並み保存～
4. 街道の文化～宿場景観を行かす?川村～
5. 旅の分化史～お伊勢まいり～
6. 名古屋の文化～熱田神宮の特殊神事～
7. 奥三河の郷土芸能～鳳来寺田楽～
8. 高度経済成長を振り返って～量的拡大から質的充実の時代へ～
9. 政策と地域文化
10. ワインによる地域づくり～北海道池田町～
11. 村おこしの元祖～大分県大山町～
12. 地域文化を活かす～歴史・文化・風土を活かした地域づくり～
13. 地域文化・地域振興の実践と宮本常一

学外教育としてフィールドワークを行う。

### 【評価方法】

フィールドワークを伴う中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

## 経済学概論Ⅰ

秦 忠夫

### 【授業の概要】

大学生もすでに経済社会の一員で、「経済」はみなさんの身近なところで動いています。しかし、漠然としていて奥行きが深いため、どういう仕組みで動いているのか大いに興味はあるが理解を深めるてかかりがつかみにくい。そう思っている人が多いのではないのでしょうか。経済の動きがわかるようになるためには、まず経済学の基本を一通り勉強し、現実の動きを興味をもってフォローしていくことが大切です。この講義は、経済全体の動きを分析対象とするマクロ経済学の基礎を習得してもらうことを主たるねらいとしています。単に理論の説明に終わらず、できるだけ現実の日本経済の動きと関連づけて解説する方針です。

解説がていねいで入門書として最適と思われる下記のテキストを使用して、マクロ経済学の基礎を一通り幅広く勉強します。必要に応じ補足資料を配付します。

### 【授業計画】

1. GDP統計のしくみ
2. 消費と貯蓄の理論
3. 投資の決定理論
4. マクロ経済における金融の役割
5. 貨幣の需要と供給
6. 乗数理論とIS-LM分析
7. 財政赤字
8. インフレーション
9. 失業

### 【評価方法】

期末試験と小テストの結果を総合して評価します。

### 【テキスト】

マクロ経済学・入門 (第2版)  
(福田慎一・照山博司著 有斐閣 2,100円)

### 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介します。

## 経済学概論II

荒山裕行

### 【授業の概要】

社会は家計と企業によって構成されている。それらをつなぎつけているのが市場(しじょう)である。ミクロ経済学は、家計、企業、そして市場の動きを理解するための理論、すなわち道具である。この道具を身につけることで、私たちの身の回り経済活動の多くがいかにも簡単に理解可能になる。

### 【授業計画】

- 1 ミクロ経済学の考え方
- 2 市場の均衡
- 3 消費者の行動行動
- 4 消費の理論
- 5 需要曲線
- 6 さまざまな財：代替財と補完財
- 7 企業の理論
- 8 供給曲線
- 9 完全競争
- 10 独占と寡占
- 12 不完全な市場：公共財
- 13 不完全な市場：外部性
- 14 所得分配：賃金と利子率
- 15 何が明らかになったのか

### 【評価方法】

中間レポート(30%)と期末試験(70%)の合計得点で評価する。

### 【テキスト】

初心者のための やさしい経済学(塚崎公義・山澤光太郎 東洋経済新報社)

### 【参考文献・資料】

経済に関連する図書館の本、インターネット情報、テレビ・ラジオ番組、毎日配達される新聞などの全てが生きた「参考文献」になる。これらを大学生活の一部に取り入れること。

## コミュニケーション論

太田浩司

### 【授業の概要】

本講義では人間コミュニケーションのプロセスについてさまざまな理論的視点から検討する。言語や非言語を通しての対人コミュニケーションから、近年目覚ましい発達をしているメディアテクノロジーを媒介してのコミュニケーションまで様々な形態のコミュニケーションを考察する。自らのコミュニケーション活動を省み、より円滑なコミュニケーション生活をするために必要な技術や資質に関しての知識を深めることを目標とする。

講義の内容については初回の講義で詳しく説明する(必ず出席すること)が、以下の内容を扱う予定である。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションとは
2. 言語とコミュニケーション
3. 非言語とコミュニケーション
4. 組織、グループとコミュニケーション
5. テレビの影響
6. メディアテクノロジーとコミュニケーション

### 【評価方法】

出席、レポート1回、期末試験

### 【テキスト】

異文化コミュニケーション 有斐閣選書

### 【参考文献・資料】

授業にて紹介・配布する。

## 社会心理学

石田米和

### 【授業の概要】

大きく変容する社会経済環境への“適応・不適応”をキーワードにして、人と人、人と社会の間に生ずる様々な現象を解明し、人間や社会の在り方についての洞察力、問題解決能力等を養っていくことを主な目的とする。

### 【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。

### 【評価方法】

・真剣に学ぶ意欲のある学生のみが履習すること。  
・レポート、定期試験および出席状況、受講態度受講態度、によって評価する。

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

## 政治学概論

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治体制や政治制度との関わりで政治の動態を概括的に捉える能力を涵養すると共に、戦後日本の政治・外交を国際的視野で考察することを、講義の目的とする。

また、政治との絡みではあるが、時事的な問題についても積極的に取り上げていく。特に、立法過程や外国為替の政治・経済のメカニズム、イスラム原理主義および政治指導者について重点的に取り上げたい。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a. 戦後世界における国際関係
  - b. トランスナショナル現象と国家間の相互依存性の増大
  - c. 政党、官僚、利益団体、議会とその相互関係
2. 市民社会と大衆社会
  - a. 市民社会と古典的デモクラシー
  - b. 大衆社会とマス・デモクラシー
  - c. 立法国家と行政国家
3. 「55年体制」の成立とその崩壊
  - a. 冷戦構造と55年体制との関連
  - b. 日本の政治風土・田中角榮の場合
4. 政治権力
  - a. 権力とは何か
  - b. 王権神授説→社会契約論→“人民”の支配
  - c. リーダーシップ
  - d. マス・メディア、シンボル

### 【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験の際、自筆ノートと講義資料の持込を許可する。

### 【テキスト】

使用しない。但し、適宜、講義資料を配布する。

## 法学概論

大嶽 浩

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされており、数多くの「法」が日常生活に関わっているが、この授業では、その日常生活を「民法」の観点からみつめることで、「法」とは何か、を考える。

### 【授業計画】

1. 日常生活と法、法律と法
2. 公法と私法、民法と法
3. 商法と民法、民法典と民法
4. 行為能力と法、代理と法
5. 法律行為と法、時効制度と法
6. 占有と法、所有と法
7. 担保物権と法
8. 契約と法、保証と法
9. 不当利得と法、不法行為と法
10. 家族と法
11. 相続と法、法と人生

### 【評価方法】

試験による評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育学概論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

現代世界は多くの社会問題を抱えている。教育問題はこれらの社会問題の一つであると同時に、これらの有効な解決方法の一つでもある。あるべき教育とは何か。これほどあるべき教育が語られるのになぜ教育問題は解決しないのか。本講義はこれらの問いへの答えを教育と社会の連関から考察していく。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：教育と教育学
2. 教育の思想と歴史：近代以前と近代以後
3. 教育制度：各国の教育行政と学校制度
4. 教育内容と教育課程
5. 教育方法
6. 家庭教育としつけ：教育の比較文化
7. 社会教育と生涯学習
8. 総括：人権としての教育

### 【評価方法】

レポート

### 【テキスト】

教育の比較社会学（原清治他編 学文社）

### 【参考文献・資料】

生涯発達と自己実現（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

## 国際情勢論

青島 宏

### 【授業の概要】

第二次大戦後の国際政治の在り方は冷戦終結により激変し、新しい国際秩序はまだ見えてこない。日本人が今後国際的に活躍するためには、現代の国際社会の流れをできるだけつかんでおく必要がある。半世紀続いた冷戦構造の変化をたどりながら、国際連合など国際機関・組織についての基本的知識を身につけさせるとともに、混迷を続ける冷戦後の国際情勢の読み方を考える。

〔ガイダンス〕 国際情勢を動かす力は経済、政治、その背後にある文化、民族性などがある。地理、風土や歴史などを含めた地政学視点の重要性を述べる。

〔国民国家とは〕 現代の国際情勢を動かす原動力となった国民国家を理解させるために、古代国家から近代の国民国家への成立の歴史でのフランス革命などの意義。

〔冷戦構造の始まり〕 現在の国際関係の基本的構造の源は第二次世界大戦にある。いわゆる冷戦構造とは何か、大戦末期のヤルタでの米、英、ソ連の首脳会談など。

〔冷戦構造の変遷〕 いわゆるヤルタ体制として冷戦構造が定着する国際情勢の変化を「ブラハの春」やハンガリー動乱などとソ連、米国、西欧政治との関わりを解明する。冷戦構造は不変ではなく、デタントなど様々なバリエーションが現れた。ゴルバチョフソ連共産党書記長の登場で冷戦構造の消滅が始まる。東欧の激動に続くベルリンの壁崩壊で冷戦構造消滅は決定的になり、バルト三国独立、ソ連消滅へとつながる。

〔冷戦後の世界〕 冷戦構造消滅により、地域紛争が世界各地で多発している。紛争の性格は地域の歴史的背景によって異なる。湾岸戦争、中東和平への動き、ベルリンの壁崩壊につづいて発生した東欧の変化や、9・11米中核テロ以後のアフガン問題、イラク戦争などを手掛かりに、新しい国際秩序への動きを考察する。

### 【授業計画】

理解を助けるために地図、スライド、写真などを多用する。

### 【評価方法】

随時実施の小テストによる。

### 【テキスト】

使用せず。

## 国際理解教育論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
  - (1) 近代化への萌芽
  - (2) 海外視察と帰国後の動向
  - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
  - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
  - (1) 学校教育における国際理解教育
  - (2) 海外留学生等の派遣と受け入れ

### 【評価方法】

レポートにより評価を行う。

### 【テキスト】

授業中に紹介する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## ジェンダー論

國信潤子

### 【授業の概要】

近年、公的文書などにもジェンダー（gender）ということばが頻繁に使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。つまり、社会的に期待される役割、意識、行動様式などの性別区分を指す。従来の固定的性別分業とは異なり、個性的な新たな社会的役割行動様式をとる青年たちが増加してきている。このような社会変容の背景、法制度の改革などを紹介する。統計データから変化を実証する。また固定的な男らしさや女らしさをこえて個性の発揮があり、独創性にあふれている。男女ともに家事、育児・介護責任遂行、労働、地域活動を行える社会を展望する。

### 【授業計画】

この講座では現代社会におけるジェンダー関係を社会学的な統計データなどで紹介し、現代日本における女性・男性の社会的位置付けを国際比較しつつ考察する。また各種法制の変革、国際条約・規約などにみるジェンダー関係変容を考察し、日本におけるジェンダー関係の将来を展望する。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

### 【評価方法】

期末のレポート、出席状況、履修態度、授業後の感想カードなどの総合評価による。

### 【テキスト】

女性学・男性学へジェンダー論入門  
(伊藤國信他著 2002年刊 有斐閣)

### 【参考文献・資料】

・法律にみる女性（ミネルバ書房）

## 生活環境学

渥美正子

### 【授業の概要】

住まいを取り巻く社会環境の変化は、住宅・住環境面に対して様々な問題を提起し、従来の住み方を見直す要因となっている。高齢社会の進行、高度情報化社会の到来、人工的室内環境、家族・ライフスタイルの多様化、地域コミュニティへの無関心など、住生活に関わる今日の問題を客観的に把握し、健康で文化的な住まいの実現に向けての問題解決の視点を考察していく。

### 【授業計画】

1. 家族・ライフスタイルの多様化と住まい  
家族の形態・機能・関係・役割が変容するなかで、住宅・居住地に対して、新たにどのような機能が求められているのかを考える。
2. 高齢社会と住まい  
急速な高齢化が進むなかで、高齢者が人間としての尊厳を守ることできる住宅・居住地のあり方を考える。在宅福祉の基盤となる住まいをどのように改善するのかを理解し、ついでに住みかとしての新しい住まいのかたちについても論じる。
3. 子どもと住まい  
子どもは自らの意思で住環境を選択できないため、健全な発達を保障する住環境を、子どもの視点にたつて整えることは親や大人の責任である。子ども部屋のあり方、高層居住と子ども等について考える。
4. 健康と住まい  
住宅建材が健康に及ぼす影響が社会問題となっている。今なぜ、住まいと健康をめぐる議論が活発化してきたのかを、主に住み手の生活スタイルから考える。
5. 住まいとモノ  
限られた住空間がモノに占領され、住み手の生活が制約されている現状がある。生活者として、住まいとモノとの関わりをいかに考えていくかについて考える。

### 【評価方法】

試験とレポートによって行う。

### 【テキスト】

図解住居学1 住まいと生活（岸本幸臣他編 彰国社）  
プリント配布。

## NGO・NPO論

ブイチトルン

### 【授業の概要】

現代社会において、自主的に社会へ参画・行動する市民が増えている。NPO活動は地域社会変革を、さらにNGO活動は世界平和・繁栄をもたらす手段として評価されている。今の若い学生にこれらの活動に関する情報、知識、実践例を多く伝え、また開発教育手法を用い社会行動できる人材に育成する。

### 【授業計画】

1. NPO総論：
  - 1) NPOとは？ボランティアとNPOとの相違
  - 2) 世界・日本のNPO活動の潮流
2. NPO各論：
  - 1) NPO法の成立とその内容
  - 2) 企業とNPO
  - 3) 政府・地方自治体とNPO
  - 4) NPOの中間支援組織
  - 5) NPOで働く人々
  - 6) 日本社会におけるNPOの役割、現状、課題、展望
3. NGO総論：
  - 1) NGOとは？国際交流と国際協力
  - 2) 世界・日本のNGO活動の潮流
4. NGO各論：
  - 1) \*国連とNGO \*環境とNGO \*女性とNGO \*教育とNGO \*開発とNGO \*在住外国人とNGO \*その他
  - 2) 政府・自治体とNGO
  - 3) 各地のNGO推進支援センター
  - 4) NGOで働く人々
  - 5) 日本のNGOの役割、課題とその展望

### 【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

### 【テキスト】

授業中適宜に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

## 都市環境デザイン概論

垂井洋蔵 河辺泰宏 日色真帆 太田 裕 清水裕二 齋藤基之

### 【授業の概要】

都市環境デザインコースにおける教育課程の編成と学習方法を説明する。この講義を通して都市環境デザインの全体像とそのひろがりを理解するとともに、建築と都市に関する今日のテーマについてその一端を紹介する。一級建築士受験資格の取得を目指している人には、本科目は必修科目であるので、必ず受講すること。

### 【授業計画】

8名の教員で担当し、それぞれが専門とする分野から、基本的で、興味深い話題を提供する。  
街づくり、オフィスデザイン、インテリアデザイン、室内環境、現代都市建築、都市の防災、歴史的建造物の維持・再生、立体的に複雑な都市空間等のトピックスを取り上げる予定である。  
講義を中心とするが、テーマによっては、学生からの発表をもとに議論する。

### 【評価方法】

各担当教員による授業期間中の小レポートと、期末に課題に従って提出するレポート、および出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

なし。随時、プリント教材を配布する。

基礎

## 歴史学Ⅰ（日本史）

岩口和正

### 【授業の概要】

今、日本社会は様々な分野で、かつてない「国際化」の波に洗われていきます。また、近年の国際政治の場でも、日本の「歴史問題」がしきりに問いかけてられています。これらのことは、ややもすれば孤立的に理解されがちな日本の社会・文化の歴史をあらためて国際的な視野から見直すことを私たちに求めています。そこで、問題の重要性の割には取り上げられることも少なく、また、あまり広く知られているとも言えない日本の国際社会との関係の歴史を、それぞれの時代の特徴を踏まえながら概観したいと思います。

### 【授業計画】

- 1) 近代日本のアジア認識1 <琉球処分と蝦夷地開拓>
- 2) 近代日本のアジア認識2 <征韓論と江華島事件>
- 3) 鎖国時代の日本と朝鮮 <朝鮮通信使と国書偽造事件>
- 4) 室町将軍と中国皇帝・朝鮮国王 <交隣と事大>
- 5) 蒙古襲来と宋人來着
- 6) 蕃国としての新羅・渤海
- 7) 遣隋使と遣唐使 <大唐皇帝と日本天皇>
- 8) 日本国家と列島内住民1 <琉球王国と江戸幕府>
- 9) 日本国家と列島内住民2 <蝦夷・隼人>

### 【評価方法】

期末テストによって成績評価をします。

### 【テキスト】

使用しません。

### 【参考文献・資料】

各時間毎に必要な史料を配布します。  
参考文献は最初の講義で紹介いたします。

## 地理学

小笠原節夫

### 【授業の概要】

日本では近年、少子・高齢化がいくつかの先進国と同様社会問題となり、近い将来には総人口が減少すると予測されている。他方では過大な年少人口を抱え、人口増加に悩む開発途上国も少なくない。また、国内人口における「過密」と「過疎」の不均衡分布は先進国、開発途上国に共通する現代的課題である。講義ではそのよってきたる要因を探り、問題点を整理・解説する。なお、高校での「地理」未習者向けに、毎回の講義の冒頭20分ほどを基本的な地理学用語の解説に当てる。

### 【授業計画】

1. 人口の分布と増減
  2. 人口の移動
  3. 人口の構造
  4. 人口問題
  5. 集落の立地と形態
  6. 都市の構造と都市システム
- テキストとプリントを用いての講義。数回の宿題を課す。

### 【評価方法】

試験（70%）、出席状況（15%）、宿題の提出状況（15%）による。

### 【テキスト】

人口地理学入門（小笠原節夫著 原書房 2,000円）

## 歴史学Ⅱ（世界史）

北村陽子

### 【授業の概要】

社会主義の実験が破綻し、ヨーロッパの国々が再編されてから10年余りが経過した。その間に、そもそも現代社会の基礎となるべきヨーロッパの近代とは何であったのか、ということが絶えず問いかけてきた。本講義では、現在の激変の基盤ともなるヨーロッパの近代に焦点を当て、個別の国家の変動と、それらが相互にどのように影響しあって国際社会を形成していったのかについて理解を深める。

### 【授業計画】

1. はじめに 歴史を学ぶことの意義と現代社会の理解について
2. 絶対主義の時代  
(1) イギリス、フランスの絶対主義  
(2) プロイセン、オーストリアの絶対主義
3. 市民革命の時代  
(1) イギリスの二つの革命  
(2) アメリカ独立革命  
(3) フランス革命  
(4) ナポレオンの登場とウィーン体制  
(5) 環大西洋革命・ラテン・アメリカの独立から1848年革命へ
4. ナショナリズムの時代  
(1) ドイツとイタリアの統一  
(2) 帝国主義の拡大と植民地争奪  
(3) 第一次世界大戦
5. おわりに 現代の幕開け—大衆民主主義社会の到来

### 【評価方法】

定期試験と出席から総合的に評価する。

### 【テキスト】

大下尚一編著『西洋の歴史（近現代編）』ミネルヴァ書房 1998

### 【参考文献・資料】

榊山紘一『ヨーロッパの歴史』放送大学教育振興会 2001  
谷川稔編『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』山川出版社 2003  
そのほか講義中に適宜指示する。

## 地誌学

小笠原節夫

### 【授業の概要】

イギリスとアメリカ合衆国はともに幕末以来、日本の近代化に大きな影響を及ぼした国であったし、今も日本とは多方面にわたって密接な関係にあるが、国内がきわめて地域性に富むことは日本では無視されることが多い。本講義は2国の風土・人口・産業・農村・都市の態様を、日本のそれと比較しながら紹介・考察し、両国に関する地理的理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

1. アメリカの自然と産業
  2. アメリカの人口と農村・都市
  3. イギリスの自然と産業
  4. イギリスの人口と農村・都市
- テキストを用いての講義。数回の宿題を課す。

### 【評価方法】

試験（70%）、出席状況（15%）、宿題の提出状況（15%）による。

### 【テキスト】

イギリスとアメリカ（安藤万寿男・山鹿誠次著 原書房 2,060円）



## 民俗学

谷沢 明

### 【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折目にあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～  
学外教育としてフィールドワークを行う。

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

## 食文化論

千葉善根

### 【授業の概要】

人間が生活している所には食物があり、その地域、その国において長い歴史を経た独特の食品を作り出した。これらは人間と人間との交わりをとおして生活に結びつき、農耕文化や牧畜文化をつくり、交易・信仰・戦争などのかかわりをもって広がり定着したものである。わが国の食文化としてどのようにして受け入れられ、変化をしてきたか歴史・生活・文化をとおして考えると多様な食文化に対する理解の道を探る。

1. 日本の食文化形成要因と食生活の変化について
2. 米食文化について
3. 麦食文化について
4. 乳食文化について
5. 肉食文化について
6. その他

### 【授業計画】

講義形式 VTRを数回使用する。

### 【評価方法】

レポートおよび授業内小テスト。

### 【テキスト】

使用しない。

## 都市社会論

安藤純子

### 【授業の概要】

私たちは複雑な現代社会の潮流の中で日々の生活を送っている。そのような社会がどのような構造をもち、私たちとどのような関わりがあるかについてさまざまな分野で研究されてきている。都市社会論では、特に都市に焦点を当て、社会学的視点から、都市社会特有の構造や人間関係などについて、これまでの主要な理論をふまえ、今日主として扱われている研究テーマ等について学習していく。

### 【授業計画】

1. イントロダクション
2. 都市社会学の歴史1
3. 都市社会学の歴史2
4. シカゴ学派の都市社会学1
5. シカゴ学派の都市社会学2
6. 日本の都市社会学1
7. 日本の都市社会学2
8. ネットワーク研究1
9. ネットワーク研究2
10. 今日の都市問題1
11. 今日の都市問題2
12. まとめ

### 【評価方法】

定期試験および出席状況による評価を行う。

### 【テキスト】

特になし。参考文献は授業中に適宜紹介する。

## 消費者行動論

石田好江

### 【授業の概要】

「必要」の限界を超えることができた経済は、いま資源や環境など新しい限界に直面している。経済学の理論が資源・環境制約を理論に組み込まなければならぬだけでなく、企業にとっても生き残るために、いまや企業利益と消費者利益の両立が重要な課題になっている。本講では、そうした社会経済の変化を踏まえながら、消費行動・消費者行動の変化とその方向性をさぐってみたい。

### 【授業計画】

1. 消費社会とは何か
2. 消費行動決定に関わる経済的要因  
価格と消費行動  
所得と消費行動
3. 消費行動決定に関わる内的要因と外部環境要因  
消費行動と知覚・動機付け、態度変容、関与、パーソナリティ  
消費行動と準拠集団、状況要因  
消費行動とマーケティング  
一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを自由に書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつかを選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

### 【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

### 【テキスト】

使用しない。

## 人口動態論

坂井貞彦

### 【授業の概要】

日本人口の動向、人口問題と人口政策、人口動態（結婚、出生、死亡など）、人口構造（年齢別、産業別など）、世界人口、将来人口の推計などを学ぶ。さらに、人口問題は、地域を超えた課題であるとともに、地域によって現れ方が異なっていることを理解する。

### 【授業計画】

講義方式による。おもな統計資料などをプリントとして配布する。

- 1 日本人口の推移と今後の見通し
- 2 少子化と高齢化 [I]
- 3 人口問題と人口政策（日本及び先進国）
- 4 人口に関する統計調査
- 5 人口の男女別、年齢別構造
- 6 結婚と出生
- 7 死亡統計、生命表、平均寿命
- 8 労働力、就業者、産業と職業
- 9 少子化と高齢化 [II]
- 10 世界人口の推移と人口政策
- 11 人口爆発と人口政策
- 12 将来人口の推計

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出席率を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

人口統計学（増補改訂版）（岡崎陽一 古今書院）

## 日本経済論

竹村 弘

### 【授業の概要】

わが国は、「バブル経済」崩壊以降、平成の「10年代不況」から「2000年デフレ」へとかつてない長期不況が継続し、相次ぐ大型企業倒産、金融再編、リストラ・失業など、深刻な社会問題が生じています。「超氷河期」と言われて久しい就職難は、改善の兆しも見られません。「ついていない」「運が悪い」ということではなく、「なぜだ」「なにが悪かったか」「これからどうなるか」を考えましょう。

### 【授業計画】

1. 経済の原点：経済政策の基本課題を、経済の原点に立ち戻って考える。
2. 日本の見当識：わが国の経済社会指標を欧米先進5か国と比較することにより、「経済大国・日本」「生活小国・日本」の実態を認識し、次いで日本の百年を回顧することにより、現在大きな転換期にあること理解する。
3. 経済指標の見方：わが国経済を正しく理解するためには、経済指標の理解が必要である。国内総生産、国際収支、為替、物価、雇用指標など、主要な経済指標について解説する。
4. バブル経済と平成の『10年大不況』：「バブル経済」の形成は、対外バランスに気をとられた極端な金融緩和政策および目いっぱい財政出動に起因し、その崩壊は慎重さを欠く金融引き締め政策・地価規制政策によるものである。その後も不適切な経済運営が繰り返され、「2000年デフレ」へと未曾有の長期不況が継続している。

### 【評価方法】

毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

### 【テキスト】

配付プリント。

## 産業・組織心理学

榎原國城

### 【授業の概要】

この講義では、会社や役所、あるいはその他の団体などの組織における人間の職務遂行行動や対人関係に影響を及ぼす心理学的要因を明らかにしていくことを目指す。その際、人間（集団を含む）の行動を、行動主体とそれをとりまく組織的環境との相互依存関係としてとらえる。したがって、この講義では、組織で働く人間の能力や意識・行動が、人間の置かれた外的環境（仕事、他者、集団、組織構造など）との相互作用過程において、主たるテーマになる。以上の視点に基づいて、最近の研究動向を踏まえて、新たな産業社会を展望する。

### 【授業計画】

1. 産業心理学の発展
2. 科学的管理法とホーソン研究
3. 職業選択と職業適応
4. 適性とパーソナリティ・アセスメント
5. 動機づけと職務満足
6. 組織の機能
7. 組織における職務と組織成員の役割

### 【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

### 【テキスト】

人と組織の心理学（榎原國城著 1999 文教資料協会 定価2,048円）

## 国際金融論

秦 忠夫

### 【授業の概要】

国際間の経済取引は經常取引（商品・サービスの輸出入）と資本取引に大別されますが、いずれの面でも取引の自由化が進んで世界経済は相互依存関係を深めています。こうした動きのなかで、世界の共通通貨が存在しない今日、国際経済取引の決済にあたっては異種通貨の交換（例えば円とドル）が必要となり、その交換比率（為替相場）が変動すると個々の取引が影響を受けるのみならず、一国あるいは世界の経済活動全体にも影響が及びます。実際、変動相場制と呼ばれる現在の国際通貨制度のもとでは、為替相場の変動が激しく、世界経済の成長が時として攪乱されています。この授業は、世界経済の結びつきを通貨・金融面から理解するための基礎知識の習得をねらいとしています。

### 【授業計画】

- (1) 外国為替取引のしくみと実態（外国為替のしくみと形態、外国為替相場、外国為替市場、為替リスクヘッジの手法）
- (2) マクロ経済分析の視点から通貨問題を理解するための基礎知識（国際収支のしくみ、為替相場と国際収支、為替相場の決定理論）
- (3) 国際通貨制度の歴史と現状（国際通貨制度のしくみ、国際通貨制度の変遷、ヨーロッパの通貨統合、国際通貨制度改革、円の国際化）

### 【評価方法】

節目で小テスト実施。  
期末試験と小テストを総合して評価。

### 【テキスト】

国際金融のしくみ（新版）（秦忠夫・本田敬吉著 有斐閣 1,900円）

### 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

## 日本政治外交史

西尾林太郎

### 【授業の概要】

「19世紀後半から1920年代にかけての日本の政治外交」

日本における近代国家の成立とその展開過程について、政治・外交を中心に理解すると共に、現代日本の政治・外交や社会を考察する視点を形成することを目的とする。

### 【授業計画】

1. 徳川幕藩体制と幕末維新の政治と外交
  - a 近世の徳川幕藩体制下の政治システムや社会のルール。
  - b 鎖国下における最大の友好国は李氏朝鮮であった。
  - c 政治的・経済的統合を目指して、天皇政府はどのような施策を打ち出したか。
  - d 沖縄の廃藩置県は明治12年＝1879年であった。
2. 明治憲法体制の成立とその外交
  - a 憲法制定に向けての動きが明治1ケタ代にすでに始まっていた。
  - b 大日本帝国憲法と教育勅語。
  - c 朝鮮半島をめぐる日清、日露間の対立。
  - d 政友会の成立。
  - e 日露戦争が、明治憲法体制における”民主化”を促進した？
  - f 欧米列強の了解のもとで韓国併合がなされた。

### 【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験は自筆ノートと教科書の持込を許可する。コピーは持込不可。

### 【テキスト】

新詳日本史図説（浜島書店 800円）（後半の三分の一を主に使用する）。

## 欧米教育文化史

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

### 【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立
6. 欧米教育文化と今日の世界の教育

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編 名古屋大学出版会）

### 【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子 日本放送出版協会）  
歴史のなかの子どもたち（森良和 学文社）  
教養の復権（沼田裕之他 東信堂）

## 国際コミュニケーションズ

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

＜多文化・多言語社会のコミュニケーション＞

文化の多様性を尊重し共存を目指す多文化共生への流れは、世界各地で増々大きなものになってきている。その中で意思の疎通をはかるためには、まず、それぞれの背景にある文化とそれに根ざした異なる価値観・発想があることを知らなければならない。異文化間のコミュニケーションをはかり共生の道を探っている多文化社会のあり方を考察する。

英語読解力の強化を念頭に置き、英文の教材を用いる。

### 【授業計画】

多文化社会に関する英文テキストおよび英字新聞記事などの講読を行い、解説を加える。ビデオ視聴も行う。

### 【評価方法】

期末試験および平常の勉学状況により評価を行う。

### 【テキスト】

テキスト未定。英字新聞記事のコピーなどは、授業で配布する。

## エスニシティ論

藤井麻湖

### 【授業の概要】

エスニシティ論は、人類学において大きな位置を占めている。エスニシティとは何か？これを一言で述べることは難しいし、また妥当でもないであろう。それよりもむしろ、エスニシティという言葉でどのような現象や出来事が取り扱われてきたのかを知るほうが手取り早い。この趣旨に沿って、本講義では具体例を示しながら、以下の【授業計画】で列挙したような、エスニシティにおいて重要と思われるトピックを中心に論じることにしたい。

### 【授業計画】

- エスニックとは何か？
- エスニック・アイデンティティがあることと、エスニック集団の成員であることは同じでない。
- 言語はエスニック・アイデンティティの重要な源泉であるが、必ずしもそうではないことがある。
- 都市における「エスニック」は、「経済的弱者」を指すことがある。
- 観光は、エスニシティ論と密接な関係がある。
- エスニシティ論は、民族問題を避けてきたか？
- エスニシティ論は、日本人論とどのように関わっているのか？

### 【評価方法】

平常の出席点と期末試験。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

「エスニック」とは何か エスニシティ基本論文選（青柳まちこ編・監訳 新泉社）

## 組織コミュニケーション論

榊原國城

### 【授業の概要】

組織コミュニケーションをコミュニケーションの構成要素の観点から整理すれば、組織あるいは組織の成員が、自己に関する情報を、受け手（組織の成員および組織外の人々）のニーズに応える形で体系化し、様々なメディアを通じて伝達する過程であると考えられる。したがって、この講義では、組織コミュニケーションを巡る種々の問題、すなわち、現代社会における組織の機能とコミュニケーションとの関わりの中で生ずる問題を、行動科学をはじめとする隣接諸科学における基礎的な理論に基づいて分析し、考察する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションの基本過程
2. 組織コミュニケーションのタイプと特色
3. 職場のコミュニケーションと人間関係
4. 組織成員の役割とコミュニケーション
5. 職場におけるストレスとコミュニケーション
6. リーダーシップとコミュニケーション
7. 女性のキャリア形成と組織コミュニケーション

### 【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

### 【テキスト】

人と組織の心理学（榊原國城著 1999 文教資料協会 定価2,048円）

## 労働社会論

石田好江

### 【授業の概要】

労働市場や労働者の就業行動が、人口構成の変化、産業構造、技術革新、国際情勢といった要因からどのような影響を受け、どう変化してきているかを理解する。また、今日大きな課題である「日本的雇用慣行」の問題や「ジェンダーと労働」の問題についても考える。

### 【授業計画】

1. 「労働」の系譜
2. 労働市場
3. 賃金・人事制度
4. 労働時間
5. ジェンダーと労働
6. 雇用構造の多様化
7. 日本的雇用慣行の変化
8. 高齢社会の労働・労働市場

一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつか選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

### 【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

新版 労働経済（永山武夫編著 ミネルヴァ書房）

## 地域開発論

竹村 弘

### 【授業の概要】

従来の「地方開発」は、中央と地方の経済格差の是正を目的として、主として地方への産業開発・企業誘致により実施されてきたが、今日の新しい「地域開発」は、各地域それぞれが、知恵・金・人を自分たちで出し、誰にも頼らず、自律的に発展するような、自立した「地域づくり」を目的としている。

### 【授業計画】

1. 地域開発概論：従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、次いで、現在の新しい「地域開発」の課題が何であるかを述べる。
2. 地方開発の光と影：地方開発が成功し、大きく発展した地域がある一方で、産業公害の被災地、衰退産業と共に疲弊した地域、農山漁村の過疎化などは、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日のゴミやダイオキシン、自動車排ガス等の環境問題および東海地震の懸念などは、暮しやすしい豊かな地域を築く上で暗い影を落とす。
3. 首都機能移転：首都機能移転は、東京の過大・過密、大規模災害対策、東京一極集中の是正、および、わが国経済社会の閉塞状態打破、人心一新の契機などの観点から、国会・行政を中心にその構想が推進されている。中部地域は移転先の有力候補地のひとつである。
4. 中部圏のビッグ・プロジェクト及び21世紀ビジョン：「愛知国際博覧会」「中部新国際空港」「リニア中央新幹線」などのビッグ・プロジェクトは、中部地域の重点的な開発整備の大きなチャンスであるが、一方で自然破壊などの批判もある。

### 【評価方法】

毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

### 【テキスト】

配付プリント。

## 地方自治体論

坂井貞彦

### 【授業の概要】

前半：地方自治の意義、日本における地方自治制度の変遷、地方自治体に関する法令制度について学ぶ。

後半：愛知県内の最大の市である名古屋市の歴史、現状、将来計画などを概観し、地方自治体への理解を深める。

### 【授業計画】

- 講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1. 地方自治の意義と法体系、憲法と地方自治法
  2. 明治以降の地方自治制度の変遷と現行制度
  3. 地方公共団体の種類、区域及び住民
  4. 地方公共団体の事務
  5. 地方公共団体の議会と法規
  6. 地方公共団体の執行機関、議会との関係
  7. 地方公共団体の財務（予算、会計、公の施設）
  8. 地方公務員
  9. 名古屋市の歴史（明治以降）
  10. 名古屋市及び区の組織
  11. 名古屋市の経済産業
  12. 名古屋市の暮らしと文化
  13. 名古屋市の将来計画

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）

期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

- (1) 地方自治制度 第5次改訂版（久世公堯 学陽書房）
- (2) 21世紀への名古屋（愛知淑徳大学地域産業研究会 中部日本教育文化会）

## 地域福祉論

野田秀孝

### 【授業の概要】

日本の社会福祉は、介護保険制度の導入、社会福祉基礎構造改革の動きからなる社会福祉法成立、医療法の改定などの医療政策の変動など、大きな変革期を迎えている。また、地方分権、福祉ニーズの多様化と福祉サービス供給主体の多様化、保健・医療・福祉の更なる連携又は統合などを背景に、各自治体における介護保険事業計画から地域福祉計画の策定、苦情処理・解決、第3者評価システムの構築などさまざまな課題はある。また、それらに対応する地域ケアシステムの構築が求められている。

本講義では、上記のような今日的課題を整理しながら、多様で複雑な社会情勢に対応しうる地域福祉の理念と新たな手法、諸外国の動きなども紹介し、地域福祉の魅力を具体的に論じたい。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、毎回プリントを配布する。

- 1 講義の概要 地域福祉の理念
- 2 現代社会における家族とコミュニティ
- 3 地域福祉の歴史
- 4 地域福祉の国際的動向
- 5 地域福祉の概念と厚生
- 6 地域福祉の公私関係と共同の開発
- 7 在宅福祉のサービス供給と展開
- 8 居住福祉と福祉環境作り
- 9 地域福祉の運営と主体形成
- 10 地域福祉の実践実態形成
- 11 住民参加による地域福祉計画づくり
- 12 地域福祉の人材養成
- 13 まとめ

### 【評価方法】

筆記試験

毎回出席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う  
出席調査時に質問・感想などを提出させる。これを成績評価に反映する

### 【テキスト】

新時代の地域福祉を学ぶ（野口定久編集（株）みらい）

### 【参考文献・資料】

厚生労働白書

## 国際経済論

秦 忠夫

### 【授業の概要】

グローバリゼーションの進展とともに世界経済の相互依存関係が深まるなかで「国際経済論」のテーマも広がりがつつあるが、本講義では国際貿易の問題に焦点を絞って世界経済の結びつきと問題点を勉強したいと考える。

### 【授業計画】

講義は次の3部構成で行う。

1. 国際貿易のしくみ：「自由貿易のメリット」「自由貿易を阻む保護主義」など国際貿易をめぐる基礎理論。
2. 国際貿易システム：GATT・WTO体制のもとで進められてきた戦後の貿易自由化の動きをフォローし現在の問題点を明らかにする。
3. 地域経済統合：とりわけ1990年代後半以降世界各地で盛んとなっている自由貿易地域形成の動きの実情とその問題点。

### 【評価方法】

期末テストおよび小テストを総合して評価。

### 【テキスト】

未定。適宜補足資料を配布する予定。

## 欧米経済史

藤瀬浩司

### 【授業の概要】

この講義は、西ヨーロッパ中世社会から20世紀末までの歴史過程を、資本主義と世界経済に視点をおいて、概観する。最初に、西ヨーロッパ封建社会が解体する中で、どのようにして最初の資本主義世界経済が成立するかを考察する。次にイギリス産業革命の特徴を明らかにし、これを起点として、西ヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国、あるいはまたロシア、イタリア、日本などで工業化がどのように展開したかを考察する。最後に20世紀経済の歴史的発展を、企業組織、経済社会政策、世界経済の各側面について、第一次世界大戦前、両大戦間期、第二次世界大戦後の各時期に分けて考察し、現在の情報革命とグローバリゼーションの進展まで言及する。

### 【授業計画】

- 第1部 歴史社会としての資本主義
  - 1 共同体社会としての資本主義
  - 2 資本主義の誕生
- 第2部 19世紀の資本主義
  - 3 イギリス産業革命
  - 4 イギリス資本主義の成熟
  - 5 世界経済の拡張-西欧とアメリカの工業化
  - 6 周辺経済の分極化
- 第3部 20世紀の資本主義
  - 7 20世紀経済成長の特徴
  - 8 大型企業体と社会改革
  - 9 多角的貿易決済システムと国際金本位制
  - 10 帝国主義と戦争
  - 11 戦間期経済と大不況
  - 12 アメリカ体制の成立
  - 13 資本主義の黄金時代
  - 14 成長国家の終焉と新しい時代の始ま

### 【評価方法】

授業への参加状況と期末のテストによって評価します。

### 【テキスト】

改訂新版 欧米経済史-資本主義と世界経済の発展  
（藤瀬浩司著 放送大学教育振興会 2004）  
講義と平行してテキストをよく読むこと。

### 【参考文献・資料】

テキスト巻末の文献目録の他、適時授業中に指摘する。

## 比較政治論

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治的近代化および議会政治の導入とその展開を主軸とした日本、中国、韓国、イギリス等の比較研究と比較政治文化論。

### 【授業計画】

1. 〈比較〉の意義と手法  
ポリアーキー、政治的近代化、国民国家
2. 中国、韓国、日本の近代化と議会政治
  - a. 科挙官僚体制、国民党、中国共産党
  - b. 李氏朝鮮、両班、党争
  - c. 古代律令体制、太政官制、内閣制度
3. 西欧諸国の近代化と日本
4. イギリスの議会政治
  - a. 名誉革命
  - b. ウォルポールの貢献
  - c. W.バジョットの議院内閣制論
5. 日本の議会政治とイギリス

### 【評価方法】

試験と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

その都度、紹介する。

## 国際法

初谷良彦

### 【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境の保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらうようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1回 国際法の概念
- 第2回 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
- 第3回 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
- 第4回 国際組織（国際連合、その他の国際組織）
- 第5回 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
- 第6回 外交（外交関係、外交特権、領事関係）
- 第7回 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
- 第8回 国際社会における人権保障（1）（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
- 第9回 国際社会における人権保障（2）（女性の人権、子どもの人権）
- 第10回 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
- 第11回 紛争の平和的解決（国際裁判）
- 第12回 国際安全保障（国連軍、軍縮）
- 第13回 武力紛争（戦争法・人道法）
- 第14回 国際社会における法の支配（展望）
- 第15回 期末試験

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 比較教育論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

### 【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

比較教育学の基礎（田中圭治郎編著 ナカニシヤ出版）

### 【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）  
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）  
多文化教育（中島智子編著 明石書店）  
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）  
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）  
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）  
世界の教育開発（米村明夫 明石書店）

## フィールドワークⅠ（国内調査実習①：基礎）

谷沢明

### 【授業の概要】

フィールドワークの基礎を体験的に習得することを目的とします。

- 1 歩く（アプローチ）：フィールドスタディで必要なのは、歩くこと。人との出会い、モノとの出会いが始まります。どのような方法で歩いたら、調査目的に接近できるのか、その可能性を探る手法を教育します。
- 2 見る（観察法）：フィールドスタディで重視される観察調査。テーマ・問題意識を持ってじっくり対象物を観察していく手法を教育します。あわせて、物事の背後に潜む真実を解読する力を育成します。
- 3 聞く（取材法）：正直言って、人と接する取材は難しい。相手の話したいことを十分に聞き取り、記録していくインタビュー調査。このノウハウを教育します。
- 4 プレゼンテーション：取材成果をパワーポイント（作品）にまとめ発表します。

### 【授業計画】

この授業は集中授業で実施します。2005年度は下記の予定です。

- 4月11日（月）：ガイダンス（昼休み：8号棟827教室）
- 4月22日（金）：第1回レポート提出（事前の下調べ）
- 4月29日（金）～5月1日（日）：第1回フィールドワーク（高山2泊3日）
- 5月8日（日）：パワーポイント作成指導（希望者）
- 5月27日（金）：第1回作品提出（高山FWの成果）
- 9月12日（月）：第2回レポート提出（事前の下調べ）
- 10月1日（土）～2日（日）：第2回フィールドワーク（郡上八幡1泊2日）
- 11月4日（金）：第2回作品提出（郡上八幡の成果）

その他、前・後期に1度ずつ成果発表会を考えています。

\*レポート・作品の提出は、1号棟3Fのレポートボックスへ。16：00締め切り。

#### 【備考】

- 1 定員は20名ですが、抽選は行いません。定員を超えた場合は第1回レポートにより選考します。選考にもれた人は履修登録の取り消しをしてください。
- 2 2回のフィールドワーク（学外教育）の実費を各自負担してください。名古屋～高山の往復バス代5,000円。名古屋～郡上八幡の往復バス代5,000円。高山（淑友館）の宿泊代（2泊で食事付きで5,000円程度）、郡上八幡の宿泊代（食事付きで5,000円程度）。フィールドワークは現地集合・解散です（公共交通機関を利用のこと）。

### 【評価方法】

2回のフィールドワークへの参加、及び4回の提出レポート・作品（パワーポイント）による。

### 【テキスト】

使用しません。

### 【参考文献・資料】

必要に応じてアドバイスします。

## フィールドワークⅤ（国内実地研修①）

谷沢明 石田好江

### 【授業の概要】

現代社会を総合的・体験的に学び、現代社会を多様な切り口で解読する能力を養うことを目的に、国内実地研修を行います。2005年度は、北海道でフィールドワークをします。テーマは、「北海道の自然・歴史・文化を探る」です。

### 【授業計画】

この授業は集中授業で実施します。2005年度は下記の予定です。

- 4月12日（火）：ガイダンス（昼休み：8号棟827教室）
- 4月21日（木）：第1回レポート提出（事前の下調べ）
- 6月11日（土）：事前講義（1～3限。8号棟5Fプレゼンテーションルーム）
- 9月21日（水）～24日（土）：北海道フィールドワーク（3泊4日）
- 10月17日（金）：第2回レポート提出（フィールドワークの成果。パワーポイントでもよい）

その他、後期に1度、成果発表会（プレゼンテーション）を開催します。

\*レポートの提出は、1号棟3Fのレポートボックスへ。16：00締め切り。

【北海道フィールドワークの日程】

- 1日目：名古屋空港～新千歳空港（飛行機）。札幌市内、小樽等でフィールドワーク。
- 2日目：札幌～函館（貸し切りバス）。洞爺湖、有珠山、大沼公園、五稜郭、函館山からの夜景等を見学。
- 3日目：函館市内でフィールドワーク。夜は、ライトアップされた歴史的建築を見学。
- 4日目：函館市内でフィールドワーク。函館空港～中部国際空港（飛行機）。

#### 【備考】

- 1 定員は40名ですが、抽選は行いません。定員を超えた場合は第1回レポートにより選考します。選考にもれた人は履修登録の取り消しをしてください。
- 2 北海道フィールドワーク（学外教育）の実費を各自負担してください。費用の目安は55,000円程度です（飛行機代往復、移動の貸し切りバス代、ホテル代3泊朝食付き）。なお、履修者が10人未満の場合は閉講とします（団体割引がきかず費用が高くなるため）。

### 【評価方法】

フィールドワークへの参加、及び2回の提出レポート（成果はパワーポイントでもよい）、成果発表会のプレゼンテーションによる（すべての参加・提出がないと単位取得はできません）。なお、優れたプレゼンテーションは2006年度夏開催の「フィールドスタディセミナー」で発表のチャンスがあります。

### 【テキスト】

使用しません。

### 【参考文献・資料】

必要に応じてアドバイスします。

## メディアと社会Ⅰ（メディアリテラシー）

小川明子

### 【授業の概要】

現在、ありとあらゆる領域で「情報化」が喧伝され、新たなメディアや技術の登場が私たちにバラ色の未来を約束しているかのように宣伝されている。あるいは、ネットの世界や携帯の出会い系サイトなどが危険なメディアとして敵視されたり。しかし、「情報化」は決してバラ色の未来ばかりをもたらしてくれるわけでも、暗黒の未来をもたらすわけでもない。私たちの社会や日常生活を幾重にも取り囲むようにして存在するメディアは、私たちの使い方次第であり、両刃の剣といえる。

そこで、本講義では、「メディア」とは何かについて熟考したい。特に、最近様々な場で提唱されるようになった「メディアリテラシー」の切り口から昨今のテレビ報道やコマーシャルなどを分析する一方、取材体験、メディア表現などのワークショップを通じて体験的にメディアの特徴や限界を考察することを目標とする。単なるメディア批判に終わることなく、市民社会における情報モラルやメディアとの関わり方についても考えていきたい。

特に、メディア・プロデュースコース希望者で、特に「メディアと社会」、「メディアとコミュニケーション」に関心のある学生はできるだけ前期に受講すること。

### 【授業計画】

1. メディアとは
2. 映像メディアの特性を知る
3. メディアとコミュニケーション
4. マスメディアの特長と限界
5. 戦争とメディア
6. 市民社会とメディア

毎回資料を提示しながら進める。取材、メディア表現等の実践も取り入れる。

### 【評価方法】

毎回、授業後に提出するコメントあるいは作品、期末レポートによる。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

メディアリテラシー-メディアと市民をつなぐ回路（NIPPORO文庫）  
メディア・リテラシー-マス・メディアを読み解く（リベルタ出版）  
メディア・プラクティス（せりか書房）

## メディアと社会Ⅲ（新聞）

小塚哲司

### 【授業の概要】

新聞、テレビなど、マスメディアによって伝えられるニュースは、国内外で起きる日々の動きを映す鏡である。IT革命と相まって、ますますグローバル化、スピード化する21世紀高度情報社会。マスコミ、マスメディアは、そうした刻々と起きる地球レベルのニュースを、迅速に収集し、公正な価値判断をして、国民に伝えるのが役割である。それは「報道の自由」が保証されてこそ可能だが、逆に厳しい職業倫理も求められる。ジャーナリズムに課せられた責務と職業観、勤労観のほか、主として新聞報道を素材としてのニュースへの理解を深めるため、新聞記者、海外特派員の体験を交え、分かりやすく教えていきたい。

### 【授業計画】

1. マス・コミュニケーションの役割と機能  
高度情報化時代の中で、マスコミの果たすべき役割。その歴史と日本、世界の新聞事情、デジタル時代を迎えたメディア事情。
2. マスコミの倫理と功罪  
一度に大事件などを多数に伝えられる点で、マスコミは有効だが、一つ誤ると大混乱する。また公平な視点を欠くと、偏った見方を伝えてしまう。加害者、被害者の人権、報道される側のプライバシーに十分な配慮が必要である。加熱報道の実態と背景、厳しく問われる報道倫理。イラク戦争や米大統領選、少年非行、北朝鮮拉致問題など、具体的なニュース報道で検証したい。
3. 授業を面白くし、時代を考える手助けとして、毎週、その週の大きなニュースを解説。

### 【評価方法】

教室での応答、小レポートと期末レポートで総合評価する。

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

## メディアと社会Ⅱ（放送）

梅田結輝

### 【授業の概要】

マスメディアの中でもデジタル化の波で、厳しい対応を迫られているのが、放送メディアである。現代社会に欠かせない基幹メディアとしての放送の成立から放送現場の実態までをたどりながら、その機能や問題点を探り、現代社会との関わりを展望する。

### 【授業計画】

講義形式。

1. 放送の成立と歴史（概論）
2. 放送の公共性とシステム（NHKと民放）
3. 放送とビジネス（広告媒体としての放送）
4. 放送と人権
5. 放送と戦争
6. 放送と政治
7. 制作現場（1） ニュース/ワイドショー
8. 制作現場（2）ドキュメンタリー/ドラマ
9. 放送のグローバル化、その功罪
10. メディア・アクセス、「市民メディア」の展望

（内容は、見直し・変更の場合がある）

VTR、参考資料を多用し、「批判的」に放送メディアを検証する。

### 【評価方法】

出席状況、小テストと学期末レポートなどによる。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

テレビの教科書（PHP新書）  
ジャーナリズムの思想（岩波新書）

## メディアと社会Ⅴ（マス・カルチャー）

山田登世子

### 【授業の概要】

ファッションという日常文化の分析をとおして「現代社会」を考える。

◇ファッションとは何か — その1（身体論的アプローチ）

「見せる」ことと「隠す」こと

◇モードとは何か — その2（時間論的アプローチ）

「流行」とは何か、トレンドはいかにしてつくられるのか？

◇ブランドって何？

ルイ・ヴィトン、エルメス、シャネルを例に、ブランドの文化史を学ぶ。

◇誘惑論 — ひとはなぜおしゃれをするのか？

◇モードと性 — シャネルなどをめぐって

上記のようなプランにそって「ファッションという現象」を考える。

### 【授業計画】

講義ではありますが、授業に「参加」してもらうため、ぬきうちショートテストを毎回のようにやります。

（このテストをとおして届いた受講生の意見を収録した新書を授業のテキストに使います）

### 【評価方法】

ショートテストなどの平常点を重視しますが、成績は期末レポートで。

### 【テキスト】

ETUDE SUR LA MODE（山田登世子）

ブランドの世紀（山田登世子 マガジンハウス 1,800円）

※2冊セット販売

### 【参考文献・資料】

上記のほか、ブランド論（新書 山田登世子著）の追加の場合もあり。

また、授業では適宜アクチュアルな資料を使用しますが、学生からの資料提供も期待します。

## メディアと社会Ⅶ (地域メディア)

高橋 徹

### 【授業の概要】

20世紀後半から電気通信メディアの技術的発展が産業、地域社会、個人、行政等に大きな影響を与えてきた。本授業では、地域社会におけるコミュニケーション環境の変化を、電気通信メディアや通信ネットワーク等の普及過程からとらえ、現在のメディアに関する知識の習得を目的とする。

はじめに本講義を進めていく基本的視点を提示し、電気通信メディアが様々な側面と密接な関係にあることを学ぶ。さらに技術的背景、社会・経済・文化的背景が情報通信技術の高度化やコミュニケーション活動に与えている様々な現象について知識を深めていく。その上で、情報社会における生活や産業活動や行政面でどのように変化してきたかを習得する。また、これらの変化の中で新たなセキュリティ問題も表面化していることに言及し、情報通信における光と影の問題について考察していくものとする。

### 【授業計画】

1. 電気通信メディアの歴史
2. 地域メディアの普及導入
3. 電気通信産業の展開
4. 地域情報化政策の変遷
5. 地域開発と通信ネットワーク
6. 電子政府・電子自治体の進展
7. 地域情報化をめぐる海外の動き
8. デジタルデバイドと情報リテラシー
9. 情報通信ネットワークのセキュリティ問題

以上の項目についてテキストを中心に、随時プリント教材、VTRも使用する。

### 【評価方法】

定期試験、小テスト、出席率等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

未定。

## メディアと社会Ⅸ (メディア社会)

石田米和

### 【授業の概要】

今日、メディアの発展、それに伴う社会の情報化の進展が目覚ましい。そして、プライバシーの侵害、著作権等の知的所有権の侵害、利用者利益の阻害等の諸問題を契機として、情報モラルや情報リテラシーのあり方が取りざたされている。

本講義では、上記のような状況を踏まえつつ、およそ以下の項目について議論していく予定である。

- ・メディアおよびメディア環境の捉え方
- ・既存メディアおよびマルチメディアの機能と役割
- ・メディア環境の変容と社会的文化的影響
- ・情報メディアの利活用と諸問題 - プライバシーや知的所有権の侵害など
- ・メディア社会とどう関わるか - 情報モラルや情報リテラシー

### 【授業計画】

基本テキストの解説・関連学習を中心に、適宜、参考資料、映像資料等を使用する。

### 【評価方法】

評価は、レポート提出、定期試験、受講態度により行う。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

未定

## メディアと社会Ⅷ (情報文化)

小川明子

### 【授業の概要】

現代社会において、私達の文化はメディア産業と深い関わりを持っている。本講義では以下の内容に焦点を当てて具体的に身近な事例を参照しながら、情報文化について多面的な考察を加えたい。

1. 産業と文化の接点—コマーシャルを手がかりに—  
現代は高度消費社会でもある。産業の歴史でもあり、大衆文化の記録でもあるコマーシャルを手がかりに高度消費社会と情報、意味生成について考える。
2. 情報の東京一極集中—テレビ産業から考える—  
情報の東京一極集中が叫ばれて久しい。行政による地域情報化政策も成功しているとは言いがたい。そこで、私達の生活、文化と密接なテレビを産業として分析することで、情報・産業・文化について考察する。
3. 情報化と社会—課題と可能性—  
情報化は私たちの文化にどのように関わるのか。デジタルデバイド、著作権等の知的所有権の問題など、現在話題のトピックについても考えていく。

### 【授業計画】

上記の内容について、ビデオ、プリント資料をもとに講義形式で進める。

### 【評価方法】

テスト。授業後のコメントを補助的に用いる。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

適宜指定する。

## メディアと情報Ⅰ (マルチメディア情報)

辻 紘良

### 【授業の概要】

マルチメディア情報を構成する要素は画像、映像、音、通信であり、また一方、認識と創作という両面を持ち合わせている。ここでは、これらの種々の特徴を示すとともに、技術、システム、応用の面から全体の体系と相互の関連性をわかりやすく提示する。あわせて、技術的な内容について基本となる原理を中心に説明し理解を進める。

### 【授業計画】

1. マルチメディア情報学の基礎
2. 情報を用いた問題解決
3. 情報の伝達
4. 情報の収集と発信
5. 情報の表現
6. 文字と音の情報処理
7. 情報の計測と制御
8. 表現の技術
9. 情報化社会

CD-ROMやビデオ機器を用いて最先端のマルチメディア活用の実例や実験例を提示し理解を深める

### 【評価方法】

課題の提出や期末試験の結果を総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

使用せず

### 【参考文献・資料】

マルチメディア-基礎から応用まで  
(マルチメディア編集委員会編 CG-ARTS協会 p393 平成16年)  
マルチメディア情報学の基礎  
(長尾・安西他編著 岩波書店 p240 1999)



## メディアとコミュニケーションII (サブカルチャー)

太田浩司

### 【授業の概要】

この授業では現代日本社会における様々なグループ間でのコミュニケーションの現状と特徴について知識を深めることを目標とする。特に社会アイデンティティ理論という理論的立場から異文化、サブカルチャー、共文化などと呼ばれるグループに属する人々の間で繰り広げられるコミュニケーションについて吟味をする。詳しい授業の計画は初回の講義で説明する(必ず出席すること)が、以下の内容を授業で扱う予定である。

### 【授業計画】

- (1) 社会アイデンティティ理論
- (2) 偏見と差別
- (3) ステレオタイプ
- (4) コミュニケーション調節理論
- (5) 文化と価値観
- (6) 異文化間コミュニケーション
- (7) スティグマ (Stigma) と対人プロセス
- (8) 異文化と教育

### 【評価方法】

テスト1回(期末)、短いペーパー3回の予定。出席

### 【テキスト】

多文化社会と異文化コミュニケーション(伊佐雅子監修 三修社)

## メディアとコミュニケーションIV (ヴィジュアル)

石田米和

### 【授業の概要】

マルチメディアの進展が契機となり、コミュニケーションの場における映像化・ヴィジュアル化の傾向が顕著になりつつある。このような状況を踏まえて、映像化・ヴィジュアル化の歴史の変遷を概要しつつ、そのことの社会的影響や認知、理解への影響、文字によるコミュニケーションとの関係、さらにトータル・コミュニケーションの再検討について考えていく予定である。主として以下のような内容を取り上げる予定である。

映像化・ヴィジュアル化とは—歴史的変遷、社会的要請

映像化・ヴィジュアル化の影響—社会経済的、心理的(認知、理解等)等

映像化・ヴィジュアル化と文字によるコミュニケーションとの関係

映像化・ヴィジュアル化と文化

映像化・ヴィジュアル化の問題点

### 【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等の映像資料を使用する。

### 【評価方法】

真剣に学ぶ意欲のある学生のみが履習すること。

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

### 【テキスト】

ビジュアルコミュニケーション

(藤沢・龍本・中村・西川共著 ダヴィッド社)

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

## メディアとコミュニケーションV (映像演出A)

坂元 多

### 【授業の概要】

ビデオや映画の中の表現テクニックを抽出して映像制作方法として一般化、法則化を試みる。

映像制作は高い独創性が要求される。これは説明や講義で学べるものではない。数多くの優れた作品に接しながら、これを理解し、消化する中で制作の手がかりを得る。

### 【授業計画】

映像作品の試写と解析。

### 【評価方法】

授業時間内のテストで評価。

### 【テキスト】

特になし。

## メディアとコミュニケーションVI (映像演出B)

大西 誠

### 【授業の概要】

これまでの国内の名作映画の中で、記憶に残るシーンを抽出し、映像技法という角度から分析し、制作者の意図と演出の意味について学ぶ。

### 【授業計画】

すぐれた映像は、一定の技術を使って作品を作り上げる職人的要素と独自の語り方を表現する作家的要素によって成り立っているといえる。本講では、日本人監督の作品を中心に映像が生み出す感動や驚きに焦点をあてて、数々の映像技術を取り上げ解説を試みる。あわせて映画が作り上げてきた映像文法を考察する。

具体的には、下記のような技術を用いた映像場面を取り上げて検討する。

- ・クローズ・アップとロング・ショット
- ・アクション・カットとダイアログ・カット
- ・オーバー・ラップとフェード・アウト
- ・マルチ・カメラ
- ・スロー・モーション
- ・パンフォーカス
- ・ワンシーン・ワンカット

### 【評価方法】

授業への参加度、レポート、期末の試験などで総合評価する。

### 【参考文献・資料】

一人ででもできる映画の撮り方(洋泉社)

## 放送制作実習Ⅰ（基礎）

宮原美佳

### 【授業の概要】

ビデオカメラやコンピュータの個人所有が一般的になった現在、映像はテレビや映画関係者などプロだけが制作するものではなくなった。趣味の撮影、会社での記録や、プレゼンのため、webでの映像配信など、だれでもが映像（情報）の発信者になれるようになった。しかし、人に何かを伝えるためにはただ撮影すればいいというものではない。ビデオカメラで撮影するだけでは記録にすぎない。人に見せる、伝えるという意志を持って、撮影、編集することによりメッセージが生まれる。

この授業ではテレビ番組の制作方法をベースに、企画、撮影、編集の基礎を行ない、映像で他者に何かを伝えるということに取り組んでもらう。実際に自分で番組制作をすることにより、現実には放送されている映像、情報の虚実を読み取る力をつける。

### 【授業計画】

最終課題として、デジタルビデオカメラ等を使用して、2分間の自己PR番組を制作する。それに向け番組制作の基礎理論と演習を行なう。

メディアプロデュースコース希望または専攻者が望ましい。

### 【評価方法】

出席回数、授業態度、課題で総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし

## 放送制作実習Ⅱ（スタジオ）

大西 誠

### 【授業の概要】

スタジオ機器を使用して、ニュース番組とトーク・情報番組を制作する。演出などの理論と機器の使用方法を学習し、放送が個人プレイによるものではなく、集団で作りに上げるものであることを学ぶ。またカメラ、音声、照明など技術面とディレクターやフロア・ディレクター、出演者など演出面を実地に経験することにより、制作における問題点や番組制作の裏面からメディア・リテラシーを身につける。

### 【授業計画】

理論と実習を組み合わせる。

1. スタジオカメラ等制作技術の操作
2. 出演者とスタッフの関係
3. 企画の立て方、台本の書き方
4. 放送素材/ロケーションと編集
5. スタジオ収録と試写

以上を目標にグループによる番組の制作を通じて、メディア・リテラシー能力を高める。

メディアプロデュース・コース希望または専攻者が望ましい。実習の積み重ねが大切なのでチームワークを大切にしてほしい。

### 【評価方法】

実習の態度（チームワーク）と作品及びレポートで評価する。

### 【テキスト】

なし。

## 放送制作実習Ⅳ（ドキュメンタリー）

大西 誠

### 【授業の概要】

現代社会をビデオカメラの目を通して見つめることを実習と理論で養成する。カメラによって切り取った現実を編集という作業によって、再構成していく「現実世界」のとらえ方を認識する。また作品を通じて、新たな現実を映像で作り上げ、伝えていくというドキュメンタリー番組のあり方や問題点について考察する。

（放送制作論Ⅰ受講済が条件）

### 【授業計画】

実習と理論を組み合わせる。

講義の中で、ドキュメンタリーの意味、方法論を知るとともに企画（テーマの選び方）から制作まで手法を学ぶ。課題テーマをもとに、インタビューとレポートを基本としたドキュメンタリー番組を制作する。

1. ドキュメンタリー番組の歴史
2. ドキュメンタリー番組の企画
3. ドキュメンタリー番組の演出
4. ドキュメンタリー番組の編集
5. ドキュメンタリー番組の評価

以上を目標に2～3人のチームワークによる実習を中心に番組制作をする。

自ら取材する意欲、問題意識が求められる。新聞の企画記事やドキュメンタリー番組を見てほしい。

### 【評価方法】

出席・実習の態度と作品内容で評価する。

### 【テキスト】

なし。

## 放送制作実習Ⅴ（ドラマ）

大久保晋作

### 【授業の概要】

ドラマ（TVドラマ番組）制作を試みることによって、自然や人間を見つめる目を育てるとともに、現代社会を把握する一つの方法を身につける。

また、ドラマがいかに多くの人を経て制作されるかを知ることによって、その中に現れる芸術性や文化の創造性について考える。

### 【授業計画】

講義は、下記のようなもので構成される。

1. TVドラマの条件
2. TVドラマの企画
3. 台本の決定と演出
4. TVドラマの美術
5. TVドラマの技術（カメラ、音声、照明）
6. 演技者
7. 編集
8. 完成/試写

など

多くのドラマ番組を視聴しながら、理論と実習を組みあわせる。また制作現場を見学し、理解の一助とする。

### 【評価方法】

授業への参加度、課題レポートで総合評価する。

### 【テキスト】

なし。

## デジタルメディア実習Ⅰ (CG 画像制作)

石丸 緑

### 【授業の概要】

コンピュータによる画像・図形処理の基礎を学習する。  
2次元画像の作成・加工のプロセスを体得し、作品制作までを行う。

### 【授業計画】

- 1 ガイダンス (画像処理) Photoshopの基本操作
- 2 画像合成演習－選択範囲、マスクの作成
- 3 画像合成演習－レイヤー作成
- 4 画像合成演習－ペイント、レタッチ
- 5 画像合成の実践－コラージュ作品制作
- 6 Illustratorの基本操作
- 7 パスによるオブジェクトの作成 (Illustrator)
- 8 テキストのデザイン (Illustrator)
- 9 IllustratorとPhotoshopの連携
- 10 グリーティングカードの作成 (Illustrator)
- 11 テーマ課題 (実習)
- 12 テーマ課題 (実習)

### 【評価方法】

出席状況と提出課題  
(3課題) の評価採点。

### 【テキスト】

CGデザインの入り口 (石丸みどり著 株式会社マナハウス発行)

## デジタルメディア実習Ⅳ (電子音楽制作)

渡邊 康

### 【授業の概要】

マルチメディア表現を構成するにあたって、音響、音声、音楽は、欠くべからざる要素である。そこで、音データの編集・処理・音楽ファイル作成の実習を通して、サウンド処理の基本原則とプロセスを体得する。さらに、Midiを使った音楽データ製作の演習により、より個性的なマルチメディア表現の獲得を目標とする。Cubase SXを使用する。

### 【授業計画】

- (1) 授業概要、メディアランドの利用法、Mac Osの基本操作
- (2) Cubase SXチュートリアル
- (3) Audio処理によるムービーサントラ制作
- (4) Audio処理によるムービーサントラ制作
- (5) 発表
- (6) Midiによる課題曲の打ち込み
- (7) Midiによる作曲法の演習
- (8) Midiによる作曲法の演習
- (9) MidiデータとAudioデータの融合
- (10) 発表
- (11) Audio処理とMidi処理によるムービーサントラ制作 (楽曲制作を中心に)
- (12) Audio処理とMidi処理によるムービーサントラ制作 (楽曲制作を中心に)
- (13) 発表

### 【評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度の総合評価。

### 【テキスト】

毎回プリント配布

## デジタルメディア実習Ⅲ (デジタル映像制作)

辻 紘良

### 【授業の概要】

最近では高度な映像処理がパソコンを用いて誰にでも簡単にできるようになっている。ここではデジタル映像処理技術の基礎を学習するとともに、ビデオ素材の処理・編集操作を体験的に学習する。ビデオ素材の取り込みからムービー作成まで通して行うことにより、一連のデジタル映像処理プロセスを習得する。

毎回、講義の前半は映像処理理論と操作法の説明、後半はパソコンを用いた映像処理の実習を行う。

### 【授業計画】

1. デジタル映像制作概論
2. ムービー作成の流れ (シナリオ、ロケ、カット表)
3. ビデオカメラの使い方と撮り方
4. デジタル映像処理の基本
5. 環境設定とプロジェクト設定
6. 映像とサウンドの取り込み
7. ビデオの編集 (1) 分割・削除・トリミングなど
8. ビデオの編集 (2) インサート・オーバーレイなど
9. サウンドの編集
10. 映像に特殊効果 (フィルタ) を付ける
11. トランジション (場面転換) の使用
12. 映像のモーション設定 (回転、移動、変形)
13. 文字と画像の合成処理 (重ね合わせ)
14. タイトル画面の作成と文字アニメーション
15. ムービーのコンパイルとビデオテープへの録画

期末には各自小規模なムービーを作成する。それを授業内で発表しかつ期末の課題として提出する。

カセットテープ、MO/DVDメディアは各自用意すること。デジタルビデオ・カメラは貸し出しする。

### 【評価方法】

課題の提出状況や期末作品の出来映えを総合成績を評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

### 【参考文献・資料】

Premiere Proの仕事術 (エ・ビスコム・テック・ラボ著 毎日コミュニケーションズ、2004年)

## 住生活論

渥美正子

### 【授業の概要】

住まいは、私たちにとって欠かすことのできない家庭生活の「器」である。現代社会の住まいは様々であるが、住まいやそこで展開される住生活様式は、風土・時代・社会の中で形成され、変化してきた。こうしたことを学習するなかで、住まいは人間生活の大切な基地であることの理解を深め、快適な「住まい方」を創造していくことの重要性を認識する。

### 【授業計画】

- 1) 住生活とは
- 2) 風土と住まい：風土特性と住様式、民家が語るもの
- 3) 日本住宅の原型：寝殿造・書院造の住様式
- 4) 戦前の住宅と住様式：「家」制度と住まい
- 5) 西山卯三の研究：住生活の秩序化
- 6) モダンリビングの住生活：民主的住生活、n LDK型プラン
- 7) 住生活におけるポスト・モダンリビング：家族の多様化と住要求の変化
- 8) これからの住生活：新しい住まい方の展望
- 9) 住生活の洋風化：住生活の洋風化過程
- 10) 起居様式：イス座・ユカ座、畳の行方
- 11) マンションと住居管理：集住、マンションの管理問題
- 12) 家庭生活を映し出す住まい：住み手が主人公の住まい

### 【評価方法】

試験とレポートによって行う。

### 【テキスト】

図解住居学 1 住まいと生活（岸本幸臣他編著 彰国社）  
プリント配布

## 建築計画論 I（住宅）

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

建築のデザインを学ぶためにはまず建築で扱う空間がどのような概念であるかを知らなければならない。また建築空間をデザインするということは具体的にどのようなプロセスなのであるかを理解しなければならない。建築を学ぶ第一歩として、住宅という最も人間にとって基本的な建築空間を題材にしながら上記のテーマについてまず解説する。それをふまえて、住まうことに関わる建築を設計するために必要な住要求、建築意図や設計条件の把握、分析の方法、また住宅設計の基本となる構造、設備、材料に関する知識を設計者の立場から総合的に修得することを目的とする。

### 【授業計画】

- 1 建築とは、建築家とは、建築で扱う空間とは
- 2 住みやすい住宅を作るために 建築計画学
- 3 安全な住宅を作るために 建築構造学
- 4 快適な住宅を作るために 建築環境工学
- 5 美しい住宅と町並みを作るために 建築デザイン
- 6 住宅の設計に関わる法律 建築関連法規
- 7 各室の計画 1 招き入れる空間
- 8 各室の計画 2 集まる空間
- 9 各室の計画 3 私的空間とサービス空間
- 10 近年の住宅作品の実例 計画上の試みとデザイン
- 11 住宅計画の今日的課題 高齢者 健康 省エネ
- 12 まとめと質疑

### 【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

### 【テキスト】

スライド、OHP等の視覚資料を用い、できるだけ実例を示しながら講義を進める。  
講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

## 住宅政策論

渥美正子

### 【授業の概要】

日本における住宅問題の発生についての歴史的経緯と、戦後の住宅政策の特徴について考える。経済大国でありながら、先進諸国のなかで貧しいといわれるわが国の住宅事情の特徴と背景を探り、人間らしい住まいを実現するための住宅政策の理念について、西欧先進国との比較を交えて考察する。また、住まいの質的向上の原動力となる住教育の実情や、消費者問題について論じる。

### 【授業計画】

1. 住宅の社会的側面
2. 住宅事情の国際比較
3. 東海圏の住宅事情
4. 住宅政策の母国・イギリス
5. 住宅の質的政策化
6. 日本における住宅政策のあゆみ
7. 住宅政策における市場主義
8. 多様化するハウジング
9. 住居費の管理
10. 消費者問題と欠陥住宅
11. 住教育の課題と展望
12. 阪神大震災と住まい

### 【評価方法】

出欠状況とレポート・試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリント配布。

### 【参考文献・資料】

現代社会とハウジング（巽和夫編 彰国社）  
変貌する住宅市場と住宅政策（伊豆宏編 東洋経済新報社）  
住宅貧乏物語（早川和男著 岩波新書）  
住教育- 未来へのかけ橋（住環境教育研究会編 ドメス出版）

## 建築計画論 II（計画各論）

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

現代の施設設計は、従来からの建築種別にとらわれない複雑な複合化、新しい要求や情報メディアの登場、社会構造の変化に直面している。こうした建築設計に関わるさまざまな外的条件の分析や、計画に先立つ建築企画の手法の理解とともに、建築計画上考慮すべき機能上の諸要求、法規、それらに対応する新しい計画上の試み等、施設計画上に必要な諸知識の体系的な修得を目的とする。

### 【授業計画】

- 以下の6テーマについて各2週にわたり講義する。
- 1 住居系施設  
新しい集住の形態と、集合住宅
  - 2 教育系施設  
新しい教育方法論に基づく学校計画の試み
  - 3 医療・社会福祉施設  
病院、診療所計画の基本と、高齢化社会に対応する医療福祉施設計画
  - 4 文化系施設  
新しいメディアと情報の共有、発信の場としての複合文化施設計画
  - 5 商業系施設  
大規模複合施設とオフィス計画の今日的課題
  - 6 施設計画の手法  
地域活性化施設の企画と、諸提案の実例

### 【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

### 【テキスト】

講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

### 【参考文献・資料】

新建築学体系（彰国社）  
建築設計資料集成 コンパクト建築設計資料集成（丸善）  
その他講義中に参考図書を紹介する。

## 建築計画論Ⅲ（環境心理）

日色真帆

### 【授業の概要】

建築や都市における人間と環境との関係について、個人や集団の行動、環境の知覚や認知、それらの時間的変化などの視点から学ぶ。スケール、状況、利用者の違いを理解し、人間と環境との関係の質をたかめるデザインのあり方を考える。また、これらを学習する中で環境心理学の基礎的な諸理論と研究方法を習得する。

### 【授業計画】

- ・文化と空間：パーソナルスペースや人のテリトリーについて述べ、文化によるその差異を取り上げる。
- ・環境認知：環境認知やそれを支える空間認知の問題を取り上げ、その構造や発達に関する理論を解説する。
- ・Wayfinding：環境認知の典型として、人の動きと空間の認知を扱う。特にwayfinding（経路探索）における迷いや発見を切り口に理論や研究方法を紹介する。インターネットなどハイパーテキスト上の移動にもふれる。
- ・シークエンスと表記法：建築の内部空間やアプローチ、庭園などの例を取り上げ、人の行動や体験を記述し、分析し、デザインする手法を学ぶ。
- ・居住環境、多様な利用者：居住環境をとりあげ、人間環境系としてとらえる視点を示す。
- ・都市環境のデザインへ：都心と郊外という対照的な環境を取り上げ、総合的な見方を示す。その環境の質を向上する方法として、デザインの意味について述べる。

### 【評価方法】

数回のレポートと期末の試験によって行う。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

環境と人間（高橋鷹志・長澤泰・西出和彦編 朝倉書店）  
建築・都市計画のための空間学事典（日本建築学会編 井上書院）  
人間環境学（日本建築学会編 朝倉書店）  
建築人間工学事典（日本建築学会編 彰国社）  
建築理論の創造（J.ラング著 鹿島出版会）  
人間-環境系のデザイン（日本建築学会編 彰国社）  
空間計画学（日本建築学会編 井上書院）  
環境行動のデータファイル（高橋鷹志他編 彰国社）

## ファシリティマネジメント論

吉田邦彦

### 【授業の概要】

施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動であるファシリティマネジメント（FM：Facility Management）について、その基礎知識と固有技術の理解と修得を目指す。FMの主要な対象であるオフィスを取り上げ、具体的に論じる。

### 【授業計画】

以下の項目について講義形式で授業を進める。

1. オリエンテーション、FMの必要性和重要性
2. オフィスの歴史、日本のオフィス建築の歴史と形態的な変遷
3. オフィスプランニングの基本と基礎知識
4. オフィスの快適性-豊かな人間生活と仕事の場を求めて
5. 地球環境とFM
6. セキュリティの必要性和災害への対策
7. 欧米の情報化オフィスの諸相
8. オフィスの実例紹介
9. FMのための知識と技術
10. 施設評価の必要性和困難性、各種の評価手法
11. FMの目的と目標、FMの業務体系
12. 公共施設、教育施設などにおけるFM

### 【評価方法】

授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

### 【テキスト】

変化するオフィス（沖塩荘一郎他 丸善株式会社）  
また、授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

総解説 ファシリティマネジメント（FM推進連絡協議会編 日本経済新聞社）

## 建築計画論Ⅳ（設計方法）

吉田邦彦

### 【授業の概要】

建築の設計対象の機能の複雑化、規模の拡大化、設計主体の多様化などに対応して、提案され論じられてきた種々の設計方法、設計手法についての理解と知識の修得を目的とする。

設計方法の考え方、設計プロセス、各種の設計手法、人間-環境系の計画理論などを取り上げ、設計行為の解明と実践との連携等について論じる。

### 【授業計画】

以下の項目について講義に演習を加えた形式で授業を進める。

- ・オリエンテーション：建築計画と設計、設計方法研究の歴史
- ・設計プロセス・発想のプロセスのモデル化、
- ・アイディアと情報
- ・設計ツール（機能図、チェックリスト、シミュレーションによるモデル分析など）
- ・表現言語・パターンランゲージ
- ・建築設計におけるコンピュータ利用
- ・設計方法と設計主体
- ・建築設計におけるコラボレーション

### 【評価方法】

授業時間中の提出物と、期末試験の結果を総合評価する。

### 【テキスト】

授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

設計方法Ⅳ「設計方法論」（日本建築学会編 彰国社）  
人間-環境のデザイン（日本建築学会編 彰国社）

## インテリアデザイン論

高橋敏郎

### 【授業の概要】

近世から現代に至るインテリアデザインの思潮と様式を概観し、これを基盤として、空間を構成する各種エレメント（要素）や素材、造形のそれぞれの機能と意味について学習する。さらに、近未来に向けての、健康や安全を含むインテリアアメンティ-高き空間創造について考察する。

### 【授業計画】

以下の項目につき講義形式で授業を行う。

1. インテリアの意義と資格  
授業のオリエンテーション。インテリアの意義と資格。
  2. インテリア空間の意味（1）  
実際の作品に見るデザインの意味と意図。
  3. インテリア空間の意味（2）  
実際の作品に見るデザインの意味と意図。
  4. デザインするために必要な解説の手がかり
  5. 人体寸法と動作空間。
  6. 人間工学とその応用。
  7. インテリアの安全。建築基準法と消防法など。
  8. インテリアの健康。シックハウスほか。
  9. 加齢と障害。ユニバーサルデザインに向けて。
  10. 知覚による認識。人の集合と行動。
  11. 建築の工法。インテリアの材料。
  12. インテリアの納まり。
- テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

### 【評価方法】

学習した各単元ごとに小テスト、レポート課題などを実施、定期試験と合わせて評価する。

### 【テキスト】

インテリアデザイン教科書（インテリアデザイン教科書研究会編著 彰国社）

## 色彩計画論

高橋敏郎

### 【授業の概要】

空間デザインにおける重要な要素である色彩と、色彩を生み出す根源である光（自然光、人工光）について基礎的知識を修得する。重ねて、色彩が心理に及ぼす影響を学び、これらの知識を基盤として、室内、建築、環境等の色彩計画をいかに行うかについて学習する。実際に色彩計画を行ったデータを使用し、3D-CADなどを用いて色彩構成、照明シミュレーションやマッピングによる材料のテクスチャーと色彩の関係などについて検証する。

計画演習IV (CAD基礎)履修者(同時履修可)のみ受講可。

### 【授業計画】

以下の項目について講義形式で授業を行う。

1. 色彩計画の意義
2. 光から生まれる“色”  
光と光の創り出す色彩現象
3. 光源の種類と特徴
4. 照明と色彩  
光源の明るさと演色性。照明による色彩の演出
5. 色が見える仕組み  
眼と脳の構造。色の見えを決める要因。
6. 色の知覚に関与する相互作用  
色の対比と同化、面積効果、視認性と誘目性
7. 色がもたらす心理効果
8. 色の表示方法と特徴
9. 配色と色彩調和  
色彩調和の考え方と調和の原則
10. 混色と色の再現  
混色の原理。色再現の方法
11. 12. 色彩計画  
CADによる3次元の室内色彩計画 (CAD室にて授業)  
テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

### 【評価方法】

期間中に数回の小テストを行う。この結果と、作品を合わせて評価する。

### 【テキスト】

カラーコーディネーションの基礎 (東京商工会議所編)

## 建築史 I (西洋)

河辺泰宏

### 【授業の概要】

西洋建築の様式史を中心に、様々な時代の価値観の移り変わりや建築様式との関わりについて論じる。とくに、建築を社会的産物としてとらえ、支配体制や技術革新と建築造形との結びつきを明らかにし、社会思潮の変化を理解する指標としての歴史を解説する。

### 【授業計画】

- 1) 建築に託された人類のメッセージ  
古代エジプトにおけるピラミッド建設の意義
- 2) 人と神と王の建築  
古代メソポタミアのジグuratとエジプトの神殿建築
- 3) 民族と神々  
ギリシア神殿とペルシアの宮殿に見る民族の表現
- 4) 新しい建築空間の創造  
古代ローマ建築におけるアーチとオーダーの意味
- 5) ローマに生まれた神の館  
初期キリスト教時代とビザンティン帝国の教会堂建築
- 6) 世界の終末を越えて  
至福千年説とロマネスク建築の興隆
- 7) 地上の天国  
ゴシック建築の構造と表現
- 8) 人と神の対話方式  
マホメットの帝国とイスラム建築の特徴
- 9) 再生という名の創造  
ルネサンス建築における科学と芸術の融合
- 10) 不安と成熟のマニエリスム  
16世紀イタリア芸術に見る原則性と非原則性
- 11) 建築のドラマツルギー  
反宗教改革から生まれたバロック建築の劇的性格
- 12) プロテスタンティズムの顔  
建築におけるピューリタニズムと新古典主義建築
- 13) 様式の消費  
19世紀リヴァイヴァリズムの時代

### 【評価方法】

レポートを課す。必要に応じて小テストを課す場合もある。

### 【テキスト】

西洋建築史図集 (日本建築学会編 彰国社)

### 【参考文献・資料】

図説ローマ『永遠の都』都市と建築の2000年 (河辺泰宏著 河出書房新社)

## 現代デザイン史

高橋敏郎

### 【授業の概要】

19世紀から現在に至る欧米を中心としたデザインの思潮の流れを概観し、社会状況、生活様式、技術と生産様式などの背景の変化との関わりの中で近代デザインが成立し、現代デザインへと引き継がれてゆく過程を学習しながら、デザインの分析を通じて近代社会の歩みを理解しデザインの在り方を考える。

### 【授業計画】

- 1) デザインの意味と力  
産業革命がデザインに及ぼした影響
- 2) デザインによる革命  
アーツ・アンド・クラフト運動の歴史的意義
- 3) 世紀末の華燭  
社会現象としてのアール・ヌーヴォー
- 4) アール・ヌーヴォーの伝播  
新しい時代の予感
- 5) ウィーンの新世紀  
分離派の新デザイン原理
- 6) 工業技術と芸術  
ドイツ工作連盟が意味するもの
- 7) ポスターの時代  
商業化社会におけるポスターの歴史
- 8) 炎の1910年代  
工業化の曙・デザインの革命
- 9) 芸術と技術の統一  
バウハウスのもたらしたもの
- 10) アール・デコと摩天楼の夢  
1925年様式・第一機械時代のデザイン
- 11) 白の時代  
バウハウス以降のモダンデザインの特徴
- 12) 世紀末の回航  
多様化した現代のデザイン傾向

### 【評価方法】

授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

### 【テキスト】

世界デザイン史 (阿部公正監修 美術出版社)

## 建築史 II (日本・東洋)

溝口正人

### 【授業の概要】

建築史は、生活空間を構成する基本要素である建築の歴史的な変遷の考察を通して、建築や都市の社会的・文化的な意味について論ずる分野である。

本講義では、日本の建築や都市を主な対象として、その背景にある思想や造形理念、技術をふまえ、東アジアという地理的な視点、あるいは現代建築思潮という今日的な視野からの比較検討をも交えながら、建築の空間構成や造形の変遷について学ぶことにより、日本の建築観の特徴について理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

1. 4大文明圏の建築/世界からみた日本の建築
2. 「建築」の発生: 先史時代の日本建築
3. 源流/インド・中国の建築と都市
4. 古代/東アジアの造形理念と日本建築
5. 古代~中世1/宗教建築の変容
6. 古代~中世2/住居と都市の変容
7. 中世/和風空間の確立
8. 中世~近世/技術革新と空間デザイン
9. 近世1/生産と規格化
10. 近世2/社会相としての住居と都市
11. 近代の胎動/数寄屋建築とモダニズム
12. 文明開化と洋風建築/近世技術の開花

### 【評価方法】

単位認定試験、レポートを適宜課し、出席状況を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし。適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

図解日本建築の構成 (山田幸一著 彰国社)  
日本建築史序説 (太田博太郎著 彰国社)  
建築の歴史 (藤井恵介・玉井哲雄著 中央公論社)  
日本建築史図集 (日本建築学会編 彰国社)  
東洋建築史図集 (日本建築学会編 彰国社)

## 都市形成史

河辺泰宏

### 【授業の概要】

都市の形成される過程と都市造形との関わりについて論じ、歴史的都市の成立過程と産業革命以降の近代都市の変化を明らかにする。また、都市再生や町づくりの様々な試みを紹介し、都市のアイデンティティの確立や機能開発についても考える。

### 【授業計画】

- 1) 都市文明をささえるもの  
人口暴発と計画不能の巨大スラム都市の出現
- 2) 名古屋を読む  
人工都市名古屋の都市計画の歴史をたどる
- 3) 格子状都市の履歴  
古代文明から現代に至る格子状都市の特徴を分析
- 4) 不整形都市～中世都市の営み  
自然に発展した不整形な都市の秩序について分析
- 5) 放射状都市の論理  
権力によってコントロールされた放射状直線街路
- 6) 水の都の物語  
日本と西洋における親水都市の歴史
- 7) 実験都市ハウステンボスの挑戦  
企業が経営する町
- 8) 近代都市計画の理論と実践  
産業革命以降の都市の変化と新しい都市計画理論
- 9) 都市と広場の形成史  
都市における広場の歴史と役割
- 10) 歴史的資産を活かした都市再生  
環境改善策のための都市財産の保存と活かし方
- 11) 景観コントロールの意味と手法  
景観論争とデザインコントロールの手法
- 12) 計画なき都市計画  
挫折した首都復興計画と都市開発理念の国際比較

### 【評価方法】

中間と期末のレポートによる。

### 【テキスト】

なし。プリント配布。

## 都市計画論

瀬口哲夫

### 【授業の概要】

都市計画論においては、現代の複雑な社会で生活して行く上での基本的な知識である都市問題を認識させると共に、都市のあり方を理解させる。その上で、都市計画理論や都市計画制度について解説し、都市計画（まちづくり）への市民参加のあり方などを講義する。授業では、具体的な都市や都市計画事例を取上げて、わかりやすく論じる。

### 【授業計画】

1. 都市の位置づけ
2. 現代都市の様相（1）
3. 現代都市の様相（2）
4. 現代都市の様相（3）
5. 都市計画理論（1）
6. 都市計画理論（2）
7. 都市と住まい/住宅団地開発
8. 都市と住まい/都心居住と再開発
9. 都市計画制度（1）
10. 都市計画制度（2）
11. まちづくりへの市民参加
12. まちづくりへの市民参加
13. 欧米の都市計画（1）
14. 欧米の都市計画（2）
15. 欧米の都市計画（3）

### 【評価方法】

出席状況（毎回、調査）とミニレポート、さらに単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義期間中に名古屋都市センター（金山駅南口右手ビル内）の展示室や図書室を訪れることを希望する。  
講義中で紹介する。

## 都市景観論

清水裕二

### 【授業の概要】

都市景観は我々にとって非常に身近でありながら、容易な分析を拒む複雑な事象である。この授業では具体的な例をとりあげながら都市景観を読み解くための様々な視点を提示し、都市景観についての理解を深めると共に、景観を形成する活動としての都市デザインの手法を概観する。

主な授業内容は次の通り。

1. 都市論・都市景観論  
近代以降の都市論・都市景観論のなかから代表的なものをとりあげ、現代の都市を切り取る視点の多様さを認識する。
2. 都市景観の構造  
都市景観に潜む構造を抽出し、普段目には異なる都市像を浮き彫りにする。
  - ・自然：景観を形成する最大の要素である地形と景観の関係性を明らかにする。
  - ・都市基盤（インフラストラクチャー）：インフラストラクチャーと景観の関係性から、現代都市の景観に影響を及ぼしている不可視の営みを捉える。
  - ・郊外：近代都市が生み出した都市周縁の景観と、そこから派生する社会的状況について考察する。
  - ・歴史：都市景観のなかに織り込まれた時間性をもとに現在の都市景観を再検討する。
  - ・法規制、建築・都市計画：都市の景観をコントロールしようとする様々な制度について見てゆく。
3. 景観の視点  
都市以外のフィールドから、都市景観を捉え直す
  - ・集落：都市の原型ともいえる伝統的集落を見てゆくことで現代都市の逆照射を試みる。
  - ・芸術：アースワーク、映画、写真、文学等の芸術において描かれた景観を分析する。

### 【授業計画】

講義を中心とし、いくつかのレポートを出す予定。

### 【評価方法】

出席状況、レポート及び試験により、総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 都市防災論

太田 裕

### 【授業の概要】

近年の都市への人口集中にともなう、自然・人工災害から都市・人間を如何に守るかが、大きな課題となってきた。この問題の大局理解を主眼に前半では多様な災害について講述する。後半は被災から防災に至る一連の学理・計画論について、地震を事例とした系統講述を行う。トピックの1つとして東海地震を対象におく。モデル地区における、学生自身による調査の実施と分析を組み入れることで関連知識体得の促進と確実化を図る。

### 【授業計画】

- 第1講 都市被災・防災の一般枠組み
- 第2講 災害各論1-水・台風災害
- 第3講 災害各論2-土砂災害
- 第4講 災害各論3-火山災害
- 第5講 災害各論4-火災他、人工災害
- 第6講 地震災害-世界・日本の地震
- 第7講 地震災害-1995年阪神震災
- 第8講 地域レベルの防災計画
- 第9講 世帯レベルの防災計画
- 第10講 モデル地区調査・分析（1）
- 第11講 モデル地区調査・分析（2）
- 第12講 モデル地区調査・分析（3）

### 【評価方法】

出席状況に加えて、モデル地区調査のレポートを重視して評価する。

### 【テキスト】

特になし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

地震防災と安全都市（鹿島出版）  
都市の防災（石井一郎 技術書院）  
都市防災（吉井博明 講談社現代新書）  
住まいの安全学（宇野英隆 講談社Blue Backs）

## 建築環境学Ⅰ（熱・空気）

齋藤基之

### 【授業の概要】

建築空間は人間の日常生活の場であり、その内部環境は健康・安全かつ快適なものであることが求められる。この講義では、建築や都市における熱・空気環境、およびこれらと人間とのかかわりに関する基本的事項を解説し、建築・都市のデザインに応用するための基礎知識を身につけるとともに、環境への配慮の重要性を理解することを目的とする。数式の使用等は必要最小限にとどめ、身のまわりの住生活における実例や実際の設計例を挙げながら解説する。

### 【授業計画】

- 屋外気候
- 太陽の動きと日射
- 湿気と結露
- 建築における熱の伝わり方
- 断熱・熱容量
- 室内気候・温熱環境評価
- シックハウス問題
- 室内空気汚染
- 換気・通風のしくみ
- 必要換気量

### 【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

### 【テキスト】

建築環境工学（山田由紀子著 培風館）

## 建築設備学

池畑紀久雄

### 【授業の概要】

近年における建築物は建築基準法の改正により大型化になり、高断熱、高气密になった結果、建築設備は高度な機能を要求されるようになった。そのため空調設備に代表されるように建築物はエネルギーの大量消費型となり、更にはシックビルシンドロームや地球温暖化等さまざまな問題を指摘されるようになった。そこでこの講座では、最新の建築設備について体系的に学ぶだけでなく、地球環境に貢献できる建築技術者の育成に貢献したいと考えています。

### 【授業計画】

パワーポイントによる講義を12回開催 教材はパワーポイントで作成した資料を配布する。

1. 建築設備工学の概要
2. 建築設備と地球環境問題
3. 建築設備工学の基礎知識  
新・省エネルギーシステム
4. 空調調和設備  
空気線図  
熱源設備
5. 熱媒搬送設備
6. クリーンルームの空調設備
7. 給排水衛生設備
8. 防災、消火設備
9. 受変電・配電設備
10. 照明設備・動力設備
11. 情報通信・警報設備

### 【評価方法】

1. 出席回数と受講態度 50点
  2. レポートの内容評価 50点
- 試験による評価はいたしません。

### 【テキスト】

パワーポイントによる講義のためテキストの購入は必要ありません。

### 【参考文献・資料】

建築設備工学（田中俊六監修 井上書院）  
建築物の環境衛生管理（財）ビル管理教育センター  
建築物の省エネルギー（財）省エネルギーセンター

## 建築環境学Ⅱ（音・光）

齋藤基之

### 【授業の概要】

建築環境学Ⅰに引き続き、建築や都市における音・光環境、およびこれらと人間とのかかわりに関する基礎的事項を解説する。本科目履修に先立ち、建築環境学Ⅰ（熱・空気）を履修しておくことが望ましい。

### 【授業計画】

- 音に関する物理量
- 音の知覚
- 遮音と吸音
- 騒音防止計画
- 音響計画
- 光に関する物理量
- 光の知覚
- 採光計画
- 人工照明計画
- 色彩計画

### 【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

### 【テキスト】

建築環境工学（山田由紀子著 培風館）

### 【参考文献・資料】

初めての建築環境（建築のテキスト編集委員会編 学芸出版社）  
図説テキスト建築環境工学（加藤信介・土田義郎・大岡龍三著 彰国社）

## 建築法規

山本正文

### 【授業の概要】

建築物の基本法である建築基準法を中心に建築士法、都市計画法、住宅の品質確保の促進等に関する法律について概要を理解するとともに、建築と法律の融合を目指して法律書が活用できるよう、より実践的な内容とする。

### 【授業計画】

1. 建築士の役割と建築士法及び法律についての基礎知識
2. 戸建住宅を計画するための建築基準法
3. 戸建住宅を設計するための建築基準法
4. 建築基準法の仕組みや都市計画法の概要
5. 共同住宅に係る建築基準法（集団規定を中心にして）
6. 同 上（単体規定を中心にして）
7. 住宅の品質確保の促進等に関する法律やハートビル法の概要
8. 飲食店と事務所建築に係る建築基準法（集団規定を中心にして）
9. 同 上（単体規定を中心にして）
10. 建築基準法における手続きその他の制度規制
11. 集団規定などの整理
13. 単体規定などの整理
14. ホテルに係る建築基準法（総合演習）
15. 期末テスト

### 【評価方法】

授業では演習問題を多用する予定であるため、この結果と期末試験を中心とし、さらに出席状況を加味する。

### 【テキスト】

基本建築関係法令集（法令編）平成17年版  
（国土交通省住宅局建築指導課監修 霞ヶ関出版社）  
建築法規用教材 2005（日本建築学会編 丸善）

### 【参考文献・資料】

図解でわかる 建築法規（高木任之著 日本実業出版社）



## 建築構法

高田豊文

### 【授業の概要】

常時荷重や地震、風などの外力に対して建物が安全であるためには、適切な構造形態および構造材料を選択する必要がある。本講義では、力学基礎と建物構築法の考え方を理解することを目的として、木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料および各種構造形式の特性を概説する。

### 【授業計画】

1. ガイダンス、東海地方の地震危険度
2. 力学基礎
3. 構造形式と建築構造材料
4. ラーメン構造
5. コア構造・チューブ構造
6. 壁式構造・スラブ構造
7. アーチ・シェル構造
8. ドーム構造
9. 平面トラス構造
10. 立体トラス構造
11. 折版構造・テンション構造
12. テント・エアドーム構造

### 【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

初めての建築構造デザイン（宮元健次著 学芸出版社）

## 建築材料

山田和夫

### 【授業の概要】

現代の建築構造物を代表する構造形式は、鉄筋コンクリート構造と鉄骨構造である。本授業では、これらの構造物を構成する素材、すなわちコンクリートおよび鉄鋼の製造方法と各種性質について述べるとともに、仕上げ材料として使用される各種の天然材料および人工材料の基本的特性に関する知識も習得できるように講義する。

### 【授業計画】

- 第1講 建築材料の分類と講義予定の説明
- 第2講 コンクリートの構成材料
- 第3講 コンクリートの製造方法
- 第4講 フレッシュコンクリートの性質
- 第5講 硬化コンクリートの強度性質
- 第6講 硬化コンクリートの変性性質
- 第7講 鉄鋼の種類と製造方法
- 第8講 鉄鋼の性質と製品
- 第9講 木材の性質と製品
- 第10講 粘土およびガラス製品
- 第11講 アスファルトおよびプラスチック製品
- 第12講 不燃材料および材料試験

### 【評価方法】

出席状況と定期試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

建築材料<第3版>（嶋津孝之他著 森北出版）

## 建築生産システム

担当者未定

### 【授業の概要】

工業生産としての建築・商行為としての建築の実務に関する理解と知識の習得を目的とする。建築生産のプロセスについて概観したのち、建築施工計画・施工管理の現状と問題点を解説する。併せて、ビデオ・現場見学によって建築生産の実態に関する理解を深める。今後の方向として、建築生産の新しいシステムや生産情報に関する動きについて論じる。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

別途指示する。

### 【テキスト】

## 建築構造Ⅰ（力と骨組）

小野徹郎

### 【授業の概要】

外力に対して、建物の安全性を確保することは、建築設計上重要である。建築構造学では、力とはなにかから力の釣り合い、建物・外力のモデル化、基本的な静定構造物の応力の具体的な求め方を講義し、建築物の力学的な挙動を理解させる。

電卓と定規は持参して下さい。

### 【授業計画】

1. 概要、構造物の種類、モデル化、荷重
2. 力の考え方、力の釣り合い
3. 力の釣り合い、構造物の反力、応力（断面力）
4. 応力（断面力）
5. 静定ばり（1）
6. 静定ばり（2）
7. 静定ラーメン（1）
8. 静定ラーメン（2）
9. 静定トラス（1）
10. 静定トラス（2）
11. 断面の性質
12. 応力度とひずみ度
13. 応力度とひずみ度
14. 構造設計の基本

### 【評価方法】

単位認定試験の成績によって総合的に評価する

### 【テキスト】

やさしい構造力学 浅野清昭著 学芸出版社

### 【参考文献・資料】

建築構造力学Ⅰ（和泉正哲著 培風館）

## 建築構造Ⅱ（地盤と建物）

太田 裕

### 【授業の概要】

建築関連のうち、建築物（下部－上部構造）を支える「地盤」と「下部構造」（基礎構造とも呼称される）を中心に基本事項の習得に努める。都市環境デザインコースにおける最も基礎的な学習科目の一つであり、徹底学習が不可欠である。したがって、授業は【講義と演習（小テスト）】を交互的に行う形で進められる。

### 【授業計画】

1. 序説－建築物を支えるもの－
2. 外力－異常自然現象－
3. 地盤－成り立ちと構成－
4. 地盤－力学的性質－
5. 基礎構造－定義と役割－
6. 基礎構造－力学・物理学－
7. 基礎構造－設計の基礎－

（注）演習（小テスト）を適宜実施する。

### 【評価方法】

レポートにより評価する。

### 【テキスト】

わかりやすい建築構造設計2 基礎構造（大成出版）

### 【参考文献・資料】

多々あり、講義の中で指示する。

## 計画演習Ⅰ（図面表現）

高橋敏郎 渡辺達 小林聡

### 【授業の概要】

建築は設計者、施工者、その他多くの人々の共働によってつくられる。建築設計製図は、それら建築に携わる人々を結ぶコミュニケーション手段であり、基本言語であるといえよう。計画設計演習Ⅰでは、構想⇄平面⇄立体といったプロセスを通じて設計に必要な空間把握力や、図面から立体的な空間がイメージできる能力を修得するとともに、建築設計製図作成上必要な諸々の製図記号、表現方法を学び、設計意図の有効なプレゼンテーション技法を身につけることを目的とする。

1. 平面と立体：立体をいかにして平面上に表現するのか。正投影法、透視図法など、いくつかの図法を通じて学んでゆく。
2. 建築設計図面の基礎：製図記号などの基本的言語を身につけ、平面図、立面図、断面図など、建築設計図面の読み方、描き方を修得する。
3. 様々な図面表現：必要なことを過不足なしに伝える図面から、アピールする図面をめざし、プレゼンテーションの幅を広げる。

### <受講上の注意>

- ・一級建築士受験資格の取得を目指している人は、必ず受講すること。
- ・基本的製図用具（三角スケール、三角定規、製図用シャープペンシル、プレート等）が必要。詳細は授業のガイダンスで説明する。学内での販売も行う予定。

### 【授業計画】

1. 製図法や図面表現に関する解説を行った後、課題を出題する。
2. 数週間製図作業を行い、課題を提出する。
3. 授業中作業する課題以外に、いくつか宿題を出す予定。

### 【評価方法】

出席状況と提出された課題、宿題をもとに評価を行う。

### 【テキスト】

建築設計演習 基礎編 建築デザインの製図法から簡単な設計まで  
（武者英二・永瀬克己 彰国社）  
コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編 丸善）

## 計画演習Ⅱ（都市観察）

担当者未定

### 【授業の概要】

建築・都市空間は人間が滞在し生活する場である以上、そのデザインに際して、熱・空気・音・光といった環境要素の快適性や省資源・省エネルギー性等にも配慮することが必要不可欠である。この演習科目では、実在の建築・都市空間を対象とした観察・調査・分析を行うことにより、環境に配慮した建築・都市のデザインセンスを養うことを目的とする。

なお、本科目受講に先立ち、建築環境学Ⅰ（熱・空気）を履修しておくことが望ましい。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

別途指示する。

### 【テキスト】

## 計画演習Ⅲ（調査実測）

清水裕二 高橋敏郎 岡島哲明 太田 忍

### 【授業の概要】

建築設計の作業の中で、図面や建築模型と実際の空間体験を結びつけるにはある程度の経験を必要とする。たとえば、スケール感。たとえば、構造の空間的な力の流れ。この授業では、手を動かし、ものをつくり、五感で体験することを通じて、机上での構想と実現される空間とを少しでも架橋することを試みる。詳細はまだ決定されていないが、「簡易シェルター」「構造と空間」「展示空間」などのテーマを設定し、簡便な材料を使用して製作を行う予定である。登録者は、日程、必要な道具、材料などを追って掲示するので、注意するように。（毎年、ギャラリー間主催の巡廻展の会場構成計画、及び施工を行っており、本年度も開催が決定された場合、例年通り展覧会場の計画・施工を授業内で行う予定である。）

### 【授業計画】

授業は集中講義とする（日程は追って掲示するが、前期土曜日に6～7回の授業と、展覧会前に設営を数日間行う予定である。履修の際は注意すること）。

### 【評価方法】

作業の成果物及びその製作過程を記録したレポート等の提出物、授業態度等を評価の対象とする。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 空間設計Ⅰ（設計基礎）

清水裕二 三輪律江 道家 洋

### 【授業の概要】

与えられた条件から導き出される建築的解答はひとつではない。この授業では、ある与条件からコンセプト（概念）を整理しつつ空間を構築してゆく訓練を行い、より複雑な建築を設計するための基礎体力を養うことを目標とする。

授業の進め方としては

1. 課題の提出：条件の提示。
2. コンセプト：与条件に対して自分はどうのような考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイアグラムを用いて練る。
3. プレゼンテーション：スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
4. エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
5. 図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
6. 講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。という流れとなる。

### 【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース（2～4）を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

### 【評価方法】

出席状況、制作過程と提出された課題をもとに評価。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 空間設計Ⅱ（小規模施設）

白色真帆 小林 聡 高橋敏郎

### 【授業の概要】

空間設計Ⅰをふまえて、周辺環境も考慮した小規模な施設の設計を行う。現地調査、資料収集、事例研究などをふまえて、図面、模型、CAD、写真、スケッチ、文章など、さまざまな表現手段を使って、案をまとめあげるトレーニングを行う。プレゼンテーションの仕方についても学習する。

### 【授業計画】

- ・出された課題に対して、エスキースを作成し、教員の指導を受けながら案をまとめる。
- ・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
- ・課題は2～3課題出される予定である。
- ・具体的な課題は、講義の中で説明する。
- ・グループ分けを行い、3名の教員で分担して指導する。

### 【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

### 【テキスト】

特になし。

## 空間設計Ⅲ（中規模施設）

垂井洋蔵 笠嶋淑恵 鈴木千鶴

### 【授業の概要】

空間設計Ⅰ及びⅡでの成果をふまえ、提出された演習課題に従って、複雑な建築的諸要求を具体的なプロジェクトにまとめる為のトレーニングを行う。

- 1) より複雑な機能上の諸要求の建築的空間への計画的な合理性を持った翻訳
- 2) 周辺環境のもつ視覚的構成と論理的に対応する形態の発見と外部空間の規定
- 3) 建築空間と、それを成立させる為の整合性をもった構造的システムの提案
- 4) 法的規制の把握
- 5) 魅力あるオリジナルな建築空間の造形とその表現を実際の設計課題を通して学ぶ。

### 【授業計画】

おおむね次のようなプロセスをふむ。各段階ごとに必ず成果を提出し批評を受ける。

- 1) 敷地や周辺環境の空間的特性から建築造形のイメージを得る為のスケッチと概念的造形モデルの作成
- 2) ヴォリューム検討の為のブロックモデルを造形モデルと関連させながら作成する
- 3) 建築モデル第一次案の作成と講評
- 4) 構造システムの検討
- 5) エスキースと講評により計画をまとめあげる。
- 6) 最終提案の完成と発表

### 【評価方法】

各段階ごとの提出作品と、最終案への成熟プロセス、講評会での発表の内容などを総合的に評価します。

### 【テキスト】

特になし

## 空間設計Ⅳ（複雑な施設）

清水裕二 宇野 享 鈴木えいじ

### 【授業の概要】

現代の建築は、スケールの大きさにかかわらず、従来のビルディング・タイプ（学校・美術館・庁舎等）では分類できないような新たなプログラムが要求される。この授業では、従来の建築計画をベースにしつつ、現代性のある提案を盛り込んだ課題について考察し、建築化するプロセスを学習する。

授業の進め方としては

1. 課題の提出：条件の提示。
2. コンセプト：与条件に対して自分はどうのような考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイアグラムを用いて練る。
3. プレゼンテーション：スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
4. エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
5. 図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
6. 講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。という流れとなる。

### 【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース（2～4）を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

### 【評価方法】

出席状況、制作過程と提出された課題をもとに評価。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 空間設計V（都市複合施設）

日色真帆 尾崎公俊

### 【授業の概要】

空間設計I～IVをふまえて、現実の建築設計に近い、より複雑で高度な課題に取り組む。コンセプトの立案から、資料の収集、案の創造性豊かな展開、細部にいたる修正と詰め、プレゼンテーションの工夫といった一連のプロセスを自力で展開することが要求される。課題としては、都市的環境における建築のあり方を探るものが出題される予定である。学生はこの科目で十分なトレーニングを積んだ上で、卒業時に制作する卒業設計に臨むことになる。

### 【授業計画】

- ・出された課題に対して、教員の指導を受けながら案をまとめる。
- ・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
- ・具体的な課題は、講義の中で説明する。
- ・2名の教員で分担して指導する。

### 【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

### 【テキスト】

特になし。

## 建築環境学実験

齋藤基之

### 【授業の概要】

室内や屋外等の熱・空気・光・音環境の定量的な測定・評価方法を学ぶことにより、建築や都市の環境、およびこれらと人間とのかかわりについて理解を深めることを目的とする。

なお、本科目受講に先立ち、建築環境学I（熱・空気）およびII（音・光）を履修しておくことが望ましい。

### 【授業計画】

測定器を用いた演習を行い、測定結果・考察をレポートにまとめる。提出されたレポートに基づき講評・解説を行う。

演習のキーワードは以下のとおり。

- ・温熱環境の測定と評価
  - －気温、湿度、風速、放射温度、着衣量、代謝量、PMV－
- ・空気環境の測定と評価
  - －二酸化炭素濃度、粉塵濃度、換気量－
- ・光環境の測定と評価
  - －照度、昼光率、均斉度－
- ・音環境の測定と評価
  - －音圧レベル、騒音レベル、等価騒音レベル－

### 【評価方法】

出席状況、提出レポートにより評価する。

### 【テキスト】

建築環境工学（山田由紀子著 培風館）

## 建築材料実験

山田和夫

### 【授業の概要】

現代の建築構造物に使用されている主用構造材料は、鉄鋼およびコンクリートである。これらのうち、鋼については、建築技術者が材料の製造を担当することは殆どないため、専ら材料または構造物としての性能を評価するための実験が重要となるが、コンクリートについては、その製法と性質に関する実験が重要となることが多い。そのため本授業では、これらの点を十分に考慮して半期で修得すべき重要な実験項目を厳選した。

### 【授業計画】

- 第1講 各種実験方法および実験予定の説明
- 第2講 骨材試験の種類と試験方法の説明
- 第3講 骨材の密度、吸水率、単位容積質量試験
- 第4講 コンクリートの調査設計方法の説明
- 第5講 コンクリートの実施調査表の作成
- 第6講 コンクリートの混練および打設
- 第7講 コンクリート試験の種類と試験方法の説明
- 第8講 フレッシュコンクリートの試験
- 第9講 硬化コンクリートの引張および圧縮試験
- 第10講 鋼材試験の種類と試験方法の説明
- 第11講 鋼材の引張実験
- 第12講 レポートの講評

### 【評価方法】

出席状況とレポートの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

構造材料実験法<第3版>（谷川恭雄他著 森北出版）

## CAD 基礎

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

建築設計、デザイン、設計図の作成等の諸場面におけるCADシステムのもつハード、ソフト面の基礎的な概念を理解する。CADの持つ積極的側面、限界を正しく把握することによって、計画、デザインのプロセスにコンピュータを有効に利用する能力を開発することを目的とする。演習を通してCADシステム利用の基本的操作をマスターし、より高度な設計、プレゼンテーション手法としてのコンピュータ利用の基礎を修得する。

### 【授業計画】

- 1 CADシステムの概要。本学のシステム構成と、機器の説明及び演習の進め方の諸注意
  - 2 実社会で使われているCADソフトウェア体系の概観と本演習で使用するソフトウェア（VectorWorks）の基本操作の解説と実習
- 以下各演習課題に基づいて簡単なデザイン課題を完成させる。課題の各段階で必要な操作上の解説を行う。

演習課題1 簡単な建築的要素による造形。二次元図面の作成と三次元化によるデザイン上の評価。

演習課題2 建築図面のCADによる作図方法の演習。

演習課題3 演習課題1で行なった各自の作品を題材にして建築作品をコンピュータ上で設計する。すべての課題をプレゼンテーションして提出する。

### 【受講上の注意】

CAD教室の時間外使用を含め、施設使用上の諸注意を行うので第1回目の演習に必ず出席すること。

### 【評価方法】

演習への出席。各ステップごとの課題の提出。作品の内容を総合的に評価する。

### 【テキスト】

演習の各段階で解説資料を配布する。操作上のマニュアルはCAD教室に備え付ける。

## 【授業の概要】

計画演習Ⅳ（CAD基礎）で修得した技術をもとに、設計初期段階における造形力開発の為に3次元形態のモデリングやシミュレーション技法、作品のレンダリングやプレゼンテーション技法をコンピュータ上で学ぶ。建築デザインの表現能力を高める手段として、コンピュータ利用に習熟することを目指す。

## 【授業計画】

本演習では、VectorWorks、RenderWorksの他Photoshop、Illustrator、Shade等のプレゼンテーション用ソフトを使用する。演習課題をとおして、3次元モデリング、レンダリング、画像処理の技法を学び、最終的に作品としてまとめるための表現技法を学ぶ。

各演習課題にそって、講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

演習課題1 簡単な立体の組合せによるモデリング、レンダリングの基本操作

演習課題2 街並みのモデリング・ムービー作成

演習課題3 住宅のモデリング・レンダリング

演習課題4 過去の課題の再プレゼンテーション

〔受講上の注意〕

計画演習Ⅳ（CAD基礎）を受講していることを前提として演習を進めます。各課題は演習時間内に完成させることは難しいので、各自自習時間を利用して作業を進めることになります。

## 【評価方法】

演習への出席状況と、各課題の提出、課題作品の内容を総合評価します。課題を期限内に必ず提出することが評価の前提となります。

## 【テキスト】

演習時間内に資料を配布します。操作上のマニュアルはCAD室に備え付けます。

〔定員〕各40名（越えた場合はCAD基礎においてA、Bの者優先）

## 【授業の概要】

CAD基礎・CAD応用で修得した技術をもとに、コンピューターを利用したプレゼンテーション技術の上達を目指す。

## 【授業計画】

本演習では各CGアプリケーションの応用技術を演習課題をとおして学び、最終的に作品の表現力を高める事を目標としています。

各演習課題にそって講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

※第1回目の授業で演習課題を発表します。

【受講上の注意】

CAD基礎・CAD応用を受講していることを前提とします。

## 【評価方法】

毎回複数のアプリケーションについて説明を行うため、出席状況を重視します。

課題は期限内に提出したもののみ評価します。

## 【テキスト】

授業内に配布します。

〔定員〕40名（越えた場合はCAD応用においてA、Bの者優先）

## 哲学概論

長滝祥司

### 【授業の概要】

西洋を中心とする哲学の概要をテーマにそって理解するとともに、哲学的思考法を学ぶことをめざす。哲学のトピックに親しみながら、現代社会の諸問題を哲学的な思索とを相互連関的にとらえ、論理的な思考力と表現力を養うことを目的とする。

### 【授業計画】

1. はじめに
2. デカルトの認識論と心身問題
3. 表象と実在——デカルトの二元論が残したもの
4. 実在をどうあつかうか
5. 表象なしでやれるのか——哲学から認知科学へ
6. コンピュータは心をもつか1——『ブレードランナー』とチューリングテスト
7. コンピュータは心をもつか2——中国語の部屋
8. ロボットが他者になるとき——『甲殻機動隊』の一話より
9. 他者と心の帰属——心の理論
10. 身体の機械化の果てにあるもの——『イノセンス』と人格の同一性
11. 心と脳の同一性をめぐって
12. 水槽のなかの脳と『マトリックス』の世界
13. クオリアとは何か

### 【評価方法】

平常点と論述形式を中心とするテスト。

### 【テキスト】

現象学と21世紀の知（長滝祥司 ナカニシヤ出版）

#### 【講義の進め方】

基本的には教科書が中心となるが、折に触れて、講義で扱っている哲学的なテーマに関する映画などを鑑賞しながら進めていく。

## 宗教学概論

川口高風

### 【授業の概要】

現代は情報化、国際化、少子化が進み、とりまく環境も大きく変化してきた。情報機器をはじめとする科学技術は目を見はるばかりに進展している。しかし、それに伴って人間性は失われていった。価値観が変わり、生きる指標を失ってしまったのが現代人ともいえよう。この混乱期の時代に、いかに生きるべきかの生き方が問われている。まさに人間の心の豊かさが求められた宗教の時代ともいえよう。

本講義では、最初に宗教に関する学説や本質を学び、その後、世界の諸宗教を概観する。次に私達の人生の先達ともいべき人々の著作をとりあげ、その解説を通して、先達の生き方や人間の真の生きがいを考えてみようとする。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

### 【授業計画】

- 1: はじめに
- 2: 宗教の学問的見方
- 3: 宗教教義の構成 (1)
- 4: 宗教教義の構成 (2)
- 5: 世界の諸宗教 (1)
- 6: 世界の諸宗教 (2)
- 7: 世界の諸宗教 (3)
- 8: 日本の諸宗教 (1)
- 9: 日本の諸宗教 (2)
- 10: 日本の諸宗教 (3)
- 11: 祖師らの著作の解説 (1)
- 12: 祖師らの著作の解説 (2)
- 13: まとめ

### 【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

### 【テキスト】

参考文献・著作などのプリントは当方で用意し配布する。

## 心理学概論

榎原國城

### 【授業の概要】

この授業では、個性の発揮や自己・他者理解のために、人間のパーソナリティ・発達・学習・動機づけなど、現代心理学の主なテーマを取り上げて解説し、考察していく。

心理学が人間の意識と行動を科学的に研究する学問であることを受講者が理解することをこの授業の目的とする。

### 【授業計画】

- 1 心理学について
- 2 パーソナリティ  
(1) パーソナリティとは  
(2) パーソナリティの理論  
(3) パーソナリティの形成  
(4) パーソナリティの測定  
(5) 知能と創造性
- 3 人間の発達  
(1) 発達とは  
(2) 発達研究の方法  
(3) 成熟と学習  
(4) 発達段階  
(5) 青年期の心理と行動
- 4 社会のなかの人間  
(1) 対人認知  
(2) 個人と集団  
(3) 社会的態度

### 【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

### 【テキスト】

心理学を学ぶ 改訂版  
(神谷育児編著 2000 文教資料協会 定価 2,242円)

## 老年社会学

西下彰俊

### 【授業の概要】

「老い」(エイジング)の光と陰を社会学的に分析する!

これまで高齢者問題は老人福祉として論じられることが多かった。高齢者は社会学の客体として位置づけられてきたのである。しかし、すべての高齢者が介護の必要な福祉の対象になっているわけではない。我々の周り的高齢者を見ればそれは明らかである。本講では、社会の主体としての高齢者にも着目し、そうした高齢者が家族、友人、地域社会とどのような社会関係、コミュニケーション関係を形成しているのか、社会学の方法論を駆使しながら分析する。いわば、高齢者の光(プラス)と陰(マイナス)の両面にせまり、理解を深めることが目的である。さらに、老人問題を自らの老後の問題として、言い換えれば、エイジング(加齢=老いつつある過程)を現在進行中のプロセスとして感得できる「柔らかないセンス」をお互いに養っていききたい。

### 【授業計画】

- ハンドメイドのプリントを使用する。
1. 高齢者福祉  
在宅福祉 施設福祉  
ゴールドプラン21 公的介護保険の概要  
公的介護保険の問題点
  2. 老年社会学  
主要な社会学概念 友人ネットワーク  
家族ネットワーク ビデオ『二人だけで生きてきた』の鑑賞  
社会参加と生きがい 幸福感と自殺率—国際比較から分かること—  
新しい老後問題・タイプA型老人

### 【評価方法】

テスト90点、平常点が10点の合計100点で評価を行う。  
平常点は、出席点と授業態度の合計である。適宜、出席の有無を確認する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 【授業の概要】

現代社会において社会福祉を取り巻く状況はめまぐるしく変容している。

本講では、社会福祉のニーズの多様化、高度化について様々な角度から検討を加える。

また、当事者の声を可能な限り反映させ、必要に応じて視覚教材も用いて展開する

## 【授業計画】

第1回 現代社会と社会福祉

第2回 社会福祉の歴史的展開I

第3回 社会福祉の歴史的展開II

第4回～11回

社会福祉実践分野

第12回 まとめ

第13回 試験

## 【評価方法】

出席状況と試験により総合的に評価する。

## 【テキスト】

「新版 社会福祉」(成清美治編 学文社 2005年4月刊行予定)

## 【参考文献・資料】

出版社はどこのものでもよいので『福祉小六法』や用語集を持っておくこと。

## 特別セミナー

石田好江

### 【授業の概要】

- (1) 趣旨：高等学校教育から大学教育への円滑な移行を図り、入学後の基礎教育の推進を目的に、各種研修的行事への参加によるレポート作成指導を中心とした、「特別セミナー」を実施する。
- (2) 目的：学生が担当教員（アドバイザー）とのコミュニケーションを深め、入学後の大学生活における勉学の目的意識を育むとともに、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。
- (3) 指導方法：担当教員がクラス単位で指導する。
- (4) 注意事項：担当教員からの連絡・課題図書等の指示、及び現代社会学会研修行事開催の案内は掲示で行うため、掲示に注意すること。また、学生は積極的に担当教員を訪ね、指導を仰ぐこと。

### 【授業計画】

以下に指定するものの中から学生が選択をし、レポートを年に2回以上提出し、担当教員が指導・評価する。

#### <必須>

- (1) エンカウンターキャンプの観察レポート  
(病気等の理由でキャンプ不参加の学生は、博物館・美術館等の見学レポートをこれに代える)

#### <選択>

- (1) 担当教員の指定する課題図書の読書感想文
- (2) 現代社会学会主催の研修旅行への参加と観察レポート
- (3) 現代社会学会主催の講演会への参加と感想レポート
- (4) 学内で行われる各種研修的行事への参加と感想レポート
- (5) 学外で行われるボランティア等体験学習への参加と感想レポート
- (6) その他担当教員が認めるもの

### 【評価方法】

レポート（2回以上提出）による

### 【テキスト】

課題図書は、担当教員が指示する

## 基礎演習

石田好江

### 【授業の概要】

現代社会の特質は、消費社会、管理社会、脱産業化社会、情報化社会など様々にとらえられている。前半は、そうした現代社会についての理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献、論文、新聞記事を読みあい、ディスカッションを行う。

後半は、前半で学んだことを基礎に、各自テーマを設定し、そのテーマについて調べたことを報告する。成果は、そこでの討論やコメントをふまえ、レポートとして提出する。

あわせて、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）やレポートの作成方法、文献・情報検索の方法等を学ぶ。

### 【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメントーターは予め決めておく。また、発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

### 【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

### 【テキスト】

授業の中で指示する。

## 基礎演習

石田米和

### 【授業の概要】

人間関係、社会文化の在り方とコミュニケーション、メディア等との関連について、広範囲に学習し議論する。グループに分かれてのテーマ研究（サブ・ゼミ）も併せて行う。

### 【授業計画】

大別して、以下のような内容を計画している。

- ・社会科学やコミュニケーション、メディアに関する基礎理論、方法論
- ・メディアの特徴と社会文化的機能
- ・メディアの影響（生活、産業、文化、心理等）

### 【評価方法】

定期試験、グループ研究（サブ・ゼミ）および出席状況、受講態度によって評価する。

### 【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

## 基礎演習

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

<地域研究入門：多文化・多言語社会の考察>

文化の多様性を尊重し共存の道を目指す多文化共生への流れは、世界各地で大きくなってきている。オーストラリア、カナダ、米国その他の多文化・多言語主義社会に焦点を当て、その歴史、経済、人口構成、言語政策、外国人受け入れ政策、多文化維持政策などの視点から考察する。多文化共生世界の中で、日本が進むべき方向について、多くのヒントが得られるだろう。

### 【授業計画】

英語・日本語資料の講読、ビデオ視聴、ゲストスピーカーとの意見交換などを通して学ぶ。受講生は、各自興味を持った地域や問題を選び、調査・発表する。

英語語彙力および読解力の強化を念頭に授業を進める。

### 【評価方法】

レポートおよび平常の勉学状況により評価を行う。

### 【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。



## 基礎演習

太田浩司

### 【授業の概要】

Introduction to Research

人間はだれもが“naive scientist”だと言われています。人々は毎日の生活の中で、様々な場所から刺激、つまり情報を集め、即時に分類・反応をしています。このすばらしい能力はすべての人間に生まれつき備わっているものですが、複雑化、多様化、そして情報にあふれた現代社会では、さらに高度な情報収集・分類・分析テクニックが必要になっています。そこでこの基礎演習では様々な形式の情報を発見、収集、分類、分析、提示をする知識と技術の基礎を身につけることを目標としたいと思います。春学期には文献調査やコンピューターを使用した情報収集の方法などを勉強し、秋学期には調査によって集めた情報を効果的に整理し、口頭発表にまとめあげること特に強調したいと考えています。

### 【授業計画】

詳しい授業内容については春・秋学期の最初の授業でお知らせしますが、一応以下の内容を扱うつもりです。

1. 文献調査の仕方とデータベース
2. アンケート調査
3. コンピューターによる情報整理と分析
4. インターネットによるコミュニケーション
5. プレゼンテーション技術
6. 画像加工
7. 認知と情報プロセス

### 【評価方法】

実習、発表、論文

### 【テキスト】

人を動かす技術!話す技術(杉田 敏 PHP新書 他)

### 【参考文献・資料】

授業中に配布します。

## 基礎演習

大嶺 浩

### 【授業の概要】

新聞記事(報道)にみられる法概念(制度)の学習を通して、現代社会の諸現象の理解(説明・解釈・批判)に努める。

### 【授業計画】

授業日以前、1週間の報道の中から、興味のある事件をとりあげ検討する。その際、種々の辞書、書籍などを参考にして、報道で使用された「用語」の正確な理解に努める。  
なお、演習参加者には意見発表を求めるが、レポートの提出も随時要求する。

### 【評価方法】

出席状況(演習に対する姿勢)とレポート(内容)による総合的な評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 基礎演習

大西 誠

### 【授業の概要】

現代社会における課題発見と問題解決のための基礎知識と技法を学ぶ。  
文献や資料の調査・収集・整理の仕方、各種メディアの活用法、レポート・論文の作成法の基礎を身につける。

### 【授業計画】

前期は、下記のようなもので構成される。

1. オリエンテーション(基礎演習の目的)
2. 資料調査の基本
3. 情報・テキストの読み取り
4. 映像のレトリックを発見する
5. 「地域」と「世界」の関係
6. 「国際」問題と複数の視点
7. 論文作成の基礎
8. 口頭発表と討論

などの講義と数回のワークショップ

後期は、個別のテーマにグループで取り組み、発表するとともに討議を行う。

以上により、自分のテーマ・課題を発見し、本格的な演習に取組む姿勢を身につける。

### 【評価方法】

授業への参加度、課題レポート、口頭発表や討論参加とワークショップなどで総合評価する。

### 【テキスト】

なし。

## 基礎演習

小川明子

### 【授業の概要】

文献講読、調査、レポート、発表、議論など、大学で必要とされる基本的なスキルを一通り学ぶことを目標にする。

題材としては、地域とメディア、メディア表現と文化などを考えているが、時事問題や参加者の希望を取り入れつつ、柔軟に考えていきたい。

また、前期には、全国各地の大学との間で地域とメディア表象をめぐる交流授業(ワークショップ形式)を数回行う予定。

### 【授業計画】

1. 年間計画提示、調査法、文献探索法概説
2. 文献講読(メディア研究)
3. 調査、発表・プレゼンテーション
4. まとめ

### 【評価方法】

授業態度、発表などから総合的に評価する

### 【参考文献・資料】

社会情報学ハンドブック(東京大学出版会)  
メディア文化を読み解く技法(世界思想社)  
現代メディア史(岩波書店)

## 基礎演習

親松和浩

### 【授業の概要】

調査研究を行う上で必要な、文献検索・資料収集・レポート作成等の基本的技能の習得を目指す。

### 【授業計画】

環境、現代史、情報メディアに関する以下の3つの課題に取り組み、調査、分析、報告までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。

1. 自然環境を考える～道ばたの草花の野外観察～
2. 自分史を書く～世の中の移り変わりを考える～
3. メディアとしてのコンピュータ入門  
～コンピュータ言語Squeak入門～

### 【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

## 基礎演習

五島幸一

### 【授業の概要】

チームペーパーや卒業論文を書くことを目標にして、実際の書き方や資料の検索の仕方を学ぶ。論文のテーマの決め方、アウトラインの書き方、注の付け方、および章または節のたて方などを考える。

また、各自で自分の興味にあったテーマを探しだし、それに沿って、資料の収集を行う。そして、その資料をもとにしてプレゼンテーションをする。

### 【授業計画】

論文の書き方では、テキストを中心に学ぶ。資料収集とは図書館にて作業をする。

### 【評価方法】

授業への参加度および2回のチームペーパーにて評価する。

### 【テキスト】

「人を動かす！話す技術」(杉田敏 PHP新書)

## 基礎演習

神原國城

### 【授業の概要】

この演習の主題は、学生自身が、自らの主体的な態度に基づく勉学や研究の基礎となる原則的方法や態度を身につけることである。また、現在の心理学研究法を概括的に紹介し、その一部を体験させる。

基礎演習の内容は、レポートの書き方、文献の紹介の仕方などから始めて、観察法・実験法・面接法・調査法・検査法などの心理学研究法概観である。講義、実習、討議などの方法を用いて授業を進める。

### 【授業計画】

- 前期 レポートの書き方、科学的研究の進め方等。  
後期 心理ゲーム、パーソナリティ・インベントリー、対人魅力等。

### 【評価方法】

前期末および後期末にそれぞれレポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価も行う。

### 【テキスト】

授業時に指示する。

## 基礎演習

竹村 弘

### 【授業の概要】

大勢の人の前で自分の意見を述べたり、相手と意見交換をして一致点や妥協点を見出したり、オピニオン・リーダーとしてグループの総意をまとめたりするためのトレーニングを行います。広い知識や良いアイデアを持っていても、相手にうまく伝わらなかつたり、相手の同意を得ることができなくては、何にもなりません。それには周到な準備と十分な実施訓練が必要です。

### 【授業計画】

1. 「グループ討論」：少人数のグループに分かれて、最初は身近なテーマから、後半には地域や日本の経済社会問題、地球規模の環境問題まで、広範なテーマについてグループ討論を行い、ディベート能力の向上を図る。
2. 「5分スピーチ」：自ら選択したテーマの論文について、自分のコメントを発表する。テキスト『日本の論点』文芸春秋社（プリント配布）
3. バーチャル株式投資：バーチャル株式取引所で株式投資を体験することにより、株式投資の仕組みを理解し、その時々株の動きを通じて日本経済への関心を高める。
4. 『21世紀いろはカルタ』：100年前の福沢諭吉の「世紀歓迎会」に倣って、20世紀と共に葬むべき悪弊、21世紀に実現したい理想等を読み込んだ『いろはカルタ』を共同製作し、『淑楓祭』で展示発表する。
5. 文献講読：G. スペンスの『議論に絶対負けられない方法』をテキストに、文献講読を行う。各章毎に、コーディネーター1人、レポーター4人のチームで、ポイントを報告し、全員で討論する。コーディネーターの役割は、一人ひとりに自分の考えを発言させ、討論を盛り上げることです。

### 【評価方法】

討議、発表などを総合的に評価。

### 【テキスト】

プリントおよび、議論に絶対負けられない方法 (G. スペンス) (貸与)

## 基礎演習

谷沢 明

### 【授業の概要】

テーマは「フィールドワークで探る生活文化・地域文化」。「歩く・見る・聞く」の三つの行動をとおして、歴史的文化遺産を活用した地域文化の振興などを考える。基礎演習の目的・内容は、次のとおり。

#### 1. 物事の本質を見極める目を養う

フィールドワーク（野外調査）を通して、地域社会の文化や民俗を探究する。学生が街や村を歩き、人々の生き方や暮らしを学び、体験する。それら観察した事象を通して、人々の営みと意思を読み取る訓練を重ねていく。そして、これらの作業を通して物事の本質を見極める目を養う。

#### 2. 歴史・風土・文化を生かした地域づくりを考える

21世紀の日本は、自然や文化を重視した誇りの持てる地域づくりが課題となっている。そのためには、歴史や風土・地域特性・文化的蓄積を生かした自立的な地域づくりが必要である。また、それぞれ個性を持った地域間の連携と交流による地域づくりが求められている。これらを踏まえて、新しい文化と生活様式を創造する多様性のある地域づくりの在り方を考えていく。

#### 3. 地域社会の文化・民俗を調べる

地域社会の文化については、歴史的文化遺産の継承とまちづくり・地域文化の振興・地域特性などを中心に調査・研究を行う。また、地域社会の民俗では、有形・無形の文化伝承をとおして生活文化を調査・研究する。

【備考】併せて「フィールドワークⅠ（国内調査実習①：基礎）」「フィールドワークⅤ（国内実地研修）」を履修することが望ましい。

### 【授業計画】

前期：フィールドワークの基礎を学ぶ  
(学外教育を5回程度実施する)

後期：歴史的文化遺産を活用した「まちづくり」の研究

### 【評価方法】

フィールドワークへの参加、パワーポイント作成、プレゼンテーション等でおこなう

### 【テキスト】

まちづくりの実践（田村明 岩波新書）  
その他、適宜参考資料を提示する

## 基礎演習

辻 紘良

### 【授業の概要】

マルチメディアを題材に取り上げ、調査・研究を進めていくために不可欠な問題の設定とそのアプローチの方法、そして論理的な思考の方法や表現・発表の方法を実際に体験することより修得する。

実施にさいしては、マルチメディアの最先端のトピックスを取り上げ調査・研究するための各種技法を学習するとともに、マルチメディアの社会的な意味について調査検討を併せて行う。

### 【授業計画】

1. マルチメディアの基礎・学問の行為論
2. マルチメディア社会論
3. IT技術の利用や普及に関する調査と発表、討議
4. 次世代マルチメディアの動向に関する調査と発表、討議
5. 調査・研究の位置づけや論文の構成の理解
6. 問題の設定とアプローチの方法
7. ホームページの作成と公開
8. 表現の技術・論文の作法

OHPやプロジェクトを用いた発表、ホームページによる公開等、プレゼンテーション各手法の活用を試みる。

### 【評価方法】

課題の提出や発表ならびに期末試験の結果を総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

使用せず

### 【参考文献・資料】

知の技法（小林・船曳他編 岩波書店、p322、1995）  
マルチメディア標準テキストブック 社会論編  
(編集委員会編 画像情報教育振興協会、p143、平成9年)

## 基礎演習

千葉善根

### 【授業の概要】

戦後、日本の食生活が大きく変わり生活習慣病が増加している。それに伴い平成のはじめ、厚生省等から日本型食生活を奨める指針が出され、昔の食生活に戻ることが提案されている。また、最近では「粗食」に関する出版物が目につく。

これらのことから、昭和二十年代以前の日常の食生活は勿論、冠婚葬祭、年中行事等と食との関係およびその背景を探り、現代人の「生活」や「食」との違いを比較してみたいと考えている。

### 【授業計画】

各自が「食」に関わる故事、名言、川柳、雑俳、歳時記、新聞記事などから自由にテーマを選び話題提供をし、それをもとにディスカッションをする。

### 【評価方法】

発表、ディスカッションへの参加状況、レポートの内容、出席状況などを総合して評価。

### 【テキスト】

未定

## 基礎演習

西尾林太郎

### 【授業の概要】

博覧会の総合的研究

万博を中心に博覧会と現代社会について総合的に考察する。原則としてゼミ方式によるが、最初の数回は各種の資料を用いて講義をする。この講義を通じて博覧会に関する基礎知識を学ぶと共に、愛知万博に対する自分なりの視点を構築する。また、ゲストスピーカーをお呼びする予定である。

実際に万博会場でフィールドワークを実施する。

### 【授業計画】

1. 博覧会とは何か？ 博覧会の歴史
2. いくつかの事例からみた博覧会-パリ万博、セントルイス万博、汎太平洋平和博覧会（名古屋市主催）、大阪万博など
3. 新聞、雑誌、テレビ等メディアによる万博報道
4. 愛知万博をフィールドワーク
5. フィールドワークを表現
6. 11月より自由なテーマで発表

### 【評価方法】

出席状況と授業での活動およびレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

適宜指示するし、必要に応じて配布する。

## 基礎演習

秦 忠夫

### 【授業の概要】

世界経済と日本経済の注目されているテーマ（例えば「中国経済の成長とその影響」「日本経済の立ち直りに向けた動き」「アメリカの双子の赤字の潜在的リスク」など）について優れた論文・解説記事・単行本などを多読し、実践的な経済観察眼を養うことを目標とします。各自の発表の機会を多くし、表現能力の向上も重視します。

### 【授業計画】

興味深いテーマを扱っている図書や資料を全員で読み、私の解説や意見交換を通じて内容の理解を深めます。

### 【評価方法】

授業への参加態度と期末レポートで評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の際適宜紹介。

## 基礎演習

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

「近現代社会と教育」をテーマとし、(1) 現代教育の基礎をなす人間観の理解と、(2) 自らの経験してきた教育の相対化、を通じ、現代教育の諸問題にアプローチする研究手法を学ぶ。それ自身が重大な社会問題であると同時に、多様な社会問題の有力な解決策でもある「教育」という社会現象に関する意見や考えを、確かな学問的知見に転換していく基本的技能の習得鍛錬を目指す。

### 【授業計画】

毎回、事前に配布する共通資料（英文）を中心に「近現代社会と教育」に関する基礎知識を習得すると共に、各人の関心に基づく発表、討論を行う。

### 【評価方法】

授業への参加貢献度（レポート、発表内容、発言等）。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

教育への問い（天野郁夫編 東京大学出版会）  
教育の比較社会学（原清治他編 学文社）  
比較・国際教育学（石附実編著 東信堂）

## 地域分析論

坂井貞彦

### 【授業の概要】

愛知県は他の府県にくらべてどのような特徴があるか。また、全国47都道府県のうちでどのような位置をしめているか。このようなことを、統計的データなどを利用して計量的（数量的）に分析する場合の考え方や手法について学習する。「地域」としては、都道府縣市町村の他、大都市圏といった社会経済的指標を利用して設定した区域もとりあげる。

### 【授業計画】

講義方式による。次のようなことがらについて、テキストの記述のうちの基本的なものを説明し、また自主的学習を促す。

- 1 地域人口分析
- 2 地域、地域の特性
- 3 地域分析に用いる人口統計データ、統計地域
- 4 地域分布 全域を考慮しての部分地域の分析
- 5 地域の特性（人口、年齢構成、産業構成）
- 6 地域の経済的機能（中心地的機能、中心性）
- 7 地域間交流
- 8 人口移動圏、通勤通学圏

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

地域人口分析の方法（大友篤 日本統計協会）

### 【参考文献・資料】

地域分析論 改訂版（大友篤 東洋経済新報社）

## 交通システム論

辻 絃良

### 【授業の概要】

交通は地域が活動し発展していくためには不可欠な動脈であると同時に、一人ひとりの住民として快適な日常生活を享受していくのに不可欠な手段であることを理解する。このため、地域交通が置かれた現状と課題を事例を通して学習するとともに、交通施設、道路等インフラ整備の現状と課題、ならびに自動車交通に関する安全・環境の諸施設の整備状況と問題点を理解し、それらの諸方策について考察する。

### 【授業計画】

身近な交通の問題から始め、次第に総合的な交通体系の問題へと論旨を展開する。講義とともにビデオ機器を用いて交通システムの実例や実験例を示し理解を深める。

1. 地域交通体系の現状と課題
2. 地区交通計画
3. 地区交通の社会実験
4. 短距離交通システム
5. 交通と環境
6. 交通運用計画

この他、交通結節点、交通網の計画、自動車交通需要の推定、交通流制御などから適宜テーマを選択し解説する。

### 【評価方法】

数回の小テストと期末試験の結果を総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

使用せず。プリント配布。

### 【参考文献・資料】

交通計画学第2版（樽木・井上共著 共立出版）2002年

## マーケティング論

村松幸廣

### 【授業の概要】

マーケティングの基本的概念と仕組みについて理解を深めるとともに、企業・組織におけるマーケティング活動の重要性やマーケティング・マインドについて考える能力を身につけてほしいと考えている。

### 【授業計画】

1. マーケティングとは
2. 企業・組織の諸活動
3. マーケティングの考え方
4. マーケティングの基本フレーム
5. マーケティング調査
6. プロダクト・プランニング
7. セールスプロモーション
8. マーケティング・チャンネル
9. 消費者行動とマーケティング
10. マーケティング・ミックス
11. マーケティング戦略とプロダクトライフサイクル
12. グローバル化とマーケティング
13. Eコマースの発展

### 【評価方法】

レポート、発表、定期試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

現代マーケティング論（松江宏編 創成社）

## 地域社会演習 I a・b

大嶽 浩

### 【授業の概要】

「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

### 【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「総論」的に考察する。具体的には、  
1 契約（意思表示） 2 代理（専門家） 3 売買契約  
4 請負契約 5 賃貸借契約 6 消費貸借契約  
などについて考察する。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

### 【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 地域社会演習 I a・b

石田好江

### 【授業の概要】

前半は、マーケティング、消費・流通、社会福祉・ジェンダー問題等の社会政策に関わる理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献や論文を読みあい、ディスカッションを行う。

後半は、前半で学んだことを基礎に各自テーマを設定し、研究する。その成果は順番に発表し、そこでの討議やコメントをふまえ、最終的にレポートとして提出する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション  
演習の目的、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）の作成方法など
2. 文献講読  
文献は、基礎的でありながら、新しい問題提起、パラダイム（理論の枠組み）の問い直し、通説の批判などを含んだものを選びたい。したがって文献講読を通じて基本的な知識を身につけるとともに、消費経済をめぐる新しい動きの理解をめざしたい。
3. 個人研究・発表  
研究方法について  
個人研究・発表

### 【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

### 【テキスト】

未定。

## 地域社会演習 I a・b

坂井貞彦

### 【授業の概要】

日本人口の現状及び人口統計資料の分析手段について学習した後、古代から最近までの世界各国の人口問題、人口政策（最近の日本の少子高齢化の経済・社会・社会保障への影響を含む。）について考察する。

### 【授業計画】

- (1) 担当教員の講義、(2) 学生の発表と討議とを併用する。(2)の場合、テキストの章（または節）ごとに発表担当者をあらかじめ定める。担当者は事前にレジュメを作成し、発表のさい全員に配布し説明する。
1. 人口統計資料の利用・分析手段の学習（テキスト（1））
2. 日本の人口と社会保障の現状について（テキスト（1）及び（2））
3. 人口問題と人口政策（テキスト（3））

### 【評価方法】

発表と討議への参加、別途提出を指示するレポートの内容を総合して行う。

### 【テキスト】

- (1) 人口分析ハンドブック（岡崎陽一 古今書院）
- (2) 社会保障入門（竹本善次 講談社現代新書）
- (3) 現代人口政策論（岡崎陽一 古今書院）

### 【参考文献・資料】

- (1) 国勢調査報告（総務省統計局 日本統計協会）
- (2) 人口の動向（国立社会保障・人口問題研究所 厚生統計協会）

## 地域社会演習 I a・b

榊原國城

### 【授業の概要】

多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析して人間理解を進める手法が質問紙調査法である。この演習の目的は、科学的資料の収集法としての質問紙調査法とデータ解析手法の習得である。

演習 I a では、統計パッケージ・プログラム「SPSS」に基づいて、調査資料の統計的データ解析の概念の理解とデータ解析手法の体得を目指す。演習 I b は、受講学生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習である。

前期 (演習 I a) : データ解析演習

1. オリエンテーション
2. データの分類
3. データ・ファイルの作成
4. 質的データの分析
5. 量的データの分析

後期 (演習 I b) : 質問紙調査法演習

1. オリエンテーション
2. 調査計画立案
3. 調査票作成と調査実施
4. 調査結果の分析
5. 報告書の作成

### 【授業計画】

前期 (演習 I a) は統計解析パッケージ活用法をマスターするためのコンピュータ実習。

後期 (演習 I b) は質問紙調査法の実際を体験するグループ作業による実習。

### 【評価方法】

前期末および後期末にそれぞれレポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価も行う。

### 【テキスト】

授業中に指示する

## 地域社会演習 I a・b

竹村 弘

### 【授業の概要】

「日本経済と地域開発」の研究を通じ、将来、企業・地方公共団体などにおいて、主体的に事業計画を企画、立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目的とする。

### 【授業計画】

1. 「文献講読」： 広く「日本経済と地域開発」に関する文献を講読することにより、基礎知識から詳細な専門的知識まで広範な知識および方法論を習得する。輪読、討論、専門家等との意見交換などにより、一層の理解を深めるとともに、自発的思考能力を養い、問題意識の喚起を図る。最初の段階で、ディベート・EQトレーニングを行う。これは、論理的かつ効果的に組み立て、好感の持てる話術で、穏やかに、辛抱強く、時にユーモアを交えて、自己主張するためのトレーニングである。
2. 「サブゼミ」： 少人数のグループで、自らの問題意識に基づき選択したテーマについて、自主的に調査研究を行い、「レポート」を作成する。夏合宿で「中間報告」を行い、『淑楓祭』展示、他大学合同研究会など、外部との討論で一層の充実を図り、かつ、説得力のある説明、質疑・批判に対する明快な応答など、ディベート能力の向上を図る。

### 【評価方法】

討議、グループ研究など総合的に評価。

### 【テキスト】

EQ・心の知能指数 (D. ゴールマン)、日経大予測 (日本経済新聞社) (各貸与)

## 地域社会演習 I a・b

谷沢 明

### 【授業の概要】

テーマは「フィールドワークで探る生活文化・地域文化」。

生活文化や地域文化、地域の民俗をフィールドワークをとおして学びます。各自が関心を持ったテーマを、「あるく・みる・きく」という行動をとおして追求することを演習の中心とします。好奇心を持ってなんでも観察し、小さな発見を積み重ねていきます。さらに、謙虚な気持ちで土地の人々に接し、そこから学んでいきます。その成果をパワーポイントにまとめ、ゼミ発表をおこないます。

### 【授業計画】

前期：「歴史・風土・文化を活かした地域づくり」のテーマでフィールドワークをおこない、成果を発表します。

4～6月：「歴史・風土・文化を活かした地域づくり」のフィールドワークをおこない、取り組んでみたいフィールドとテーマを決めます。

7月：卒論作成に向けての個別研究指導

後期：卒論で取り組んでみたいテーマを設定し、フィールドワークをおこない、成果を発表します (レジュメ使用)。そして、4年次の卒論作成に向けて基礎固めをおこないます。

10月～：各自がそれぞれテーマに基づいてフィールドワークを実施

1月：卒論作成に向けての個別研究指導

### 【評価方法】

フィールドワークへの参加、パワーポイント作成、レポート作成等でおこなう

### 【テキスト】

テキストは使用せず

## 地域社会演習 I a・b

千葉善根

### 【授業の概要】

食べものと文化

「禽獣は喰らい、人間は食べる。教養ある人にしてはじめて食べ方を知る」『美味礼讃』より

即ち、人間が「食べること」には精神的・社会的な意味が加味されている。こうした動物とは異なる人間独特の食のあり方が食文化である。

各地に数多くある食品 (または素材) および話題について、食文化形成要因や他の地域の食とのつながり、食と人間のかかわりなどを視野に入れて討議し、今後の食文化や食生活について考察する。

### 【授業計画】

1. 各自、種々の資料をもとに各地の「特色のある食、伝統的な食、地域特有の食、美味しいもの」などからテーマを自主的に選択し要約・発表する。
2. 前半はできるだけおおくのテーマ (食) について幅広い知識を身につける。
3. 各発表に全員が参加し討議する。
4. 必要に応じて見学、調査、試食などを考える。

### 【評価方法】

発表・討議、レポート、出席など総合して評価。

### 【テキスト】

使用しない。

## 地域社会演習Ⅱ a・b

石田好江

### 【授業の概要】

演習Ⅰにおいて深めた問題意識の上に立ち、各自があたためてきたテーマを、さらに「研究」にふさわしいものにしていく。前半では、そのために必要な方法論を中心に学び、後半では、その成果を発表する。

前期は、演習Ⅰの基礎的な理解の上にとって、消費経済をめぐる周辺領域（社会学心理学など）の文献、あるいは近年の消費行動や購買行動を分析した論文を取りあげ、より消費経済の理解を深めることをめざす。

後期は、個人研究の発表を中心に進める。各自が3年後期から進めてきた個人研究を発表するとともに、2年間の演習の集大成としてレポート（あるいはゼミ論文）の形でまとめる。

### 【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメントーターは予め決めておく。また発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

### 【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

### 【テキスト】

未定。

## 地域社会演習Ⅱ a・b

大塚浩

### 【授業の概要】

演習Ⅰにひきつづき、「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

### 【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「各論」的に考察する。具体的には、

1 所有～賃貸 2 維持～管理 3 贈与～相続

などについて考察する。以上のほかに、「『住まう』とはどういうことか」や「文学作品から見た『住まい』」についても考える。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

### 【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 地域社会演習Ⅱ a・b

榊原國城

### 【授業の概要】

この演習の目的は、学生自身の個人研究活動を通じて、判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけることにある。

- ・受講学生は自らの興味や関心によって研究テーマを自由に設定することができる。
- ・担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用していく。
- ・演習を通して行った研究の成果を研究論文としてまとめる。
- ・演習は、学生の研究活動の各段階ごとに、個人発表および討議によって進められる。

#### 1. 講読演習

参考文献（E. F. ストーン著 鎌田伸一・野中郁次郎訳 1980 組織行動の調査方法 白桃書房）に基づき、問題・仮説、変数、研究デザインなどのテーマについての講読演習。

#### 2. 発表・討議

・問題の設定 ・文献研究 ・研究目的の明確化 ・方法の検討 ・データの収集 ・結果の集計・分析・考察

### 【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式。

### 【評価方法】

演習への参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

### 【テキスト】

組織行動の調査方法

（E. F. ストーン著 鎌田伸一・野中郁次郎 1980 白桃書房 定価2,400円）

## 地域社会演習Ⅱ a・b

竹村 弘

### 【授業の概要】

目的は、「演習Ⅰ」で述べたように、実社会においてプロジェクトを主体的に立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、行動できる実力を身につけることである。

「演習Ⅱ」においては、日本経済および地域開発に関わるあらゆるテーマについて、一人ひとりの問題意識に基づき、「調査研究」「企画提案」「論文作成」を実施する。今、何が問題で、何をすべきかを自分で考え、自分で決断し、実際に行動し、課題を達成し、そのプロセスと成果を人にきちんと説明し、理解と賛同を得る能力を修得することを最終目標とする。

### 【授業計画】

1. 「調査研究」： 文献調査により先行研究を十分理解・整理した上で、現地調査、アンケート調査、ヒアリングなどにより、独自の観点からの研究を深める。
2. 「企画提案」「論文作成」： 事例調査・企画提案を統合して論文を作成する。中間報告で全体討議、意見交換を行い、論旨展開、実証資料、理論構成等の一層の充実を図る。

### 【評価方法】

討議、「論文」など総合的に評価。

## 地域社会演習Ⅱ a・b

谷沢 明

### 【授業の概要】

地域文化や地域の民俗をフィールドワークをとおして学ぶ。3年次後期に各自がテーマを設定し、その関心にもとづいておこなった「地域社会演習Ⅱ a・b」のフィールドワークの成果を基礎に、そのまとめをおこなう。ゼミでは、学生の発表にもとづき、調査研究論文の作成の指導をおこなう。後期は、文献の講読をおこなう。

### 【授業計画】

- 前期：各自が設定したテーマに基づき、それぞれが、発表とそのまとめをおこなう。  
4～7月：発表とまとめ  
8月：個別研究指導  
10月初旬：調査研究論文の提出（これを卒論の基礎とする）  
後期：宮本常一『家郷の訓』（岩波文庫）をテキストとして講読をおこなう。  
10～12月：『家郷の訓』講読  
1月：卒業論文発表会

### 【評価方法】

発表、調査研究論文の内容等でおこなう

### 【テキスト】

前期はテキストは使用せず。後期は、家郷の訓（宮本常一 岩波文庫）をテキストとする

## 比較憲法

初谷良彦

### 【授業の概要】

憲法の問題についての確かな理解をもつためには、どうしても比較憲法の知識が必要である。欧米諸国の憲法について概観し、人権保障や裁判制度等重要な論点について比較検討を行う。とりわけEU司法裁判所による興味ある実例ないし判例についても詳しく紹介、分析する。

### 【授業計画】

- 第1回 アメリカの憲法
- 第2回 イギリスの憲法・議会
- 第3回 フランスの憲法
- 第4回 ドイツの憲法
- 第5回 スイスの憲法
- 第6回 EUの憲法
- 第7回 欧米各国の権力分立
- 第8回 欧米各国の司法制度
- 第9回 欧米各国の議会
- 第10回 欧米各国の政治体制
- 第11回 欧米各国の政党
- 第12回 欧米各国の中央・地方関係
- 第13回 欧米各国の利益集団
- 第14回 世界各国の憲法改正手続
- 第15回 期末試験

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績により評価する。

### 【テキスト】

使用しない。随時資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 地域社会演習Ⅱ a・b

千葉善根

### 【授業の概要】

演習Ⅰにおいて身につけた知識の上に立ってテーマを大きく設定し、多岐にわたる地域特性（例えば気候風土、地形、交通路、都市形成の歴史と背景など）を考慮し、地域間の食文化の比較などさまざまな食と人間とのかかわりについて深く調査・研究するとともに将来の望ましい食文化を考える。

### 【授業計画】

- 各自がテーマを自主的に設定、計画的に調査・研究し逐次発表する。
- 各発表に全員が参加し討議する。
- 随時、個々に指導助言する。
- 必要に応じて見学、試食などを考える。

### 【評価方法】

発表・討議、レポート、出席など総合して評価。

### 【テキスト】

使用しない。

## 国際社会演習Ⅰ a・b

青島 宏

### 【授業の概要】

ベルリンの壁崩壊で始まった冷戦構造の消失で国際情勢は激変し、新しい民族問題が姿を現した。民族とはなにか、国民国家をどのように形成しているのか、現在の文明とどのように関わっているのかなどの理解なしには、西欧、東欧、ロシア、中東、アジアなど至る所で起きている国際情勢の変化をとらえることは出来ない。中東などの地域研究や英文資料講読を手掛かりに国際情勢を読み取る手法を学ぶ。

【民族とは】 民族についてはさまざまな定義が試みられている。古典的な民族観、近代や現代の民族についての考え方を身につけさせるとともに、日本人の思考様式の特異性を考える。

【宗教と国際情勢】 宗教は民族のアイデンティティと密接なつながりを持ち、しばしば国際情勢を読み解くキーワードになる。レバノン内戦でのマロン派キリスト教徒、パレスチナ紛争でのユダヤ教徒、イラン革命でのイスラムなどの分析を通じて、国際情勢の中での宗教を考える。

【地域研究】 シオニズムとはなにか、パレスチナ紛争、イラン革命などの歴史的要因、冷戦終結後の欧州連合の東方拡大などの国際情勢とのかかわりなどを掘り下げて、中東、欧州などでの国際関係の読み解きを行う。

### 【授業計画】

理解を助けるために、できるだけスライド、写真、地図などを多用する。

### 【評価方法】

日常の出席状況などの授業への取り組みとレポート提出による。

### 【テキスト】

国際関係論（中嶋嶺雄著 中公新書）  
文明の生態史観（梅棹忠夫著 中公文庫）

英字紙の記事など英文資料を読むための意欲が望まれる。  
国際情勢論を受講すること。



## 国際社会演習 I a・b

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

(1) 地域研究：多文化・多言語社会の考察

文化の多様性を尊重し共存の道を目指す多文化共生への流れは、世界各地で大きくなってきている。オーストラリア、カナダ、米国その他の多文化・多言語主義社会に焦点を当て、その歴史、経済、人口構成、言語政策、外国人受け入れ政策、多文化維持政策などの視点から考察する。多文化共生世界の中で、日本が進むべき方向について、多くのヒントが得られるだろう。

(2) 日本語教授法：日本語を母語としない人を対象とした日本語教育

日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察する。(希望者を対象に、演習後の5時限を行う。)

### 【授業計画】

英語・日本語資料の講読、ビデオ視聴、ゲストスピーカーとの意見交換などを通して学ぶ。英語語彙力および読解力の強化を念頭に授業を進める。

受講生は、各自興味を持った地域や問題を選び、調査・発表する。後期終りに冊子作成。

日本語教育については、テキストおよびビデオ教材を使い、初級授業で扱う文型・文法事項の英語による具体的指導法を考察する。

### 【評価方法】

レポート、発表および平常の勉強状況により評価を行う。

### 【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

## 国際社会演習 I a・b

西尾林太郎

### 【授業の概要】

「近・現代における日本人の対外観と外国人の日本観」

特に近・現代における日本人の対外観および外国人の日本観について、古代から現代に至るまで幅広く調査・研究し、(国際化)のまっただ中にある今日の日本および日本人について考えてみたい。

### 【授業計画】

例えばルース・ベネディクト『菊と刀』など外国人の日本人論(日本論)や日本人の対外観に関する文献を逐一検討したり、新聞や雑誌あるいは各種テレビ番組で報じられた外国人の日本観、ないしは日本人の対外観をできる限り収集し、検討したい。また、こうした作業を通じて、調査・研究や発表のやり方あるいは討論(ディベート)の方法を修得する。

また日本近・現代政治史、外交史、社会史の文献講読をし、近・現代日本の姿を歴史的に把握することにも努めたい。

2004~2005年は日露戦争100年にあたる。この戦争は、その後の日本やヨーロッパの運命を変えた戦争である。日本国内に与えた影響は計り知れない。そこで、今年度は9月に、戦争の舞台となった中華人民共和国の大連や長春を訪問し、日露戦争や日本の「満州経営」に関する史蹟を見学すると共に現地の大学生と交流したい。

日本とは異質な文化を持つ琉球(沖縄)やこうしたアジア各国の人々との真摯な交流を通じて、日本の歴史や現実に対する理解を深めることを、この授業の目的としたい。

a 前期：上記のテーマに関して各自の発表(特に、中華人民共和国の現状、日中関係、日露戦争などに関して)。

b 後期：調査研修旅行に関する、いくつかのプレゼンテーション。日本政治・外交史、日本社会論、日本社会史に関する各自のテーマについて調査・研究と発表。

### 【評価方法】

評価は演習およびそれに付随する行事での活動状況と随時に課すレポートの内容による。

### 【テキスト】

特に定めない。

### 【参考文献・資料】

その都度指示する。

## 国際社会演習 I a・b

秦 忠夫

### 【授業の概要】

日本経済と世界経済の結びつきを重点に、経済をみる眼を養うことを目標とします。スタート時点では参加者の経済学履修状況にはバラツキがあると思われるので、次のような段階的アプローチをとる方針です。第1段階では、講義形式で経済学の基礎を勉強します。第2段階では、『世界経済白書』などをテキストに世界経済の現状ならびに日本経済の実情と課題を勉強します。この段階では、各自が割り当てられた部分の要旨を報告し、質疑応答する形を基本とします。第3段階では、内外経済の注目されているテーマに関する論文・解説記事を多読し、実践的な理解力を鍛錬したいと思います。

### 【授業計画】

第1段階：最初の1カ月。経済学の基礎の勉強。

第2段階：5月以降前期末月まで。内外経済の実情がテーマ。

テキスト：追って連絡。

第3段階：残りの期間。実践的な理解力の鍛錬。

テキスト：内外の論文・解説記事のコピー。

なお、前期末には共通テーマにつき、後期末には各自が選んだテーマにつきレポートの提出を求めます。

### 【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

### 【テキスト】

上記の通り。

### 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

## 国際社会演習 I a・b

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

「現代社会における教育」を全体テーマとし、(1)共通プロジェクト(「生涯発達支援としての教育」)、(2)各自の個別プロジェクトから構成する。生涯発達・生涯学習に関する基礎理論を各参加者の異なる経験と連関させながら学び、それぞれのテーマや関心を深化させていく。それ自身が重大な社会問題であると同時に、多様な社会問題の有力な解決策でもある「教育」という社会現象に関する研究法を上記プロジェクトを進める中で実践的に学び、現代社会における教育のあり方を探求する。

### 【授業計画】

各自の問題関心に基づくレポート発表と討論を行う。

### 【評価方法】

授業への参加貢献度(レポート、発表内容、発言等)。

### 【テキスト】

使用せず(資料配布)。

### 【参考文献・資料】

生涯学習と自己実現(麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会)

人間発達の生態学(プロンフェンブレンナー 川島書店)

開発と教育(江原裕美編 新評論)

## 国際社会演習Ⅱ a・b

青島 宏

### 【授業の概要】

演習Ⅰでの学習を踏まえて、冷戦構造消失後に新しい変化が起きつつある国際情勢のなかなどから、各自の興味あるテーマ追究に取り組む。拡大する欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）などの国際機構の新しい機能や、中東紛争や北アイルランド紛争、ペルシャ湾とエネルギー安保、米中核テロとアフガニスタンなど視野にいれたい。

演習Ⅰの学習内容と関連させながら計画する。

### 【授業計画】

ゼミ生各自が演習Ⅰの学習を通じて国際問題への関心を広げ、興味のあるテーマを選んで、各自で調査発表する。

### 【評価方法】

日常の出席状況など授業への取り組みとレポート提出による。

### 【テキスト】

未定。

## 国際社会演習Ⅱ a・b

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

演習Ⅰに引き続き、(1) 地域研究：多文化・多言語社会の考察、(2) 日本語教育に関する考察を深めるとともに、各自が設定したテーマで論文作成を進めていく。

### 【授業計画】

各自が、自分のテーマについて調査・研究を進め、中間発表を行う。クラス討議と個人指導を通して、卒論を仕上げていく。

### 【評価方法】

発表、レポートおよび平常の勉学状況により評価を行う。

### 【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

## 国際社会演習Ⅱ a・b

藤井麻湖

### 【授業の概要】

演習Ⅰからの継続。この演習は、「アジアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・宗教・民族などの側面から多面的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化（映画、音楽、和食、ファッションなど）、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

### 【授業計画】

テキスト、新聞・雑誌記事、ビデオなどを使ってアジア社会の諸問題を考察し、討議を通じて知識を深める。また、文献の集め方・使い方、レポート作成の方法などを適宜教示する。

- 1) ～2) アジアの現代史
- 3) ～4) 民族、宗教、言語
- 5) ～6) 教育
- 7) ～8) 政治と経済
- 9) ～12) アジア諸国の社会経済発展における日本の役割
- 13) その他

### 【評価方法】

討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業で指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## 国際社会演習Ⅱ a・b

西尾林太郎

### 【授業の概要】

「日本人と日本社会に関する総合的研究」

戦前および戦後の日本の政治・外交・経済・社会・文化を国際的視点に立ちつつ歴史的に捉え、研究を進める。

### 【授業計画】

たとえ短くても、演習生全員が卒業論文（ワープロ打ちA4 12枚以上。変更されることもある）作成を目指す。前半は演習生と相談の上で、いくつかの文献を読み、後半は各自の関心やテーマに応じて調査・研究を進め、その成果を演習で発表してもらうこととする。そうした積重ねの上に卒業論文が可能となる。なお、ゼミでは卒論作成の過程で見つけた問題点や卒論の一部について発表してもらう。

また、適宜、学外から講師をお呼びし、御指導いただきたいと思っている。

### 【評価方法】

評価は演習での活動状況と発表、および「卒論」提出の有無による。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

随時、指示する。

## 国際社会演習Ⅱ a・b

秦 忠夫

### 【授業の概要】

演習Ⅰでは世界および日本の実体経済の動きを主たるテーマとしましたが、演習Ⅱでは国際通貨・金融問題にテーマを広げていきます。「国際金融論」で基礎的な勉強は終わっている筈ですから、「ヨーロッパの通貨統合」、「国際資本移動の功罪」、「わが国の金融制度改革」など注目されている動きに関する論文や記事を教材にして、討議形式で通貨・金融問題への関心と理解を深めて行きたいと思えます。「卒論」は選択科目ですが、学生生活の仕上げに全員卒論に取り組んでもらいたいと考えています。前期の内に卒論につながる各自の研究テーマを定めてもらい、後期はそれぞれの研究の報告（中間報告）につき意見交換する形にしたいと思えます。

教材とする論文や記事は原則として私が用意しますが、参加者から提案があればそれ以外の資料も取り入れていきます。前期末には各自の研究テーマの趣旨と研究の進め方につきレポートを提出してもらいます。

### 【授業計画】

上記の通り。

### 【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

### 【テキスト】

テキストの使用予定なし。

### 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

## 国際社会演習Ⅱ a・b

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

演習Ⅰからの継続。「現代社会における教育」を全体テーマとし、各参加者の個別プロジェクトについて発表・討議を行う。現代社会における教育をより広い歴史的社会的視点から考察し、今後の教育のあり方に関する確かな知見を養いたい。

### 【授業計画】

各自の問題関心に基づくレポート発表と討議を行う。

### 【評価方法】

授業への参加貢献度（レポート、発表内容、発言等）。

### 【テキスト】

使用せず（資料配布）。

### 【参考文献・資料】

生涯発達と自己実現（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）  
国際化と教育（佐藤郡衛 放送大学教育振興会）  
教育の比較社会学（原清治他編 学文社）  
教育改革の経済学（伊藤隆敏・西村和雄編 日本経済新聞社）

## 国際社会演習Ⅱ a・b

藤瀬浩司

### 【授業の概要】

現在の世界経済と日本がおかれている状況について勉強します。

### 【授業計画】

ゼミ参加者の報告に従って進めます。

### 【評価方法】

ゼミへの参加状況によって評価します。

### 【テキスト】

平成16年度通商白書（予定）

## メディアプロデュース演習Ⅰ a・b

石田米和

### 【授業の概要】

人々の意識や行動の総体としての文化に与える各種メディアの影響は、近年日増しに強くなってきている。このような状況のなかで、本演習では、先ずさまざまな基本的な方法論を修得し、メディアと文化に関わる広範な知識を蓄積し、議論し、理解力・洞察力を深めていくことに主眼を置く。なお、演習Ⅱや卒業論文作成への連携を念頭に置いて進めていく。

概ね、以下のようなテーマを考えている。

1. 社会科学における方法論・手法論
2. 理解力・洞察力・表現力等
3. メディア（環境）の変容とその影響
4. メディア文化の考え方
5. 関心テーマ（卒業論文）の模索

### 【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君のプレゼンテーションとをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な関連学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

### 【評価方法】

受講資格は特にない。

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

### 【テキスト】

未定。英文も使用する。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

## メディアプロデュース演習 I a・b

太田浩司

### 【授業の概要】

音声、文字、画像などの表現・伝達媒体としてのメディアは文化や社会集団と密接に結びついているものです。テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどでのマスメディアで繰り広げられるコミュニケーションと対人レベルでの人間コミュニケーションの接点を模索するとともに、そこに潜む様々な人間心理について観察、実験、コンピュータを使用するデータの分析・研究発表を通して理解を深めていきます。

### 【授業計画】

各学期の最初の授業に詳しい予定を提示します。以下の内容を含む予定です。

1. メディアのとらえかた
2. 文化としてのメディア
3. 社会グループとメディア
4. 服装・化粧と対人コミュニケーション
5. 顔とコミュニケーション
6. 研究方法
7. データ分析
8. 論文作成

### 【評価方法】

出席、口頭発表、タームペーパー

### 【テキスト】

未定

## メディアプロデュース演習 I a・b

大西 誠

### 【授業の概要】

現代の情報化社会では、メディアの存在そのものが当然のものとして受けとめられている。この演習では、メディアの自明性に疑問を向け、多様化する現代のメディアの意義や問題点を探る。具体的には、リアリティを構成する映像等の素材をもとにメディアの送り手の意図を解読するとともに主体的な発信者となることを目指す。

### 【授業計画】

テキスト、映像などの素材をもとに発表および討論。

<前期>

写真、映画、テレビ、ビデオなど様々なメディアの映像を読み解くとともに、現代社会のメディアの動向に目を向けて、ジャーナルな感覚を身につける。

- 1) テキストの解読・要約と意見の発表
- 2) メディア表現の分析と討論

<後期>

グループワークとしてメディア企画のシミュレーションとともに具体的な成果物の作成に取り組む(学祭で発表)。また前期に引き続き、メディア表現について、各自テーマを設定しを分析に取り組む。

### 【評価方法】

口頭発表、小レポート、討論への参加、課題レポートなど。

### 【テキスト】

映像論 (NHK出版)

## メディアプロデュース演習 I a・b

小川明子

### 【授業の概要】

メディアと地域社会、文化について考える。

前期は、地域とメディアに関する文献の購読と議論を重視する。

夏休みには、前期の学習を踏まえ、地域メディアの調査旅行を行う。(費用は5万円程度。)

さらに後期には、メディアと文化に関して、文献を購読したうえで各自が調査、発表する形式を取る。

最終的には、メディアと社会、文化をめぐって学んだことを全員でドラマ形式の作品に仕上げることができればと考えている。

### 【授業計画】

1. 年間計画提示
- 2-10. 文献講読
- 11-20. 文献購読、調査・発表
- 21-23. 課題作品制作
24. まとめ

### 【評価方法】

授業態度、発表等から総合的に評価する

### 【テキスト】

適宜指定する。

### 【参考文献・資料】

メディア・プラクティス (せりか書房)  
メディア文化を読みとく技法 (世界思想社)  
沖繩に立ちすくむ (せりか書房)  
メディア文化の権力作用 (せりか書房)

## メディアプロデュース演習 I a・b

親松和浩

### 【授業の概要】

情報メディア技術をはじめとした科学技術をどのように利用していけば、私たちの暮らしを豊かにそして幸せなものにできるかを考えていきます。演習 I では、自分自身の考えをまとめて、文章にしたり、人前で報告する練習を行い、「調査、分析、報告までの一通りのプロセスを体験」して、卒業論文/制作に繋げていきます。

### 【授業計画】

「暗しと自然環境について考える」「情報メディアを利用した作品や教材の制作」を2つの柱として、次の課題に取り組む予定です。

1. 自然環境を考える～デジカメ、ビデオカメラやパソコンを利用した自然観察～
2. メディアとしてのコンピュータ入門～コンピュータ言語Squeak入門～
3. 旧暦とピラミッドからGPSの科学まで～精密科学の発展と暮らし～
4. Webやケータイを利用した情報サービスの実態調査
5. 科学館/博物館見学

### 【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

### 【テキスト】

未定

## メディアプロデュース演習 I a・b

古賀暁子

### 【授業の概要】

—映像の面白さを“ことば”で語る—  
現代は映像の時代だといわれている。生活の中で映像の読解や映像による表現の必要性は日々増している。  
古今の映像、それが1枚の絵や写真、映画の1シーン、テレビCMの1場面であれ、自分に訴えてくるものを、ことばによって追い求め、知の枠組みとして構築してみることは楽しい。一人で楽しむのもいいが、授業では、この楽しみを仲間と共有してみよう。

### 【授業計画】

各学生が自分のこだわりの映像を提示し解説し、全員でこれを解析してゆくことを中心とする。自作の映像作品を題材とすることも奨励する。

### 【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、期末レポートなどによって常時評価する。

### 【テキスト】

なし。

## メディアプロデュース演習 I a・b

五島幸一

### 【授業の概要】

新聞やテレビなどを示すオールドメディアからコンピュータネットワークなどを意味するニューメディアを概観し、その特徴を考えていく。それとともにメディアを通して流されるメッセージの内容を考察する。

### 【授業計画】

テキストを中心に行うが、副教材としてプリント、ビデオなどを使用する。とくに、学生主体の発表とするので、学生はプレゼンテーションを考慮すること。

### 【評価方法】

授業への参加度、与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するチームペーパーをもって評価の対象とする。  
ゼミでは学期末試験を行わないかわりに、チームペーパーを課す。

### 【テキスト】

未定

## メディアプロデュース演習 I a・b

坂元 多

### 【授業の概要】

—映像表現のテクニックをさぐる—  
テレビ制作の技術を学びとるには、数多くの番組視聴試写がかかせない。映画を含む既存の映像番組の中から具体的にすぐれた表現テクニックを抽出し、整理分析し体系化することでトータルな映像表現の理解を構築する。組織化された教材映像のスクリーニングを媒介として映像表現の知識、技能を習得する。

一枚の絵ハガキ、絵画、写真などスタイルの解析  
TV、映画、コマーシャルなど動く映像の解析  
ディスプレイ、インストールの解析  
ビデオ制作による表現技術の実践と評価

### 【授業計画】

映像の提示、報告、解析の演習。

### 【評価方法】

試料となる映像から何をどう読みとるか、各回のとり組み方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## メディアプロデュース演習 I a・b

辻 紘良

### 【授業の概要】

マルチメディアの要素技術であるCG画像作成、デジタル映像ならびにMIDI音楽について作成方法や編集技術を学び、これらを総合的に活用してデジタル映像作品等を作成する。さらに、研究室LANを介してこれらの映像作品の対話型送受信を試みる。これらにより、マルチメディア技術諸相の現在を体得するとともに、マルチメディアの可能性と問題点を具体的に把握する。

### 【授業計画】

前期はパソコンで行うマルチメディアに関する基礎技術を学ぶ。後期は、修得した技術を総合的に活用して映像作品を作成し、ネットワークに載せ対話型送受信を試みる。

前期：マルチメディアに関する基礎技術の修得  
・2・3次元画像作成（イラスト、3次元CG）  
・デジタル映像作成・編集（対話型2・3次元動画）  
・サウンド作成・編集（MIDI音楽）  
・ホームページ作成（対話型ネットワーク通信）  
・プログラミング（ネット対応言語）

後期：作品作成  
・各自作品（一つのソフトを利用して作成）  
・グループ作品（複数のソフトを活用して作成）  
7号棟Media Landの設備を使用する。

受講にさいしては「情報活用4,5,6」の履修が望ましい。また、授業に電子メールを利用するので、学内のネットワーク利用資格を取得しておくこと。

### 【評価方法】

課題の提出状況や期末試験の結果、ならびに作品の出来映えを総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

### 【参考文献・資料】

マルチメディア情報学の基礎（長尾真他著 岩波書店 p.240）

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

石田米和

### 【授業の概要】

演習Ⅰでのテーマをより深化させて、各自の関心テーマの絞り込みから卒業論文作成の計画と指導へと繋げていく。

概ね以下の項目についての指導を行っていく。

- メディア文化に関する議論、個別研究
- 関心テーマの絞り込み
- 卒業論文の作成計画
- 卒業論文の執筆

### 【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

### 【評価方法】

- 受講資格は特にない。
- レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

太田浩司

### 【授業の概要】

演習Ⅰ a・bに引き続き個人が社会生活の中でどのように自己を提示し、他の人々を認識しているのかを調査・研究をする。前期は、特に調査を行った結果を社会の中にどのようにフィードバックをしていくかという応用に焦点を当てる。後期は研究した内容について報告書を作成することを目標とする。

前期はグループプロジェクト方式、後期は卒論に向けての個人プロジェクトという形式を採用する予定である。

### 【授業計画】

学期の最初に提示する。

### 【評価方法】

個人の口頭発表とプロジェクト

### 【テキスト】

被服と化粧の社会心理学 (高木修監修 北王子書房)

### 【参考文献・資料】

随時配布をする。

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

大西 誠

### 【授業の概要】

演習Ⅰ a・bをさらに発展させる。

メディアプロデュースの実際について、計画から実施まで制作を試みる。それぞれの感覚や独自性の伸長をはかるため、個別課題にとりくむ。

### 【授業計画】

研究発表と討論、一部フィールドワーク。課題の深化のため、個別指導を求めることが望ましい。

<前期>

各自の課題を明確にし、メディア・プロデュースについて理解を深める。

- 1) メディア表現分析
- 2) テキスト解読と応用

<後期>

グループワークとしてメディア企画のシミュレーションを行う (学祭で発表) とともに具体的な成果物 (卒論、卒業制作など) の作成にとりくむ。研究課題の柱は以下の二つ。

- 1) 映像企画/展示企画
- 2) 広告概論 (CM分析)

### 【評価方法】

口頭発表、レポートの提出などにより総合的に評価。

### 【テキスト】

知の編集術 (講談社現代新書) 情報デザイン入門 (平凡社新書)

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

小川明子

### 【授業の概要】

前期は文献購読。「幻影の時代」「孤独な群集」などのメディア研究の古典を読む。

後期はこれまでの研究内容を踏まえ、卒業論文、制作に関する構想発表の場としたい。

### 【授業計画】

1. 全体計画提示
2. 文献購読
3. 卒業研究構想と討論
4. 卒業研究の発表

### 【評価方法】

授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

孤独な群集 (みすず書房)  
幻影の時代 (東京創元社)

### 【参考文献・資料】

メディア・プラクティス (せりか書房)

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

親松和浩

### 【授業の概要】

演習Ⅰをふまえて、各自が具体的なテーマを設定し、調査研究論文を完成させる。特に、情報通信技術に関連するテーマについては、より実践的研究として、パソコンを利用した教材制作も視野に入れる。

### 【授業計画】

学生の発表、ディスカッションによって調査研究（教材制作）を完成させていく。演習Ⅰ同様、資料の配付や収集、レポート提出には電子メールとWWWをフルに活用する。

### 【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

古賀暁子

### 【授業の概要】

演習Ⅰでの経験をもとに、映像の世界を更に深く遠く旅することにしよう。その過程では、先達の遺したすぐれた作品に感動したり、その時代としての新しい挑戦の意義に気付いたりすることも必要だ。映像の面白さをあえて言葉で分析し、整理し、表現することを学ぶことによって、注意深く“見る”眼が養われ、映像表現のテクニックも身につくことであろう。

### 【授業計画】

演習Ⅰとの相異点は、学生主体の発表に課題を与え、方向性を加味する。話し合うだけでなく、論理的な文章としてまとめる訓練も行う。演習Ⅰと同様、自作の映像作品をもちよって全員で検討することも奨励する。

### 【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、レポート、自主研究の深まりなどにより常時評価する。

### 【テキスト】

なし。

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

五島幸一

### 【授業の概要】

演習Ⅰを発展させて、様々なメディアの特徴を理解するとともに、メディアを通じて流されてくるメッセージの内容を分析する。具体的には、ニュース報道、広告、またはテレビドラマなど様々なものを対象にして、コミュニケーション（とくにレトリック批評）の観点からその内容を考察する。

授業はテキストを輪読するとともに、学生は自分たちの興味あるトピックをみつけ、それを発表することが課せられる。

### 【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。学生の発表を主体とする。

### 【評価方法】

与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するターム・ペーパーをもって評価の対象とする。

### 【テキスト】

演習Ⅰで使用したテキストを引き続き使います。

メディア・コミュニケーション論（竹内・児島・橋元編 北樹出版）

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

坂元 多

### 【授業の概要】

演習Ⅰをふまえて、映像試写、映像制作をとおして映像への一層の理解を深める。

課外での自主的映像制作を前提とし、互いに制作者と観賞者の立場から、作品の試写、質疑、討議、評価を行う。

### 【授業計画】

試写と討議を中心とする演習。

### 【評価方法】

発表、討議、レポートなどで総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## メディアプロデュース演習Ⅱa・b

辻 紘良

### 【授業の概要】

演習Ⅰで体得したマルチメディア技術諸相の認識を基盤とし、次の研究1～4を並行して進めていく。

(研究1) マルチメディア社会や技術に関し、今日的なテーマを設定し、調査分析を試みる。例えば、ブロードバンドやi-modeなど具体例を取り上げ、それらの現状と将来を調査し、地域社会や産業の活性化にどのような影響を及ぼすかを考察する。

(研究2) 演習Ⅰの延長でマルチメディアを総合的に駆使してデジタル映像等の作品作成を行う。

(研究3) マルチメディアに関する要素技術をより深める実験・研究を行い、応用面を開拓する。

(研究4) 新しいシステムの望ましい姿を思い描き、プログラム言語を用いてパソコン上に構築し、実現可能性を確認する。

### 【授業計画】

(研究1) は前期は調査が主、後期は具対例を対象に分析・考察し、論文にまとめる。調査対象は一人一つを選び、前期に専念して調査する。後期は各自がその結果を用いて現状や将来を考察するとともに、論文を作成する。これらを随時、各自が発表するとともに全員で討議し問題の認識を深める。講義や、クラス討議を通して各技術の位置づけや、関連性を理解する。これらを通して、マルチメディアに関して具体的に幅広い認識を得る。

(研究2)～(研究4) に関しても上記と同様に前期、後期の段階を追って研究を深める。

受講にさいしては「情報活用4,5,6」の履修が望ましい。学内ネットワーク利用資格は取得しておくこと。

### 【評価方法】

中間報告やクラス討議、ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

### 【参考文献・資料】

マルチメディア情報学の基礎 (長尾真他著 岩波書店 p.240)

## 都市環境デザイン演習Ⅰa・b

河辺泰宏

### 【授業の概要】

文献講読、資料調査、施設見学、都市観察などの演習を通じて、日欧の都市と建築を中心に造形様式と社会状況との関連について考える。

とくに、建築や都市の歴史、歴史的文化遺産の保存・再生、近現代の建築デザイン等について、フィールドワーク等を行いながら体験的に学ぶことを主な目的としている。

### 【授業計画】

主な演習課題およびフィールドワークとして下記のような内容を予定しているが、フィールドワークの対象はメンバーと相談の上で決定する。

文献講読や見学会、研修旅行等にあたっては、レポート担当者や実行委員を決めて、報告や準備を行う。また、演習の根幹をなす見学会やフィールドワークには、必ず参加することが義務づけられる。

なお、年間を通じて1～2回の国内研修旅行、3～4回のフィールドワークおよび見学会を催すので、参加費用(5～8万円程度)を各自準備する必要がある。さらに、年度末には海外研修旅行を行うことがあるが、これについては有志参加とする。

- 1) 論説文の書き方
- 2) フィールドワークの仕方
- 3) 都市の開発と保存をテーマとしたフィールドワーク  
(例) 名古屋市内(四間道から白壁町まで)/妻籠  
高山/京都/長浜/有松etc.
- 4) 日本の近代建築をテーマとしたフィールドワーク  
(例) 明治村/神戸/半田/桑名etc.
- 5) 日本の近代建築および西洋建築史に関する文献講読

### 【評価方法】

授業や見学会等への参加状況とレポート、課題発表の内容によって決める。

### 【テキスト】

図説ローマ『永遠の都』都市と建築の2000年(河辺泰宏著 河出書房新社)  
必要に応じてプリント等を配布。

## 都市環境デザイン演習Ⅰa・b

瀧美正子

### 【授業の概要】

住宅・居住地、またその他の生活空間を、“住む”“生活する”側の視点に重点をおいて考えていく。近年、生活主体である家族のかたちや役割、ライフスタイルが多様化し、生活空間に求められる機能も変容している。こうした現状を客観的に見つめることにより、新たにどのような変化や矛盾が生じているのかを把握し、問題解決に向けての方向を探ることを目的としている。生活空間をつくるには、生活の分析がベースとなる。生活者のニーズや思いを映し出した生活空間づくりのあり方考えることを目的とする。また、演習を通して、自分の考えを文章化したり、成果をプレゼンテーションする能力及び人前で聞き手が理解できるようにスピーチする能力向上を目指す。

### 【授業計画】

- 1) 住宅・居住地における矛盾の発見  
住生活に関する文献を講読し、ディスカッションを行う。
- 2) テーマの設定  
全体で取り込む大テーマを設定し、各グループはそれに関連するサブテーマを決める。
- 3) 調査・資料収集  
それぞれのテーマに基づいて、文献・論文等で予め情報を得たうえで、実際に見学やヒヤリングなどを行う。
- 4) 結果の分析  
自ら得た情報を分析し整理する。
- 5) 発表・討論  
成果のプレゼンテーションを行い、全員で討論する。討論をふまえ、最後にレポートを提出する。

### 【評価方法】

結果分析への取り組み過程、発表の内容、討論への参加状況、出席状況等を総合して行う。

### 【テキスト】

特になし

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 都市環境デザイン演習Ⅰa・b

齋藤基之

### 【授業の概要】

地球環境問題の叫ばれる今日、建築の分野にもこれまで以上に環境に配慮した設計・技術が求められている。この演習では、文献講読、都市・建築の観察、調査・実験等を通じて、熱・空気・光・音環境といった室内の快適性を犠牲にすることなく、地球環境にもやさしい建築デザインのあり方について、様々な切り口から考えていく。また、その過程において、研究課題の設定や計画・実施・解析、プレゼンテーション能力を養う。

### 【授業計画】

1. 受講者各自の興味に合わせ、各個人もしくはグループ毎に研究テーマを設定する。
2. 設定した研究テーマの遂行に必要な基礎知識を、文献講読等により習得・整理する。
3. テーマの遂行に適切な調査方法(都市観察、アンケート調査、測定器を用いた実測調査・実験等)について検討し、実施計画をたてる。
4. 調査を実施し、結果の解析・整理を行う。
5. 研究成果についてプレゼンテーションを行い、受講者全員で討議する。
6. 討議内容を考慮し、研究内容の追加・修正を加えたうえで、報告書等としてまとめる。

なお、この演習科目を通じ、年度末までには、卒業論文・設計へと発展する各個人の課題設定の絞り込みが行えることを目標とする。

### 【評価方法】

テーマへの取り組み状況、討議への参加状況、プレゼンテーション、報告書等の提出物、出席状況により総合評価する。

### 【テキスト】

特になし。



## 都市環境デザイン演習 I a・b

清水裕二

### 【授業の概要】

次のシークエンスに従って授業を進めていく。

1. 課題の設定  
建築や都市に関係するテーマであれば、特に限定はしない。建築や都市を通して現代社会の事象や問題について考察し、それらについてアクチュアルな提案を含んだ設計・研究を目指してほしい。(共通のテーマを設定する場合もある。)
2. 調査・分析  
自らが設定した課題について調査・分析を行う。  
フィールドワーク：テーマについて実際に現場へ出向き、自ら情報を収集する。  
文献調査：書籍、雑誌、論文等の文献、インターネット等から必要な情報を獲得する。  
分析：テーマに沿って収集した情報の整理・分析を行い、設計や立論へとつなげる。
3. プレゼンテーション  
調査・分析を基に、課題に対する解答、提案、結論を、他の人々にプレゼンテーションする。その際、テーマに沿って最も効果的なメディア（図面、模型、映像、小論文等）を各自選択する。
4. 総合評価：前期、後期末に総合講評をおこなう。

前期はテーマ別に数人のグループをつくって共同で作業を行う。後期は各個人のテーマをより突き詰め、それぞれで作業を進めることとする。ただし、年度によって作業の進め方を変更することもある。

### 【授業計画】

ゼミ期間中を通して以上1→4の流れで授業を進めて行く。

### 【評価方法】

プレゼンテーションと、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 都市環境デザイン演習 I a・b

高橋敏郎

### 【授業の概要】

「コンセプトの無いデザイン」はありえない。私たちを取り巻く家具、調度品、室内、建築、都市すべてが何らかの意図を持ち関わり合い空間を構成している。この演習では、設定されたテーマあるいは自分の関心を持ったテーマについて基礎知識を習得し、また、作品を見ることから設計・デザインの方法論、デザインの手がかりを解説することによって独自のデザインの切り口を見つけようとするものである。特に室内の家具や調度、室内空間、室内気候と人間の関わり、建築内部と外部空間の関わり、都市と建築の関わりなどに着目し、資料収集、調査・観察、分析を行い、設計に結びつけてゆきたい。

### 【授業計画】

前期

1. 建築と室内の現代デザイン思潮、人間工学と家具、インテリア、空間についての基礎知識の習得。
2. 共通課題の設計（個人）、プレゼンテーションテクニックの習得。
3. 作品の発表と討論会。

後期

1. 共通課題の設計（個人）。共通課題に必要な基礎知識の習得
2. a) 卒業研究についての各自でテーマ設定の仕方について
2. b) 各自の設定したテーマについて資料収集・調査を行い、収集した情報を分析する
2. c) 分析結果を踏まえ、研究または設計計画書を作成する
2. d) 計画書の発表と討論会

### 【評価方法】

計画書、成果物、プレゼンテーションにより評価。

### 【テキスト】

特になし。必要に応じプリント教材を配布する。

## 都市環境デザイン演習 I a・b

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

建築を設計するということは、「意味に形を与える」ということであるといえる。形態や様々な記号の操作の前に、その建築が存在する場所の意味、さらにそこに企画しようとする建築の意味の本質、そしてそこにどのような場所と空間を生み出そうとするのかという明快な論理性を物としての建築の全体と部分を持つていなければならない。建築をデザインする上での基本となるこうした思考方法を建築を学び始めた学生諸君に様々な建築思潮、作品の分析、実際の制作行為を通して学んでもらうことを目的とする。

### 【授業計画】

- 1) 建築論、空間論に関する基本的文献の紹介と解説を行う。
  - 2) 現代建築の作品をいくつか取り上げ、見学し、実際の体験と観察を通して、その解説と分析を試みる演習を行い、制作者の意図と建築空間の連関について学ぶ。
  - 3) 小規模な設計課題にとりくみ、設計意図の明確化、コンセプトの建築形態への具体化とデザインを学ぶ。
  - 4) 夏期に現代建築作品の見学研修旅行を行なう。
- 以上の過程で、演習II、卒業論文、設計へと発展する各自のテーマが見出せるように指導したい。

### 【評価方法】

課題への取り組み、発表、成果を総合評価する。

### 【参考文献・資料】

参考文献として

人間と空間 (O.F.ボルノウ せりか書房)

かくれた次元 (E.ホール みすず書房)

その他いくつかの文献や論文を演習中に提示します。

## 都市環境デザイン演習 I a・b

日色真帆

### 【授業の概要】

自分たちの居住環境を形成している、室内、建築、都市というそれぞれスケールの異なる空間について、現実の体験や観察の記述、図面やその他の視覚的な表記法、模型、写真、創作的な物語、コンピュータシミュレーションなど、さまざまなメディアを利用して、解説し評価することを学習する。調査や実験の方法についても一連の作業の中で習得する。特に都市住居を見直す視点からアプローチする。

### 【授業計画】

演習の進め方は、受講者と議論の上具体的に決めることとするが、「目標をたて、調査や実験をし、プレゼンテーションをする」という一連の作業を、数セット行うこととする。大学院生や4年生の研究テーマと関連づけて行うこともある。

- ・イントロダクション：居住空間を解説する視点を概説する。様々な分析手法についても解説する。
- ・見学：対象とする地域について見学をし議論を深める。
- ・調査・実験：各自が関心をもった側面について、それぞれ調査・実験を行う。
- ・中間発表会：調査・実験の経過について発表をし講評を受ける。
- ・調査・実験の追加およびプレゼンテーション作業
- ・講評会
- ・プレゼンテーション追加作業：講評会での批評をもとにプレゼンテーションの追加作業を行う。

### 【評価方法】

プレゼンテーションと提出されたレポートによって行う。

### 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザイン演習 I a・b

吉田邦彦

### 【授業の概要】

建築設計に関わる下記の項目に関するテーマを取り上げ、調査・分析・検討する。

- ・ 建築の設計プロセス
- ・ 建築設計におけるCAD・CGの機能や表現力の可能性
- ・ 情報技術（IT）革命の建築（住宅・オフィス・図書館など）への影響
- ・ 建築（大学キャンパスやオフィスなど）の評価
- ・ サステイナブル・デザインの手法

検討結果をもとに今後の変化の方向あるいは望ましい将来のあり方や方法を考察・提案する。これらの一連の作業を通して、調査・分析・評価・表現のための技術を習得する。

### 【授業計画】

- (1) テーマ設定：各自が関心を持ったテーマについて発表、討論の上、設定する。内容や方法によっては、2～3名でグループを編成する。
- (2) 演習実施計画の作成と発表：取り上げたテーマについて、どのような観点、方法、スケジュールでアプローチするかをとりまとめた実施計画書を作成・発表し、討論する。
- (3) 調査・分析あるいは制作の実施：文献調査、現地調査、アンケート調査、ヒヤリング調査など適切な手法で調査し、結果の分析を行う。また、CAD・CG等による制作を通して、検討する。作業は、各人が自主的にを行い、その経過を随時報告し、全員で討議する。
- (4) 発表及び講評：各グループ毎に調査・分析・制作の結果についてプレゼンテーションを行い、討議・講評を受ける。講評会での討議をもとに、追加・修正作業を行い、最終報告書のとりまとめを行う。

### 【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

### 【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

## 都市環境デザイン演習 II a・b

太田 裕

### 【授業の概要】

都市環境演習 I a・b（3年）の自然の発展を根底におき、問題発見・解決力の涵養に主眼をおく。演習課題は「異常自然現象・特に地震・と人間社会（都市）との共生」の大枠の中で、受講者が具備する基礎知見・関心等を勘案の上で多様に選定される。

前期は選定した課題を核とする周辺知見の増強を目標に関連論文・報告の理解に努め、演習課題の自力推進に向けた、基礎をあらためて構築する。この流れの中で、課題解決へのフローをデザインし、併行して課題解決力向上の一環として計算・データ処理に関わるプログラム作成能力の習熟に留意する。後期は課題解決の継続的実践が主体となり、成果を報告書に帰結することを目標におく。当然ながら、受講者が課題解決への主体となり、自ら模索し、創意工夫に努めることが強く望まれる。

### 【授業計画】

前期

1. 課題の選定
2. 関連知見の習得と整理
3. 課題解決技法の習熟

後期

1. 実（資料）の収集とデータベース化
2. 課題解決・実行処理プログラムの作成
3. 成果報告の作成

### 【評価方法】

レポートにより評価する。

### 【テキスト】

随時、必要な文献・資料等を指示する。

### 【参考文献・資料】

同上

## 都市環境デザイン演習 II a・b

渥美正子

### 【授業の概要】

演習 I を基に、さらに、それらを発展させていくことにより、論文としてまとめていく。まず、それぞれのテーマに関連する文献、論文の収集を行い、オリジナルな視点を設定する。居住者調査、ヒヤリング調査等、自らの足で動き現状を客観的に把握し、得られたデータを分析していくことにより、提言（含 平面プランの提案）に結び付けていく。

### 【授業計画】

次のようなことをふまえ、進めていく。

- (1) テーマの設定  
研究テーマを設定した目的・意義を明確にする。
- (2) 研究論文の書き方
- (3) 関連文献・論文の収集
- (4) 居住者調査等の方法  
調査対象の設定、調査票の作成、集計結果の分析
- (5) 全員による討論  
各人、個別にテーマを設定するが、全員での議論をもとに進めることを原則としている。したがって、他のメンバーの研究に対しても、全員で積極的に意見を出し合う。

### 【評価方法】

授業への出席状況、テーマへの取り組み状況、討論への積極性、研究発表の内容を総合して行う。

## 都市環境デザイン演習 II a・b

河辺泰宏

### 【授業の概要】

デザインと建築の歴史、建築と都市の造形、現代のデザイン状況等に関連したテーマを扱った文献のサーヴェイリポートとフィールドワークを中心とした演習を行う。

本年度の主な課題としては、とくに西洋建築史や古建築の保存と再生に関わる文献講読等を考えている。

このほか、各個人の研究テーマを設定し、随時研究報告を行う。

### 【授業計画】

文献講読やフィールドワーク等にあたっては、持ち回りで担当を決めて準備・報告を行う。また、年度末の研究報告会は口頭試問として行うので、必ず参加しなければならない。

なお、3年生の演習 I で研修旅行やフィールドワークを行うが、4年生も希望があればその都度、自主的に参加することができる。

### 【評価方法】

授業・見学会・調査活動等への参加状況とレポート、論文発表の内容と口頭試問の結果によって決める。

### 【テキスト】

必要に応じて参考資料を配布。

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

齋藤基之

### 【授業の概要】

都市環境デザイン演習Ⅰで各自が設定したテーマに基づいて内容を発展・深化させるとともに、詳細な実施計画をたて、それを遂行し、卒業論文・卒業制作としてまとめる。

### 【授業計画】

授業の進め方は、都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

前期は主に、調査や実験の遂行に必要な基礎知識やノウハウ、得られたデータの解析方法等について指導する。

後期では、研究成果のプレゼンテーション（論文執筆や図面・模型の制作など）の充実に重点を置いた指導を行う。

### 【評価方法】

卒業論文・卒業制作に向けての取り組み状況、途中経過の発表、報告書等の提出物、討議への参加状況、出席状況により総合評価する。

### 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

清水裕二

### 【授業の概要】

都市環境デザイン演習Ⅰのテーマ（建築や都市を通じた現代社会の事象や問題についての考察）をふまえ、それらを発展、深化させるかたちで卒業制作や卒業論文へとつなげることを目指す。

授業の進め方としては、都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

### 【授業計画】

基本的には都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

### 【評価方法】

最終成果物（卒業制作・卒業論文）と、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

高橋敏郎

### 【授業の概要】

演習Ⅰで学んだ事項を基礎に、昨年度各自が設定したテーマについて作業をすすめ卒業設計、卒業論文に結びつけていく。具体的には資料収集、調査・観察、分析を行い研究レポートを提出、教員との議論、ゼミ全体での討議を経て計画書を作成する。これらの作業の中から設計・デザインの方法論、デザインの手がかりを解説することによって独自のデザインの切り口を見つけ卒業設計や卒業論文に結びつけてもらいたい。前期にはこれらの作業と平行して設計課題も行い設計に必要な知識、技術の習得をも目指す。

### 【授業計画】

前期

1. 各自のテーマの設定。資料収集、調査、観察を行いレポートを作成する。
2. 共通課題の設計（個人）、プレゼンテーションテクニックの習得。
3. 作品の発表と討論会。

後期

1. 作品の発表と討論会（第二回）。
2. 研究または設計計画書を作成する。
3. 補足の資料収集・調査を行い、収集した情報を分析する。
3. 分析結果を踏まえ、計画書を加筆、研究または設計へと展開する。
4. 論文または設計としてまとめる。
5. 研究または設計の発表と討論会。

### 【評価方法】

計画書、成果物、プレゼンテーションにより評価。

### 【テキスト】

特になし。必要に応じプリント教材を配布する。

### 【参考文献・資料】

同上

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

原則的には昨年度各自が設定したテーマに基づいて、卒業設計・論文としてまとめる為の修正、テーマの絞込み、内容の深化をめざす。既存の類似作品の分析を通して、独自性のある視点を開発すると同時に、コンセプトの明確さ、計画的確信や空間・造型の論理性等、卒業設計をまとめる上で必要な見識を修得する。

### 【授業計画】

- 1) 昨年度演習Ⅰで各自が発表してきたテーマに関連した既存の作品や文献を提示します。
- 2) それとの比較の上で各自自分のテーマの絞込みと、新しい視点の設定を行う。
- 3) 各自のテーマを進める上で、どのような調査や資料が必要かを整理する。
- 4) 卒業設計又は卒業論文骨格を整理した予備的なレポートを提出して発表し全員で議論する。
- 5) 卒業設計あるいは論文としてまとめるための個別指導を行う。
- 6) 建築作品の見学と分析のためのフィールドワークを行なう。

### 【評価方法】

途中の発表と積極性、最終的な作品又は論文の内容で評価します。

### 【テキスト】

テーマごとに必要な文献や論文を提示します。

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

日色真帆

### 【授業の概要】

建築や都市空間のデザインに関連して、教員と議論の上、学生がそれぞれに選択したテーマについて分析、調査、実験、考察を加え、研究レポートを作成する。デザイン的な提案をまとめる場合もある。この演習を通して各自テーマを絞り込み、卒業研究へと結びつけてもらいたい。

### 【授業計画】

受講者と議論の上具体的にテーマを決めるが、教員が掲げている最近のテーマは以下のようなものである。

- ・街区内のヴォイド空間の調査と提案
- ・都市空間のオープンスペースについての研究
- ・現代の囲われた庭について
- ・デパートなど商業空間における wayfinding の研究
- ・空間の表記方法「スペースブロック」の開発
- ・出来事の表記方法「イベントピクトグラム」の開発
- ・場面のデザインの視点から見た各種デザインの比較
- ・映画や演劇における場面デザインの分析
- ・回遊式庭園の wayfinding の分析
- ・ハイパーテキストの wayfinding の分析
- ・建築空間の転用に関する研究
- ・立体的に複雑な建築空間のデザインについて
- ・都市空間の緑化についての研究

### 【評価方法】

評価は、研究レポートとそのプレゼンテーションによって行う。

### 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

吉田邦彦

### 【授業の概要】

演習内容については、演習Ⅰを継続し、範囲を広げるか、あるいは深く調査・検討する。今後の情報化・長寿化及び環境型社会などの動向への対応と問題点の解決方法についても検討する。

### 【授業計画】

演習の進め方は、演習Ⅰの方法を引き継ぐ。特定テーマについて、グループでの研究あるいは個人単位での研究を行う。研究論文としての形式、内容を重視した視点からの討議、講評を行う。

### 【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

### 【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

## 教職入門

後口伊志樹

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

### 【授業計画】

- 1 教育現場はいま
- 2 教師像の変遷
- 3 現代の理想的教師像
  - (1) 教科指導者としての教師
  - (2) 特別活動の指導者としての教師
  - (3) 教師とカウンセリング
  - (4) 学級経営者としての教師
  - (5) 教師と校務
  - (6) 共生社会における教師の仕事
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

### 【評価方法】

レポート、期末考査及び出席率を総合する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教師論

佐藤実芳

### 【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

### 【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
  - (1) 教員養成の歴史と現在 (2) 教職課程の仕組み (3) 教員の採用
2. 教師について考える
  - (1) 教科指導 (2) 生徒指導 (3) 教員の研修
3. 様々な教師に学ぶ

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教職入門

小栗正彦

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業計画】

- 1 教育現場はいま
- 2 教師像の変遷
- 3 現代の理想的教師像
  - (1) 教科指導者としての教師
  - (2) 特別活動の指導者としての教師
  - (3) 教師とカウンセリング
  - (4) 学級経営者としての教師
  - (5) 教師と校務
  - (6) 共生社会における教師の仕事
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

### 【評価方法】

レポート、期末考査及び出席率を総合する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教育原理

佐藤実芳

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育  
動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質  
注入主義(ソフィスト～本質主義)/開発主義(ソクラテス～進歩主義)
4. 教育の目的  
教育目的とは/教育目的の歴史の変遷(古代ギリシャ～現代)
5. 現代の教育

### 【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育原理

羽場俊秀

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育原理の進め方
2. 教育学の成立
3. 教育の方法
4. 学校での教育
5. 学校以外での教育
6. 現代の教育問題

### 【評価方法】

筆記試験（論述）を行う。レポートを課す場合には、課題に対する意欲なども加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 欧米教育文化史

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

### 【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立
6. 欧米教育文化と今日の世界の教育

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編 名古屋大学出版会）

### 【参考文献・資料】

子供とカプルの美術史（森洋子 日本放送出版協会）  
歴史のなかの子どもたち（森良和 学文社）  
教養の復権（沼田裕之他 東信堂）

## 教育思想史

梅村敏郎

### 【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

### 【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ベスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

### 【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の筆答試験による。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

## 教育心理学 I

富安玲子

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とした。

### 【授業計画】

1. 教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 生涯発達の視点
3. 障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
4. 発達段階と発達課題
5. 認知の発達を通しての人間理解
6. 学習の成立過程
7. 学習における知識の役割
8. 学習意欲を育てる

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育心理学Ⅰ

小池理穂

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達  
の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可  
能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間  
関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの  
理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とする。

### 【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
  - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
  - ・生涯発達の視点
  - ・障害の意味と発達可能性
  - ・発達段階と発達課題
  - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
  - ・学習の成立過程
  - ・学習における知識の役割
  - ・学習意欲を育てる
    - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的的好奇心の  
喚起/報酬の意味/目標のありかた

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育心理学Ⅱ

富安玲子

### 【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人  
ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自  
己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考  
え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへ  
の関心も深め、自己理解を促進していくことも視野にいれて学んでいく。

### 【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 障害児の教育

加藤文子

### 【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割  
などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特別支援教育の  
現状と課題を認識する。

### 【授業計画】

- 1 心身障害児の理解
- 2 心身障害児の種類と程度
  - 心身障害児とは
  - 学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
  - 視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・病弱・虚弱児等の程度と発生原因
  - 言語障害・情緒障害・重複障害児の発生原因と教育
- 3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性
  - なぜ早期発見、早期教育が必要か
  - 社会自立に向けた後期中等教育の重要性
- 4 心身障害児の就学指導の仕組み
- 5 まとめ

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

### 【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

## 教育制度

佐藤実芳

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育  
が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及  
び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。  
さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在  
の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育の変遷
5. 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6. 外国の学校教育制度

### 【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育制度

羽場俊秀

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育制度を学ぶ意義
2. 学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 教育法規
5. 日本の学校教育制度
6. 現代の学校教育制度

### 【評価方法】

筆記試験（論述）を行う。レポートを課す場合には、課題に対する意欲なども加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 比較教育論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

### 【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

比較教育学の基礎（田中圭治郎編著 ナカニシヤ出版）

### 【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）  
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）  
多文化教育（中島智子編著 明石書店）  
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）  
被抑圧者の教育学（フレイル著 亜紀書房）  
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）  
世界の教育開発（米村明夫 明石書店）

## 学級経営

前田勝洋

### 【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めていきたい。

### 【授業計画】

小学校・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

### 【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 教育課程

後口伊志樹

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。



## 教育課程

小栗正彦

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。

## 社会科教育法Ⅱ

小栗正彦

### 【授業の概要】

社会科教育法Ⅰに同じ。

### 【授業計画】

1. 新教育課程の中の「中学校社会科」
2. 地図の「読み方」(模擬授業)
3. 歴史の流れをわかりやすく生徒に教えるための教案づくり
4. 紀元前後、4世紀、8世紀、10世紀、13世紀の世界と日本(模擬授業)
5. 戦国時代がはぐくんだ文化(模擬授業)
6. 「15年戦争」の意味
7. 日本国憲法の成り立ち(模擬授業)
8. 高度経済成長のもたらしたもの(教案づくり)
9. 少子化時代の日本、情報化社会の下での日本(教案づくり)

### 【評価方法】

社会科教育法Ⅰに同じ。

### 【テキスト】

教員作成のプリント等を用いる。

## 社会科教育法Ⅰ

小栗正彦

### 【授業の概要】

小学校社会科の教育課程の概要を解説し、中学校社会科の教育課程の構造について理解を深める。日本と関係の深い国々について学習することによって日本の国土について理解を深める。新鮮なテーマを教材とする。

### 【授業計画】

1. 「社会科」の成り立ち(「地歴科」「公民科」とのかかわりの中で)
2. 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の目標
3. 世界と日本の地域構成
4. 世界史の中の日本(その歴史的特色について)
5. 情報化社会の中の暮らし
6. 世界の平和と、わが国のはたす役割

### 【評価方法】

授業時間内に3回～4回の小テストを実施し、授業参加の積極性により評価を決める。

### 【テキスト】

教員作成のプリント等を用いる。

## 公民・社会科教育法Ⅰ

担当者未定

### 【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領(公民科)の構成とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。「現代社会」の授業においては、中学校社会科の公民的分野を発展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書(現代社会)を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 公民科設定の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民として資質」を育む公民教育について、中学校社会科の公民分野との関連にも留意し学習する。
2. 「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3. 「現代社会(公民科)」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編(文部省 実教出版予価230円)  
現代社会(高等学校教科書 一橋出版 予価580円)

## 公民・社会科教育法Ⅱ

担当者未定

### 【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通して、深い洞察力をそなえた民主的な行動と実践ができる人間の育成をめざす。「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2. 生涯学習にも深いかかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3. 「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実施し、創造的な授業の在り方についても考察する。

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書 教育出版 予価435円）  
倫理（高等学校教科書 教育出版 予価435円）

## 地歴・社会科教育法Ⅰ

小栗正彦

### 【授業の概要】

「地歴・社会科教育法Ⅰ」では、中学校社会科地理的分野・歴史的分野、及び高校の世界史B、日本史B、地理Bを中心に、もっとも授業でポイントになる（重要かつ生徒たちが理解し難い）部分を解説する。

まず、従来「社会科」として成立していた教科が、なぜ「地歴科」と「公民科」に分かれたのか。分けられた意味はどこにあるのか、そして分けられたことに関する問題点などについて考える。

ついで、日頃から中学、高校での授業中に、生徒たちが最も「難しい」と感じる部分をいくつか取り上げて、解説する。

### 【授業計画】

1. 「地歴科」はどのような論議を経て登場したか
2. 世界史の中の日本史（歴史的事項の同時代性について）  
「紀元前後、4世紀、8世紀、13世紀」の世界史
3. イスラム世界がもたらしたもの（ユーラシアはどのように一体化されたか）
4. 「ヨーロッパ」とはどのような世界か（ヨーロッパを生み出した力）
5. 市民革命や産業革命とは何か（この革命の前と後で社会はどう変わったか）
6. 「考古学」の面白さ（日本における旧石器時代の研究、弥生時代を学ぶ意味、卑弥呼の墓は）
7. 7世紀史の学び方
8. 平安時代を理解するために（10世紀史の学び方、荘園制）
9. 幕末の世界史（ペリーの航跡・・・カリフォルニア金鉱の発見と日本の開国）
10. 明治時代の学び方
11. 昭和史の学び方
12. 世界の気候・植生・土壌
13. 人口と人口問題

### 【評価方法】

レポート、期末考査、出席率などを総合して評価する。

## 地歴・社会科教育法Ⅱ

小栗正彦

### 【授業の概要】

「地歴・社会科教育法Ⅰ」で行った、中学校社会科地理的分野・歴史的分野、及び高校の世界史B、日本史B、地理Bを足場にして、学生が自ら授業案を作成し、模擬授業を行う。

何回か模擬授業を行った後に、その「授業案」の内容と、模擬授業について、皆で検討会をする。

なお、「地歴・社会科教育法Ⅰ」の時間に出来なかった「文化」については、ここで行う。

### 【授業計画】

1. 「歴史の学び方」について（講義）
2. 「紀元前後、4世紀」の世界史に関するわかりやすい授業案の作成と模擬授業
3. 「8世紀、13世紀」の世界史に関するわかりやすい授業案の作成と模擬授業
4. 市民革命や産業革命とは何か（この革命の前と後で社会はどう変わったか）に関する授業案の作成と模擬授業
5. 〃
6. 奈良時代のわかりやすい授業案と模擬授業
7. 「10世紀史」のわかりやすい授業案と模擬授業
8. 戦国時代が育んだ文化（お伽草子のナゾ）
9. 織豊政権時代のわかりやすい授業案と模擬授業
10. 江戸時代の産業について、どのような授業案を作成するか
11. 「戦争への道（十五年戦争）」をいかに授業するか
12. 文化について（絵画の「読み方」講義）
13. 国家の成り立ち、領土、国境について（講義）

### 【評価方法】

模擬授業、教案（レポート）及び出席率などを総合して評価する。

## 情報科教育法Ⅰ

松園重弘

### 【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を繰り返しながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。教育実習に参加する学生がある場合には、授業計画を変更することができる。

### 【授業計画】

1. 情報科教育の史的展開と意義の概観
2. 情報倫理、セキュリティの指導法  
(1) 情報科社会に正しく、主体的に参画する態度  
(2) 情報の受信と発信における個人の責任
3. 高度情報化社会における職業倫理、職業観の指導法  
(1) 高度情報化の進展と職業及び職業人としてのあり方  
(2) 情報に関するスペシャリストに求められる諸資格
4. コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能の指導法
5. 情報システムの設計、管理、運用に関する知識・技能の指導法
6. 情報通信ネットワークの構築、運用管理、活用に関する知識・技能の指導法
7. マルチメディアを活用した表現・処理に関する知識・技能の指導法

### 【評価方法】

提出された報告書により評価する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 海隆堂出版 2000）  
全員必須とする。

### 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 情報科教育法Ⅱ

松園重弘

### 【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法Ⅰにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するために必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。  
授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

### 【授業計画】

1. 情報Aの指導法  
(1) 教育目標と教育計画  
(2) 教材・教具の活用と開発  
(3) 学習指導案の作成と模擬授業の実践
2. 情報Bの指導法  
(1) 教育目標と教育計画  
(2) 教材・教具の活用と開発  
(3) 学習指導案の作成と模擬授業の実践
3. 情報Cの指導法  
(1) 教育目標と教育計画  
(2) 教材・教具の活用と開発  
(3) 学習指導案の作成と模擬授業の実践
4. 専門教科「情報」の指導法  
(1) 教育目標と教育計画  
(2) 教材・教具の活用と開発  
(3) 学習指導案の作成と模擬授業の実践
5. 総合的な学習の時間と情報化教育について、情報機器を活用した効果的な授業の具体的な展開
6. 情報化技術の発展と学校における情報教育のあり方

### 【評価方法】

提出された学習指導案、レポート等により評価する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 海隆堂出版 2000）  
全員必須とする。（前期と同じテキストです。）

### 【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 特別活動指導法

不破民由

### 【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。  
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

### 【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
2. 特別活動の歴史の変遷
3. 学級活動
4. 生徒会活動
5. 学校行事  
(1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事  
(4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等  
以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

### 【評価方法】

数回のレポート

### 【テキスト】

どくどくマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

### 【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房）  
教科外活動を創る（折出健二他編 労働旬報社）  
<教育>の誕生（フィリップ・アリエス 中内敏夫・森田伸子訳 新評社、藤原書店）  
<子供>の誕生（フィリップ・アリエス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房）  
教養主義の没落（竹内洋 中公新書）  
立身出世主義（竹内洋 NHKライブラリー）  
立志・苦学・出世（竹内洋 講談社現代新書）  
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋 中央公論新書）  
近現代日本の教養論（渡辺かよ子 行路社）  
学級経営の歴史（志村廣明 三省堂）  
「勉強」時代の幕開け（江森一郎 平凡社）  
運動会と日本近代（吉見俊哉他編 青弓社）  
教育には何ができないか（広田照幸 春秋社）  
近代日本の公民教育（松野修 名古屋大学出版会）  
教育に関する私の方法叙説（不和de民由 新風舎）

他

## 道徳指導法

加藤文子

### 【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実践についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史  
・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程  
・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際  
・道徳教育の目標  
・道徳教育の内容  
・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成  
・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴  
・まとめ

### 【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

講義資料を配布

## 教育方法

霜田一敏

### 【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

### 【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方  
(1) 中学・高校における学力論と教師論の検討  
(2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法  
(3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法  
(4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用の方法  
(1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法  
(2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法  
(3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは  
(1) 多様化した生徒への対応の仕方  
(2) 中学校における個を生かす学習集団  
(3) 高等学校における個を生かす学習集団

### 【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

### 【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著 明治図書 2,370円）

## 生徒指導（進路指導を含む）

後口伊志樹

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点ではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指すという積極的な視点で考察する。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をととして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に追究する。

### 【授業計画】

#### 1. 生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

- (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
- (2) 青少年非行と矯正教育
- (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点

#### 2. 進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

- (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
- (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
- (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

### 【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

## 生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をととして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業計画】

#### 1. 生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

- (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
- (2) 青少年非行と矯正教育
- (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点

#### 2. 進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

- (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
- (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
- (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

### 【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

### 【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師・生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## カウンセリング

富安玲子

### 【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解し、傾聴について学んでいく。ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が置かれてきたように思われるので、自己一致の重要性についても考えていきたい。

### 【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

### 【評価方法】

期末試験とロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 総合演習

小栗正彦 後口伊志樹 加藤文子 佐藤実芳  
霜田一敏 富安玲子 渡辺かよ子 羽場俊秀

### 【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) 学校におけるクライシス・マネージメントの問題 (後口伊志樹)
- (2) みんなの学校問題 (小栗正彦)
- (3) 福祉一障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて (加藤文子)
- (4) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (5) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (6) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (7) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)
- (8) 国際化を考える

### 【授業計画】

※印は後期日程 (於 星ヶ丘)

1. 全体、各テーマ別 8月5日 ※1月10日  
(1) 総合演習とは、これからのすすめ方  
(2) 各テーマの概要説明 (各担当者)  
(3) 希望テーマ提出、テーマ別編成  
(4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月26日 ※2月10日  
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月2日 ※2月17日  
(1) 課題レポートについて報告 (1人10~15分)  
(2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月9日 ※2月24日  
(1) 問題点について分析検討  
(2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月16日 ※3月3日  
(1) グループ代表者の発表 (1名15~20分)  
(2) 担当教員の指導  
(3) 感想文の作成と提出

### 【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

## 教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

加藤文子

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的  
・前年度実習者からのアンケート結果  
・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法  
・教育実習の領域  
・教育実習の方法
3. 教育実習記録  
・実習記録の意義  
・実習記録の方法
4. 授業研究  
・教材研究、教具の意義  
・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導  
・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念  
・特別支援教育諸学校教育の理解  
・障害児(者)介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

### 【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果(実習・体験評価を参考)により総合的に評価する。

### 【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。

介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」(全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社)使用。

## 教育実習 I

加藤文子

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として  
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、掃りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。  
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として  
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。  
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として  
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価(生徒指導、学習指導、実習態度)に基づいて評価する。

### 【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

## 教育実習 II

小栗正彦

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展  
生涯学習実践の課題  
生涯学習と社会  
生涯学習と人間  
社会教育の意義  
社会教育施設の概要  
社会教育の内容・方法・形態  
社会教育指導者  
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

### 【参考文献・資料】

なし

## 生涯学習概論

古野有隣

### 【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明ならびに学校教育との連関をまじえて、理解を深めることをねらいとする。また、先の長い人生を持っている自分にとって学校教育を基礎とする、それを含めた生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～  
ユネスコ以降わが国における推移  
生涯教育のめざすもの  
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係  
生涯教育と社会教育  
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態：学校教育との違いと連関  
行政社会教育の主要領域  
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望：学校教育との相補性  
生涯学習関連施設の範囲  
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者：学校教師を越えて  
生涯学習指導者の範囲  
生涯学習指導者の役割

### 【授業計画】

講義。

### 【評価方法】

テスト。

### 【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

## 国際理解教育論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
  - (1) 近代化への萌芽
  - (2) 海外視察と帰国後の動向
  - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
  - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
  - (1) 学校教育における国際理解教育
  - (2) 海外留学生等の派遣と受け入れ

### 【評価方法】

レポートにより評価を行う。

### 【テキスト】

授業中に紹介する。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 学校経営と学校図書館

小栗正彦

### 【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

### 【授業計画】

1. 学校図書館の理念と教育的意義
  - (1) 学校教育における学校図書館の役割
  - (2) 館種別にみた図書館の世界
2. 学校図書館の発展と課題
  - (1) 学校図書館法の成立と展開
  - (2) 国内外の先進事例
  - (3) レファレンスサービスの実践
3. 教育行政と学校図書館
4. 学校図書館の経営
  - (1) 学校図書館の経営組織のあり方
5. 司書教諭の役割とその問題点
6. 学校図書館メディアの内容と構成
7. 学校図書館活動と社会のつながり

### 【評価方法】

出席状況及び課題による。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 学習指導と学校図書館

加納篤憲

### 【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、  
(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1)の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

### 【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と問題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

### 【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

### 【参考文献・資料】

特になし

## 学校図書館メディアの構成

中村和夫

### 【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
  - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
  - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
  - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
  - (1) 教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
  - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
  - (3) 「情報」「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
  - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
  - (2) FD、CD-ROM等の活字メディアに代わるもの
  - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4. 学校図書館メディアの組織化
  - (1) 分類の意義と分類作業の基本
  - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

### 【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）  
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

## 読書と豊かな人間性

梅田卓夫

### 【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実践例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

### 【授業計画】

1. 読書のよこび
  - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
  - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
  - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
  - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
  - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
  - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
  - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
  - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
  - (1) 家庭での読書についての親子の対話
  - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
  - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
  - (1) 情報化時代の読書のあり方
  - (2) 愛読書、好きな作家

### 【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

### 【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
  - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
  - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
  - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
  - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
  - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
  - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
  - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

### 【評価方法】

出席状況及び試験による。

### 【テキスト】

使用しない。



## 生涯学習概論

古野有隣

### 【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明ならびに学校教育との連関をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって学校教育を基礎とする、それを含めた生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～  
ユネスコ以降わが国における推移  
生涯教育のめざすもの  
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係  
生涯教育と社会教育  
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態：学校教育との違いと連関  
行政社会教育の主要領域  
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望：学校教育との相補性  
生涯学習関連施設の範囲  
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者：学校教師を越えて  
生涯学習指導者の範囲  
生涯学習指導者の役割

### 【授業計画】

講義。

### 【評価方法】

テスト。

### 【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展  
生涯学習実践の課題  
生涯学習と社会  
生涯学習と人間  
社会教育の意義  
社会教育施設の概要  
社会教育の内容・方法・形態  
社会教育指導者  
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

### 【参考文献・資料】

なし

## 図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

### 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
概念・考え方・観点・立場  
定義の多様性と現象の多面性  
情報概念の歴史/情報・知識・データ  
定義の整理のための枠組み/構造的な理解  
認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注：「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

## 図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業計画】

1. 情報の流過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流過程
2. 図書館・情報サービスの世界  
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合  
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

## 図書館経営論

松下 鈞

### 【授業の概要】

図書館の技術的な面―分類・目録等―資料組織とは別に図書館運営上の諸問題―司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業計画】

0. オリエンテーション・図書館の経営論の意義 1回
  1. 図書館種別の経営上の問題点と管理原則 1回
  2. 行政と図書館経営 1回
  3. 図書館学の五法則と図書館員の関わり 1回
  4. 図書館の自由に関する宣言 1回
  5. 図書館員の倫理綱領 1回
  6. 図書館員と労働基準法解説 1回
  7. 図書館関係法規と図書館のサービス基準解説 1回
  8. 図書館サービスの測定と評価（実例課題によるレポート提出） 1回
  9. 図書館計画の立案と実例解説 2回
  10. ネットワーク、コンソーシアム 1回
  11. 図書館建築・施設及び設備 1回
  12. 生涯学習と図書館及び利用者教育 2回
  13. 情報専門職の養成、アウトソーシング 1回
- ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出 2回

### 【評価方法】

期末テスト実施―記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点を併せて評価する。

### 【テキスト】

講義シラバスを配付する。

## 情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

### 【授業の概要】

「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。  
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

1. イントロダクション「図書館のフロアデザイン」
2. 自分の好きな図書館のコーナー
3. 図書館を設置する環境
4. 情報を求める人たち
5. こどもと情報
6. 高齢者と情報
7. ビジネスマンと情報
8. 大学生と情報
9. 研究者と情報
10. 機能と機器（什器）
11. 情報、資料
12. スタッフ

情報サービスを、環境、施設・設備、機能などの観点から検討してみたいと思います。皆さんがこれまで使ってきた図書館の目的、対象、機能などについて、建築プラン、フロアデザイン、家具、機器などハードウェアの面と、蔵書構築や目録作成、もろもろのサービスなどソフトウェアの面から見直し、理想とする図書館建築プランを構想してみましょう。

授業は、講義とグループ研究によって行ないます。  
受講に先立って、さまざまなタイプの図書館を見学しておくことを望みます。

### 【評価方法】

小レポート、グループ研究、最終レポートによるほか、授業への積極的な参加態度を加味して評価します。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

## 情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

### 【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と膨大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

### 【授業計画】

1. イントロダクション「自分史のなかの図書館」
2. さまざまな情報サービス
3. 情報環境の変化
4. こどもと図書館、老人と図書館
5. 情報環境のデザイン
6. 情報の連鎖
7. 情報源
8. 情報評価法
9. コミュニケーション・スキル
10. ネットワーク、コンソーシアム
11. 指定管理者制度、アウトソーシング
12. 求められる情報専門家

皆さんの生まれた1985年前後から2005年までの、およそ20年の間に急速に発達した電子情報技術は、私たちの日常生活や大学生活に大きな変化をもたらしています。この授業では、人々と情報との関わり大きな節目に置かれている図書館の諸問題を、グローバル化、多様化する情報社会という視点と、私たちの日々の暮らしにおける図書館との関わり、という二つの視点から概観してみたいと思います。

授業は講義を中心としますが、グループ研究、研究発表を課します。受講に先立って以下のことをしておくこと。

- a) 「インターネット講習会」を受講しておくこと。
- b) インターネット検索エンジンを使いこなせるようにしておくこと。
- c) 近隣の複数の公共図書館を訪問し、その施設・設備、資料、サービスの概要を把握しておくこと。
- d) 愛知淑徳大学図書館のレファレンス・カウンターに相談のうえ、近隣の大学図書館を訪問し、その施設・設備、資料、サービスの概要を把握しておくこと。
- e) 自分史における本やAV資料との出会い、図書館の利用などについて思い出しておくこと。

### 【評価方法】

小レポート、グループ研究、期末レポートに授業への積極的な参加態度を加味して評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

## レファレンスサービス論

櫻木 貴子

### 【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

### 【授業計画】

1. レファレンスサービスの特徴・機能・組織
2. レファレンスプロセス
  - ・質問の受付から内容の確認へ
  - ・質問内容の分析から探索の実行へ
  - ・質問回答とレファレンスプロセスの終結
3. レファレンスサービスのための情報源

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

### 【参考文献・資料】

講義において指示する。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索  
学術論文  
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス、統制語彙
5. オンライン情報検索システム
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、情報検索での用語の理解とともに、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索  
学術論文  
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス、統制語彙
5. オンライン情報検索システム
6. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

中島玲子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、ISA (DIALOG)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引 CD-ROM版
2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
2. 3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA-IDS)
2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、ISA (DIALOG)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引 CD-ROM版
2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
2. 3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA-IDS)
2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報検索演習Ⅲ (情報と文献の探索)

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ(1年次必修)および情報検索演習Ⅱ(2年次)を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技術を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル(データベースサービス)]

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
  - 2.1 雑誌記事(書誌情報)検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、ISA (DIALOG)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引 CD-ROM版
  - 2.2 雑誌記事横断検索: DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
  - 2.3 シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
  - 2.4 引用関係を利用した検索: Social SciSearch (DIALOG)
  - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
  - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス: LISA (CSA-IDS)
  - 2.7 図書(所蔵/目次情報)検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
  - 2.8 新聞記事(全文記事)検索: 各種新聞ファイル(日経テレコン21)
  - 2.9 人物情報検索: 人物情報横断検索 (G-Search)
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

## 情報メディア基礎論Ⅰ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず(配付資料)。

## 情報メディア基礎論Ⅱ

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

### 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

### 【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず(配付資料)。

## 情報メディア論Ⅳ (人文社会情報メディア)

櫻木貴子

### 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

### 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - 3.1 美術分野
  - 3.2 音楽分野
  - 3.3 文学
  - 3.4 ビジネス分野
  - 3.5 法律分野
  - 3.6 心理学
  - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

### 【評価方法】

平常点およびレポートによって評価する。

### 【テキスト】

使用せず(配付資料)。

## 資料組織論

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

### 【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録(1) AACR 2r, NCR
- 第7回 記述目録(2) アクセス・ポイントの選定; 標目形; 典拠コントロール
- 第8回 記述目録(3) 各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録(1) 概要
- 第11回 主題目録(2) 分類法
- 第12回 主題目録(3) 主要分類法
- 第13回 主題目録(4) 主要件名標目表
- 第14回 期末テスト

### 【評価方法】

平常点、レポート、試験

### 【テキスト】

初回時にテキスト配布。

### 【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題(国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)  
文献世界の構造: 書誌コントロール論序説(根本彰著 勁草書房、1998)  
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界-(宮澤彰 丸善、2002)

## 資料組織演習

松井美紀

### 【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の基本を復習し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法  
分類: NDC, UDC  
主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法  
ISBD  
書誌ユーティリティ(NACIS/MARC)を利用したMARCレコード作成  
アクセス・ポイント  
典拠コントロール

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

### 【テキスト】

資料組織演習 改訂新版(北克一著 M.B.A, 2003年)

### 【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

## 資料組織演習

櫻木貴子

### 【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部で構成される。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の基本を復習し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法  
分類: NDC, UDC  
主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法  
ISBD  
書誌ユーティリティ(NACIS/MARC)を利用したMARCレコード作成  
アクセス・ポイント  
典拠コントロール

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

### 【テキスト】

資料組織演習 改訂新版(北克一著 M.B.A, 2003年)

### 【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

## 図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

近藤洋子

### 【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

### 【授業計画】

- 1 公立図書館の児童サービス
  - (1) 子どもの読書と児童図書館
  - (2) 児童図書館の意義と歴史
  - (3) 児童用資料の種類と特性(1) 絵本・文学
  - (4) 児童用資料の種類と特性(2) ノンフィクション・その他
- 2 児童サービスの実際
  - (5) 児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
  - (6) 資料収集・蔵書構成、選書、貸出
  - (7) 予約・レファレンス、ブックトーク
  - (8) よみきかせ、ストーリーテリング、集会活動
- 3 児童サービスの対象
  - (9) 乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
- 4 類縁機関との連携
  - (10) 学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
- 5 児童図書館員の専門性
  - (11) 養成と採用 ボランティア
- 6 (12) 児童サービスの現在と今後 見学レポートによる
- 7 (13) 実習・ストーリーテリング

### 【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

### 【テキスト】

児童サービス論(中多泰子編著 樹村房)

### 【参考文献・資料】

児童サービス論(佐藤涼子編 教育史料出版会)  
クシュラの奇跡(ドロシー・バトラ著 のら社)  
児童図書館のあゆみ(児童図書館研究会編 教育史料出版会)

## 情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

### 【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房 税別定価3,800円）  
図書館情報学用語辞典（丸善 税別定価3,800円）

## 情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

松井美紀

### 【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

情報技術活用のための基礎を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

### 【評価方法】

(1) 出席状況 (2) 定期試験（またはレポート）  
以上の結果により評価を行う。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

## 情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

### 【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代  
学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2. 図書館の世紀
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. 図書館学と情報学
7. 未来を求めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房 税別定価3,800円）  
図書館情報学用語辞典（丸善 税別定価3,800円）

## 博物館概論

長谷川 綉治

### 【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

### 【授業計画】

- ア はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発見Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- カ 近代博物館の発見Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世からの主要な博物館を例にとり、特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
  - ・幕末から明治期にかけての博物館の発見
  - ・国威の宣揚と博物館
  - ・通俗教育による教化と博物館
  - ・十五年戦争と博物館

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綉治 戸谷印刷）

## 博物館概論

早川 正一

### 【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

### 【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性  
専門職員としての「学芸員」とは何か  
博物館と美術館の発達とその時代背景  
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性  
博物館の分類と現代性  
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮  
博物館の相互協力と情報の活用  
毎時間、入念にノートを書きこむ。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながる。注意されたい。  
長谷川 綉治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綉治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅰ

長谷川 綉治

### 【授業の概要】

博物館について、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

### 【授業計画】

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義されていることを念頭におき考える。
- イ 博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- キ 博物館の施設・設備…設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
- コ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。あわせて世界遺産についても考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綉治 戸谷印刷）

## 博物館学各論Ⅰ

早川 正一

### 【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

### 【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。  
博物館や美術館の展示と陳列構造  
博物館がとり扱う資料の収集と保存  
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究  
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育  
文化財の種類と保護にかかわる諸問題  
生涯学習の必要性と博物館の関連事業  
毎時間、入念にノートを書きこむ。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながる。注意してほしい。  
博物館学論考（長谷川 綉治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綉治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅱ

長谷川 銑治

### 【授業の概要】

博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

### 【授業計画】

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考える。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
  - 1 資料の収集
  - 2 資料の取扱い
    - ・掛軸
    - ・古文書 ・和装本
    - ・やきもの ・茶碗
    - ・瓦など
  - 3 資料の整理・保存
  - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

## 博物館学各論Ⅱ

松村冬樹

### 【授業の概要】

「資料」をもたない博物館はあり得ない。では、「モノ」をもっていれば博物館といえるだろうか？「モノ」と「資料」はどう違うのだろうか？

この講座では、「博物館資料」の考え方にはじまり、資料取扱の基本までを、実習を中心に学習する。

### 【授業計画】

かび臭い貴重品という「博物館資料」のイメージをくつがえし、博物館や美術館見学时に役立つ基本知識や心構えを修得する。

- ア 「資料」とはなにか
- イ 博物館と資料
- ウ 収集の方法
- エ 資料の取扱（理論と実際）
- オ 整理と分類（観察とドキュメンテーション）
- カ 調査と研究
- キ 保管と保全
- ク 管理と活用
- ケ 資料情報の公開
- コ 資料と学芸員

### 【評価方法】

- ・実習中心のため、適切な受講定員を設定する。
- ・実際的美術品を用いた実習が主体となるので、出席と実習態度を重視する。
- ・基礎的知識の修得度と、文化財取扱に対する心構え（適性）を評価する。

### 【テキスト】

『博物館学概説』（長谷川 銑治 戸谷印刷 青本）  
随時プリントを配布する。

## 博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

### 【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめ博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

### 【授業計画】

- 1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
- 2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
- 3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。  
やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
- 4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
- 5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
- 6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
- 7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。  
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

### 【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）  
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 博物館実習

長谷川 銑治

### 【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、講義、展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

### 【授業計画】

- ア 展示論……展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。
  - 1 展示とは
  - 2 展示のポイント
    - ・動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
  - 3 展示の施設
  - 4 展示のプロセス
  - 5 展示と保全
- イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあって、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。
- ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
- エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
- オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
- カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川 銑治 戸谷印刷）



## 博物館実習

秋元悦子

### 【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

### 【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の企画および実習……各自で企画した展覧会の計画書を作成し、また展示方法やその活用を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をなす役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

### 【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川銆治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展  
生涯学習実践の課題  
生涯学習と社会  
生涯学習と人間  
社会教育の意義  
社会教育施設の概要  
社会教育の内容・方法・形態  
社会教育指導者  
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

### 【参考文献・資料】

なし

## 博物館実習

川合剛

### 【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とは結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

### 【授業計画】

「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多とる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。

- (a) 展示とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の構成要素
- (d) 展示と資料保全
- (e) 着想から実施まで
- (f) 解説の方法と印刷物
- (g) まとめ

\*1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。

\*2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。

\*3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。

\*2、\*3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

### 【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、(時間内)小テストの結果などにより評価する。

### 【テキスト】

『博物館学概論』(長谷川銆治 戸谷印刷)。

### 【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

## 視聴覚教育メディア論

東浦信博

### 【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

### 【授業計画】

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3. 視聴覚教育メディア各論  
領域と種類  
録音メディア（レコード・テープ・CD等）  
映像メディア1（スライド・OHP等）  
映像メディア2（映画・ビデオ等）  
マルチメディアと情報ネットワーク  
講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

### 【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

### 【テキスト】

視聴覚メディアと教育（樹村房 ¥1,800+税）

## 教育学概論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

現代世界は多くの社会問題を抱えている。教育問題はこれらの社会問題の一つであると同時に、これらの有効な解決方法の一つでもある。あるべき教育とは何か。これほどあるべき教育が語られるのになぜ教育問題は解決しないのか。本講義はこれらの問いへの答えを教育と社会の連関から考察していく。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：教育と教育学
2. 教育の思想と歴史：近代以前と近代以後
3. 教育制度：各国の教育行政と学校制度
4. 教育内容と教育課程
5. 教育方法
6. 家庭教育としつけ：教育の比較文化
7. 社会教育と生涯学習
8. 総括：人権としての教育

### 【評価方法】

レポート

### 【テキスト】

教育の比較社会学（原清治他編 学文社）

### 【参考文献・資料】

生涯発達と自己実現（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

## 美術史

角田美奈子

### 【授業の概要】

日本の美術の歴史にはたくさんの不思議があります。例えば、今、私たちが美術館で目にする「絵画」が、「日本画」と「洋画」に区別して紹介されていたりするのでしょうか。また、それはいつからのことでしょうか。

このような不思議を手がかりに日本の美術の歴史をたどり、理解を深めるとともに、作品鑑賞を豊かにする視点や問題意識を育みます。

必要にあわせて東洋や西洋の美術の歴史も参照します。

### 【授業計画】

ワーク・シートを配布し、設問に答えるところから全体の授業をはじめます。

不思議を授業を通して発見する。

講義は、不思議の背景などを説明し、また新たな不思議を見出すはたらきかけとします。

解説プリント、ワーク・シート、感想・質問・要望などを記すフィードバック・シートを適宜配布する。

### 【評価方法】

ワーク・シートやフィードバック・シートを回収し、出欠の確認に代えるとともに、内容を評価する。

これらを使用しないときは、出欠を確認し、評価に反映させる。

授業で自分の考えや答えを発表してもらう。授業に参加する姿勢もあわせて評価する。

内容の評価には、回答の正しさを必ずしも求めない。取り組みの姿勢や理解の深まりなども評価の対象とする。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

必要により、授業で紹介する。

## 民俗学

谷沢 明

### 【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折りにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～  
学外教育としてフィールドワークを行う。

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

## 文化史

秋元悦子

### 【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用して文化的特質を考察してゆく。

また、学芸員課程の一環として各資料の所在調査の方法や活用方法も紹介していく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（ビデオ・OHCなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

### 【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 歴史地理学概説
3. 中国と日本の自然地理を知る
4. 自然地理と歴史の関係概説 史前期から近代まで  
ユーラシア大陸の歴史と中国の王朝交代  
中国歴代王朝と都の位置
5. 中国人の地域概念  
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6. 古代中国の地域と現状  
夏殷周三代の歴史とその遺跡
7. 中国の気候変遷と歴史の関係
8. 地形図にみる地域と歴史  
中国地形図の種類と現状

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

### 【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社）  
また、授業中に各種文献を紹介する。

## 【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを確認・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、即ち「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、即ち「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。このために、近年は自然科学的分野との共同研究が活発化している。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、民俗学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、学際的な道を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからである。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物を活用する際に必要不可欠な視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

## 【授業計画】

- 1 考古学の理念と方法論
  - 2 日本考古学の発展 ア 原始
  - 3     "                  イ 古代・中世
  - 4     "                  ウ 近世以降
  - 5 文化財としての遺跡・遺物
- 随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

## 【評価方法】

出席状況、レポートにより判定する。

## 【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

## 【参考文献・資料】

特になし。

## 英語海外セミナー I (米国)

担当者未定

### 【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は2月中旬から3月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2004年度実施研修プログラムにおける1日(9:00~15:20)の学習内容は、以下の通り:

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト(音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。)

### 【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。(全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞らない。)

### 【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

### 【テキスト】

現地にて用意される。

### 【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

## 米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

### 【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

### 【授業計画】

(事前研修) インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム) オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修) フォローアップ研修、報告書作成

### 【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

### 【テキスト】

米国側提出の英文資料

### 【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

## 英語海外セミナー II (オーストラリア)

NORRIS, Harry T.

### 【Course Content】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

### 【Schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon.

The course will conclude with a 2 day excursion to Sydney, including sight seeing and a theatre show.

### 【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

### 【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

## 中国語海外セミナー I (中国)

馮富榮

### 【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間の中国語研修を行う。
  - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
  - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
  - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
  - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
  - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論 I の講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

### 【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

### 【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

### 【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

## 韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

チョ スルソップ

### 【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏(の)生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

1. 韓国語研修
  - a. 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
  - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
  - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
  - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
  - a. 芝居鑑賞
  - b. 板門店の訪問
  - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
  - a. 毎週1回程度の頻度
  - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
  - c. テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪(文化財踏査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

### 【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月：数回の事前研修
- 8月：現地研修
- 9～11月：事後研修および報告書のまとめ

### 【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

### 【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部)中  
その他は特になし

## スポーツ特殊講座 (ボウリング)

松田秀子

### 【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業計画】

[ボウリング]

1. 期日  
実習 平成17年9月7日(水)・8日(木)・9日(金)  
12日(月)・13日(火)・14日(水)  
計6日間 午前中のみ
2. 説明会 平成17年7月6日(水) 12:30～13:15  
実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3. 場所 星ヶ丘ボウル
4. 実習費 6,000円(平成16年度のものでありますので変更する場合があります。)
5. 定員 60名
6. 内容
  - 1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
  - 2日目 ボウリングの歴史、基本動作
  - 3日目 ボールのコントロール、軌道調整
  - 4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
  - 5日目 レーンコンディションとボールの曲がり  
ストライクアングルの実践練習
  - 6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## Japan's Global Interface

藤井正志 太田浩司 宮田 Susanne プイチトルン  
國信潤子 梅田敏文 JOLLY, James A. 石橋善弘

### 【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan's global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: Special Credit-Auditors (exchange students only)-Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

### 【授業計画】

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 1 FUJII, Masashi        | Introduction   |
| 2 OTA, Hiroshi          | Language Use in Japan  |
| 3 OTA, Hiroshi          | Language Use in Japan  |
| 4 MIYATA, Susanne       | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 5 MIYATA, Susanne       | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 6 BUI, Chi Trung        | Intercultural Communication Through NPO Activities             |
| 7 KUNINOBU, Junko       | Gender Relations in Japanese Society                           |
| 8 UMEMA, Toshifumi      | Information Technology and Information Ethics                  |
| 9 UMEMA, Toshifumi      | Information Technology and Information Ethics                  |
| 10 JOLLY, James         | Developing International Business Practices                    |
| 11 JOLLY, James         | Developing International Business Practices                    |
| 12 ISHIBASHI, Yoshihiro | Statistics in Social Sciences                                  |
| 13 ISHIBASHI, Yoshihiro | Statistics in Social Sciences                                  |

### 【評価方法】

Assessment will be based on attendance and/or a paper.  
出席点及び教員ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

### 【テキスト】

To be announced

### 【参考文献・資料】

To be announced

## スポーツ特殊講座 (スケート)

松田秀子

### 【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業計画】

[スケート]

1. 期日  
実習 平成18年2月8日(水)・9日(木)  
10日(金)・13日(月)  
14日(火)・15日(水)  
計6日間 午前中のみ
2. 説明会 平成18年1月11日(水) 12:30～13:15  
実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3. 場所 名古屋スポーツセンター(大須)
4. 実習費 7,200円(平成16年度のものでありますので変更する場合があります。)
5. 定員 40名
6. 内容
  - 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
  - 2日目 自然滑走、正しい押し出し
  - 3日目 フォアスケイティング・カーブ滑走
  - 4日目 ストップ、バックスケイティングの基本
  - 5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
  - 6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。